

# 日本地質学会 *News*

Vol.5 No.8 August 2002



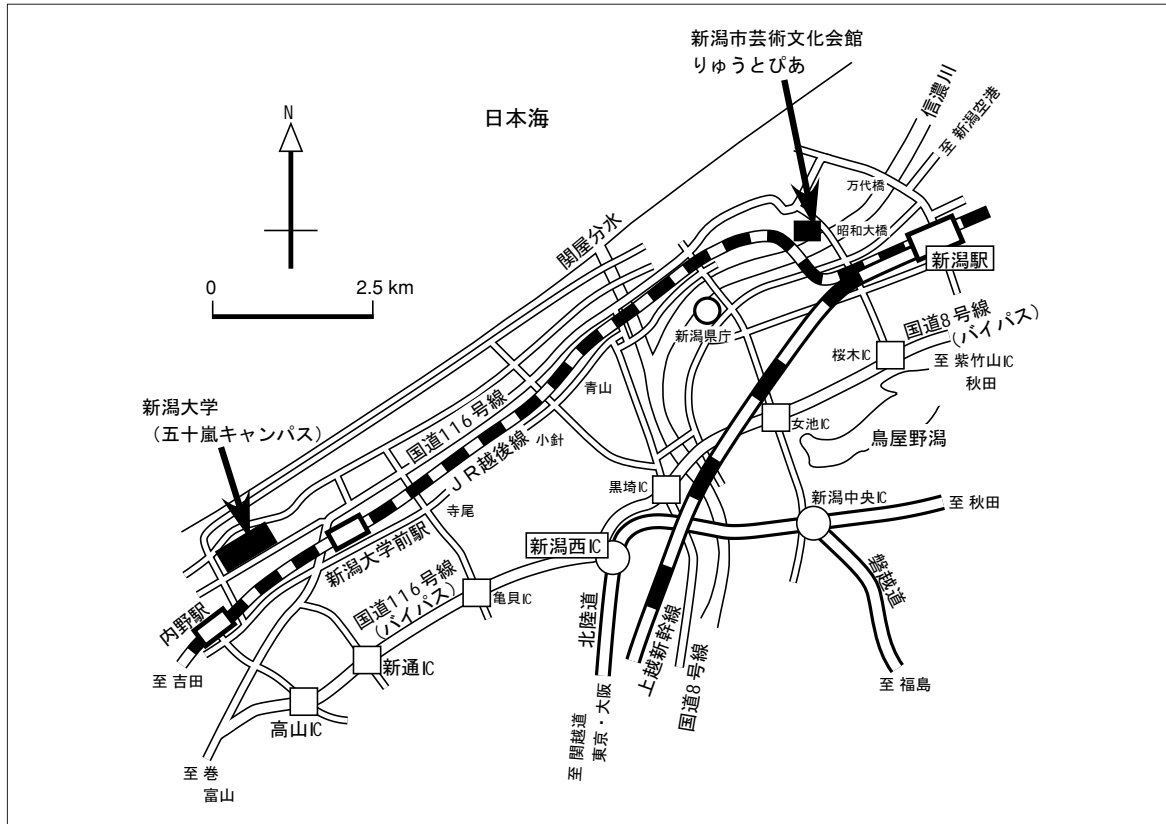
日本地質学会第109年年会・総会  
新潟大会プログラム  
会期2002年9月14日～16日

総会への出席または委任状の提出をお願いいたします

# 日本地質学会第109年年会プログラム

期 日 2002年9月14日(土) 9月16日(月)

会 場 新潟大学教育学部・新潟市芸術文化会館(りゅうとぴあ)



## 会場への交通機関のご案内

### 新潟空港 新潟駅

空港バス30分(350円), タクシー約20分(約3,000円)

### 新潟駅 新潟市芸術文化会館(りゅうとぴあ)・白山会館

新潟交通バス12番線: 系統番号7, 7A 中央循環線 陸上競技場前下車 所要 バス12分(180円), 徒歩5分, タクシー約10分(約1,200円)

### 新潟駅 新潟大学

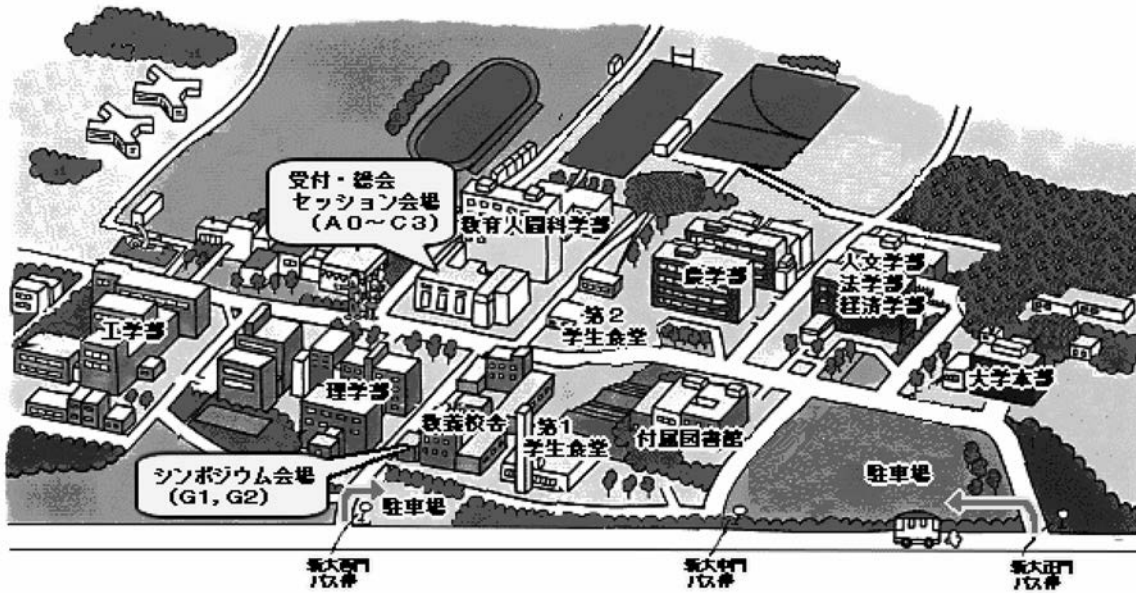
新潟交通バス6・7番線: 西小針経由新潟大学・内野営業所ゆき 新潟大学西門下車 所要バス40分(450円) 徒歩3分

電車: 越後線 22分(230円) 新潟大学前駅下車 徒歩15分

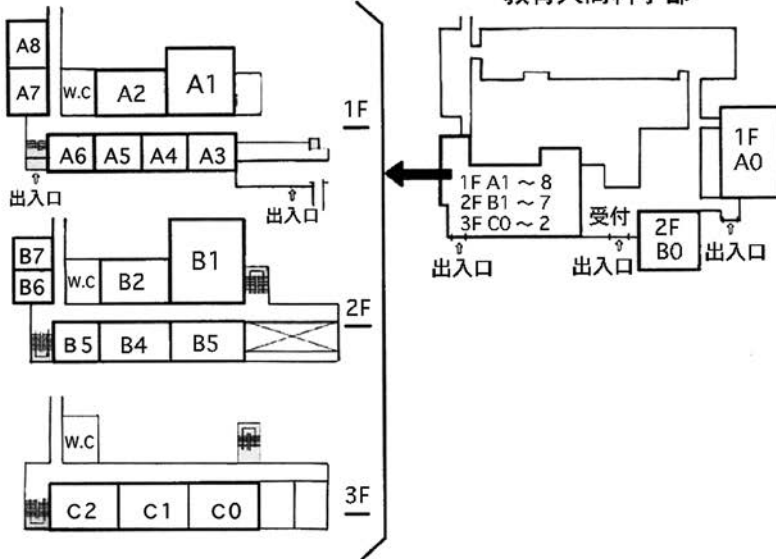
タクシー30分(約4,000円)

### 新潟大学 新潟市芸術文化会館(りゅうとぴあ)・白山会館

新潟駅行きバスにて「市役所前下車」



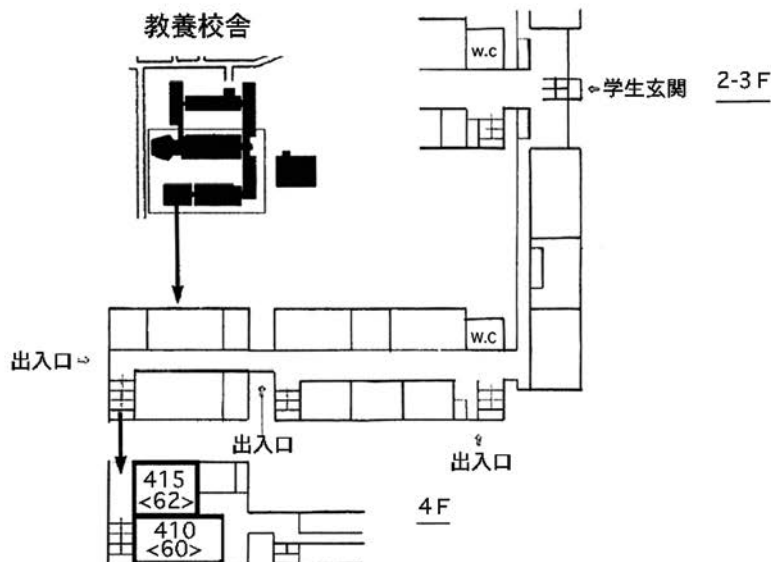
教育人間科学部



受付	(1F)
A0会場	(1F)
A1会場	(1F)
A2会場	(1F)
B1会場	(2F)
B2会場	(2F)
B3会場	(2F)
B4会場	(2F)
C1会場	(3F)
C2会場	(3F)
試写室	B6 (2F)
ポスター会場	B0 (2F)
休憩室	A6 (1F), B5, B7 (2F)
学会本部	A7 (1F)
新潟大会事務局	A8 (1F)
展示販売	A3, A4, A5 (1F)
保育室	C0 (3F)

大会事務局電話 090-5785-3336

教養校舎



# 日 程 表

発表方法	9/14 (土)			9/15 (日)			9/16 (月)				
	会場	PM	夜間	AM	ラフォー	PM	夜間	AM	ラフォー	PM	夜間
A1		14:00 - 17:00	18:00 - 20:00	9:00 - 12:00	ラフォー	14:00 - 17:00	18:00 -	9:00 - 12:00		14:00 - 17:00	18:00 -
		2. オフィオライト		10. 地域地質・層序							
A2		14:00 - 17:00		9:15 - 12:00		14:00-17:00		10:00-12:00		-15:45	
		31. 環境地質	33. 地学教育・地学史								
B1		8 - 17		101 - 111		112 - 123		124-131		132-138	
		17. 堆積作用	15. 炭酸塩岩								
B2		14:00 - 17:15		381 - 392		-14:45		9:00 -		14:00 - 16:45	
		14. 砕屑物組成	堆積								
B3		202 - 214		170-173		174 - 186		215-220		191 - 201	
		4. 紀伊半島	13. 海洋地質								
B4		25-35		82 - 93		94 - 100		60 - 67		70 - 80	
		29. 岩石鉱物一般	9. 沖積低地								
C1		14:00 - 15:30		369 - 380		14:00 - 16:30		9:00 - 12:00		14:00 - 17:00	
		24. 中古生代古生物	22. ノンテク								
C2		299 - 308		283-286		287 - 298		332 - 343		344-350	
		21. テクトニクス	23. 新生代古生物								
A0		14:00 - 17:00		10:00 - 12:00		14:00 - 17:00		9:00 - 12:00		14:00 - 17:00	
		2. オフィオライト, 4. 紀伊半島, 5. マグマ上昇, 酸塩岩, 20. 付加体, 22. ノンテク, 23. 新生代古生物, 25. 脊椎動物化石, 27. 深成岩・火山岩, 30. 情報地質, 32. 応用地質学一般, 33. 地学教育・地学史	20. 付加体	環境地質							
A7		261 - 272		242 - 248		249 - 260		332 - 343		344-350	
		2. オフィオライト, 4. 紀伊半島, 5. マグマ上昇, 酸塩岩, 20. 付加体, 22. ノンテク, 23. 新生代古生物, 25. 脊椎動物化石, 27. 深成岩・火山岩, 30. 情報地質, 32. 応用地質学一般, 33. 地学教育・地学史	20. 付加体	環境地質							
ポスター		12:00-13:00		242 - 248		249 - 260		332 - 343		344-350	
		2. オフィオライト, 4. 紀伊半島, 5. マグマ上昇, 酸塩岩, 20. 付加体, 22. ノンテク, 23. 新生代古生物, 25. 脊椎動物化石, 27. 深成岩・火山岩, 30. 情報地質, 32. 応用地質学一般, 33. 地学教育・地学史	20. 付加体	環境地質							

# 日本地質学会第109年総会

2002年7月1日  
日本地質学会会長 小松正幸

日本地質学会第109年総会を次の議事により開催します。

2002年9月14日(土) 10:00 ~ 12:00

会場 新潟大学教育学部大講義室(A0会場)

- |                              |                           |
|------------------------------|---------------------------|
| 1. 開会                        | 5. 審議事項                   |
| 2. 議長選出                      | 1) 名誉会員の推薦                |
| 3. 報告事項                      | 2) 法人化について                |
| 2002年度事業報告                   | 3) 2003年度(2003.1.1-12.31) |
| 4. 承認を求める事項                  | 事業計画および予算案について            |
| 1) 2003年度役員選挙結果報告            | 6. 日本地質学会各賞授与             |
| 2) 2002年度評議員会議決事項            | 7. 名誉会員ならびに50年会員の顕彰       |
| 3) 2001年度(2001.1.1-12.31)    | 8. その他                    |
| 決算・財産目録および会計監査報告             | 9. 新旧会長挨拶                 |
| 4) 2002年度(2002.1.1-12.31)予算案 | 10. 閉会                    |

## 特別講演

9月14日(土) 9:00 9:40 会場 A0会場

島弧地殻深部の岩石学的構造.....会長 小松正幸(愛媛大学・理)

## 懇親会

9月14日(土) 18:00 20:00 会場 新潟大学第一学生食堂

原則的には予約参加です。予約参加費は正会員5,000円(予約外6,000円)、名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員および会員の家族2,500円(予約外3,500円)です(非会員は会員に準ずる)。お申し込みは8月31日、ニュース誌5月号に申込書(新潟JTB宛)がとじ込んであります。まだ間に合いますのでたくさんのご参加をお願いします。参加費のご送金はJTB新潟支店からの確認書・請求書・振込用紙がお手元に到着後1週間以内をお願いします。

なお、人数に余裕があれば当日参加も受け付けますが、会費は予約外としてそれぞれ1,000円ずつ高くなります。また、懇親会終了後、新潟市街地まで貸し切りバス(実費徴収)を運行しますのでご利用下さい。

## 参加登録等について

事前参加登録:「確認書」を発行します。お申し込み取り扱いはJTB新潟支店です。

今大会では、1)大会参加登録(講演要旨集付)、2)見学旅行、3)懇親会、4)大会当日の弁当(昼食)などの申し込み受付と費用の取り扱いの一切を、JTB新潟支店に依頼しています。とくに大会参加登録およびそれに伴う参加費は、全ての参加者(見学旅行のみの場合も)に必要な基本的なお申し込みです。ただし、会員が同伴する非会員の配偶者ならびに子供については必要ありません。ニュース誌5月号に掲載の申し込み用紙でお申込みくださるようお願いいたします。見学旅行以外は8月31日が切です。まだ間に合います。詳細はニュース誌5月号をご覧ください、事前申込をお願いいたします。

大会当日は、会場受付にJTB新潟発行の「確認書」ご持参して下さい。

当日参加登録費:講演要旨集付きです。講演要旨集が不要の場合でも割引はありません。

正会員:4500円

院生割引会費適用正会員・学生会員・名誉会員・非会員学部学生:3500円

非会員(一般・院生):6000円

# プレ・シンポジウム

シンポジウム実行委員会・日本地質学会 共催

9月13日(金) 13:00-18:15

9月13日(金) 13:00-17:20

## 1. 海洋プレート・オフィオライト研究の最前線

会場：新潟大学教養校舎 G410

世話人：宮下純夫（新潟大）・荒井章司（金沢大）・沖野椰子（東大海洋研）・松本 剛（海洋科学技術センター）・海野 進（静岡大）・小原泰彦（海上保安庁）・藤 浩明（富山大）

< 13:00-15:20 >

シンポジウム開催に当たって.....シンポ実行委員会  
海嶺研究の現状と課題 .....沖野椰子（東大海洋研）  
拡大軸の地球物理学的探査と低速拡大軸の構造

.....松本 剛（海洋科学技術センター）

海洋地殻の岩石学的実体はどこまで分かっているか

.....前田仁一郎（北大）

新モホール計画への期待と戦略 .....荒井章司（金沢大）

地震学からみた海洋プレート構造 .....山田知朗（東大地震研）

< 15:20-15:30 > 休憩

< 15:30-17:55 >

地磁気・重力から見た海洋地殻とリソスフェア構造

.....木戸ゆかり（海洋科学技術センター）

オフィオライト研究の課題 海嶺下のマグマプロセスと海嶺火成  
活動の多様性に関連して .....宮下純夫（新潟大）

海洋性島弧形成におけるオマーンオフィオライト研究の意義 オ  
マーンオフィオライトにおける初期島弧火成活動

.....海野 進・石川剛志・永石一弥（静岡大）

海洋プレート研究場としてのオマーンオフィオライト 構造地質  
学からのアプローチ .....道林克禎（静岡大）

オマーンオフィオライトのセグメント構造とマグマプロセス

.....足立佳子・宮下純夫（新潟大）

地球史とオフィオライト .....丸山茂徳（東工大）

< 17:55-18:15 >

総合討論

## 2. ジュラ系

会場：新潟大学教養校舎 G415

世話人：松岡 篤（新潟大）、八尾 昭（大阪市大）、近藤康生  
（高知大）

キーワード：ジュラ系、国際ジュラ系小委員会

< 13:00-15:05 >

シンポジウムの趣旨説明.....松岡・八尾・近藤  
日本のジュラ系研究と国際ジュラ系小委員会の活動

.....八尾 昭（大阪市大）

イギリスとカナダのトリアス・ジュラ系境界のGSSP候補

.....松岡 篤（新潟大）

ジュラ紀底生動物化石群集研究の現状 .....近藤康生（高知大）

下部ジュラ系放射状化石層序とIGCP458（トリアス・ジュラ系境  
界事件）.....堀 利栄（愛媛大）

中上部ジュラ系放射状化石層序 レビューと今後の展望

.....堀 常東（産総研）

ジュラ紀付加複合体における最近の研究動向とジュラ系層序

.....中江 訓（産総研）

< 15:05-15:20 > 休憩

< 15:20-17:00 >

秩父累帯南帯に分布する斜面エプロン相の最上部ジュラ系

.....石田直人（九州大）

上部ジュラ系鳥巢層群から産出するアンモナイトの地質学的・古  
生物学的意義 .....武井雅彦（新潟大）

南部北上帯の下部ジュラ系の貝化石群集 .....菅原憲博（千葉大）

岐阜県荘川村に分布する手取層群の生層序（予察）ジュラ・白  
亜系の境界について .....小松俊文（熊本大）

国際ジュラ系小委員会活動の歴史 .....佐藤 正（深田地質）

< 17:00-17:20 >

総合討論

## 団体展示

展示は次の会社が行います。

1. 大成基礎設計株式会社 展示内容：(1)地下水流速流向計，(2)地下水フローメーター，
2. 帝国石油株式会社探鉱部，
3. 合資会社石華 展示内容：中国での地質研究・巡検旅行案内，
4. 株式会社日さく新潟支店，
5. 石油資源開発株式会社技術研究所

## 見学旅行

参加申込みは8月10日に切られました。

日本地質学会新潟大会ホームページに参加者への連絡など、随時掲載していますのでご覧ください。

<http://www.sc.niigata-u.ac.jp/geology/niigata.html>

## 夜間小集会

15日(日) 16日(月) 18:00-20:00

会場、名称(世話人)集会の概要の順で簡単に紹介します。

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので、会期中の掲示にご注意ください。

### 15日(日)

A0会場 構造地質研究会(世話人:山路 敦)先端技術の応用によって高度化した深部構造に関する情報を、新潟堆積盆の構造発達を例として勉強する会。

A1会場 地震発生帯の深海掘削計画(世話人:氏家恒太郎・芦寿一郎)沈み込み帯震源域の構造と物質科学に関して、南海トラフと陸上付加体の最新の研究成果を持ち寄り、意見交換を行う。

A2会場 地学教育をどうする 学校と博物館の役割(世話人:柴正博・阿部国広・佐瀬和義・小幡喜一)学校で総合的学習や週5日制がはじまり、これからの学校教育と博物館が果たすべき役割をさぐりたい。

A7(学会本部)地質年代小委員会(日本学術会議地質学研究連絡委員会)(世話人:地質年代小委員会委員長兼岡一郎)日本学術会議地質学研究連絡委員会下に作られている地質年代小委員会の開催。委員以外でも、地質年代に関する研究状況などに関心のある方たちの参加を歓迎。

B1会場 JABEEと大学の地学教育(世話人:三宅康幸)JABEE認定の作業を通じて大学教育の内容が大きく改善されることが期待される。この制度の活用方法について議論する。

B2会場 有孔虫の分類基準に関する研究会(世話人:長谷川四郎・秋元和實)新生代有孔虫の標本データベース構築に向けて、分類学の問題を整理し、今後の研究方針を整理する。

B3会場 環境地質部会・環境地質研究委員会・都市地質連絡協議会(世話人:田村嘉之・風岡 修)地質環境に関する講演、国際地質環境ワークショップ案内、事務連絡等。

B4会場 南極地質研究委員会(世話人:本吉洋一)第42次越冬観測報告、東クイーンモードランド評価飛行報告、第44次夏期観測計画について、第27回SCAR総会(上海)報告、その他。

C1会場 IODPに向けた海洋岩石学:日本の岩石学の役割(世話人:IODP国内科学掘削推進委員会地球内部変動検討専門部会:海野 進ほか)「陸域・海域を融合した岩石学」の新展開とIODPにおける日本発の海洋岩石学を目指した研究連絡網の設立。IODP関連のハードロックを使って研究を行うすべての研究者に参加をよびかけます。

C2会場 炭酸塩堆積学に関する懇談会(世話人:山田茂昭・井川敏恵・松田博貴)炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに、最新研究動向・情報について意見交換を行う。

### 16日(月)

A2会場 地質学史懇談会(島津光夫・鈴木耐元)新潟県の地質学研究史。講演:1)島津光夫:明治・大正時代の新潟・東北の鉱山開発と地質学,2)長谷川 正:新潟県の地学教育,3)茅原一也:新潟大学地質学鉱物学教室の歴史。

B1会場 堆積学研究会夜間小集会(世話人:牧野泰彦・安藤寿

男・伊藤 孝)春季研究集会(盛岡)以降の活動状況を報告する。また、ISC南ア大会および次回開催地についても報告する。

B2会場 研究企画委員会:新しい日本地質学会をめざして(世話人:木村 学・高橋正樹)21世紀の日本地質学会のさらなる発展をめざして、地質学会の基本的理念、目的、それを実現するための各階層の役割や、基本的取り組みなどに関して、議論をいっそう深化充実させる。本号別掲載「新しい日本地質学会をめざして」を参照。

B3会場 地質環境長期安定性研究委員会小集会(世話人:増田俊明・吉田英一)研究委員会の定例会合。

C1会場 考古学への地質学の貢献2(世話人:渡辺正巳・那須孝梯・小倉哲也・別所秀高)新潟県青田遺跡に関連した、荒川隆史氏((財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)ほかの講演とディスカッション。堆積学他の観点から遺跡を考える。

C2会場 ヒマラヤ地質研究委員会(世話人:在田一則・酒井治孝・酒井哲弥)ヒマラヤ・チベット研究の研究情報の交換および第19回HKT開催の相談。

## 専門部会等ランチョン

15日(日) 16日(月) 12:00-13:00

\*ランチョンの名称、(会場)、集会内容の順に記載しています。部会員登録、非登録の如何に関わらず興味のある方はぜひご参加ください。

### 15日(日)

堆積部会(B1会場)7月7日-12日南アフリカのヨハネスブルクで第16回国際堆積学会議(ISC)が開かれ、次回ISCが2006年に福岡で開かれることが正式に決まった。ランチョンでは、組織委員会よりヨハネスブルク会議の様子と日本決定までの経緯を報告して貰ったあと、ISC-2006-Fukuokaへの道筋、今後の予定などについて自由に話し合いたい。

火山部会(B4会場)総会を開催します。みなさま奮ってご参加ください。なお、ご意見・議題等がありましたら、京都大・鎌田浩毅 kamata@gaia.h.kyoto-u.ac.jp および東北大・大場司 ohbatu@mail.cc.tohoku.ac.jp までご連絡下さい。

応用地質部会(C1会場)応用地質部会の今後の運営体制等について食事をしながら議論したいと思います。部会に未登録の方も歓迎。

古生物部会(C2会場)以下の報告と議題を予定している。

1) 報告:古生物部会の活動。評議員会から。行事委員から(新潟大会の準備について)。編集委員と各賞選考委員から。2) 議題:新潟大会の反省。編集幹事と各賞幹事の選出。今後の古生物部会の活動。役員選出(現在の役員の任期は2003年4月まで)。

構造地質部会(A0会場)部会役員の選任、合同学会での地質学会定番セッションのコンピナーの選任、賞の推薦、および部会の運営と構造地質研究会との関係について議論をおこなう。

### 16日(月)

層序部会 地域地質部会合同(A1会場)このランチョンでは、筑波大学の本山 功氏に、最近の古地磁気-微化石複合年代スケールの進展と課題について講演していただく予定。その他、各賞選考や今後の部会活動などが議論される予定。両部会の関

係者に加え、本山氏のレクチャーや両専門部会の活動に興味のある方は、弁当持参でご参加ください。

女性地球科学者の未来を考える研究委員会（B3会場）女性に限らず、科学者が抱える問題をざっくばらんに出し合う。進学、研究テーマ、就職、保育所、旧姓使用、セクハラ、介護、大学や研究所の法人化、任期制、科学研究費などについて意見交換や情報交換ができればよい。男性研究者の出席も大歓迎。

岩石部会（C1部会）

第四紀地質部会（C2会場）部会幹事と役割分担、および当面の活動について。

## 優秀講演賞について

新潟大会より、ポスター発表を対象に「優秀講演賞」を授与することになりました。選考についての具体的な方法、内容は下記のとおりです。

### 1. 賞の対象

ポスター発表。自己あるいは研究グループの研究成果とその意義をわかりやすく、かつアトラクティブに提示されているもの。

### 2. 賞の規模

- ・授与数：ポスター発表総数の3%くらいを目途に授与する。
- ・審査・選考：展示日ごとに行う。
- ・02年度新潟大会の場合、毎日、3件程度とする。

### 3. 選考方法

- ・審査委員会：展示日ごとに委員会を組織する。
- ・審査委員：行事委員会から5名、年会準備委員会から2名に委嘱し、合計7名によって構成する。
- ・選考手順：審査委員は、午後2時までに優秀と思われる発表5件を選び（注1）、各賞選考委員会作成のジャッジペーパーにそれぞれの評価を記入する。
- ・集計されたジャッジペーパーの結果を基にして、各賞選考委員長がその日の優秀講演賞を午後3時までに決定する。その際、行事委員長、大会準備委員長等の意見をきくことができる。

### 4. 公表方法

- ・午後3時過ぎにポスター会場にて受賞ポスターに「優秀講演賞」受賞の大きなラベルをはる。
- ・選ばれた発表は、「地質学会ニュース」に掲載する。

### 5. 賞状の授与

- ・毎日、午後5時に学会本部にて、会長より賞状を授与する。賞状には、講演者全員の名前を記載する。

（注1）選考委員は、自らが講演者（共同講演者を含む）となっている発表を、5件のなかに加えてはならない。

## 発表者へ

一般発表の発表者は招待講演を除いて本学会の会員に限ります（共同発表の場合は筆頭者に適用）。また、止むを得ぬ事情により、予め連記された共同発表者内で筆頭者の変更を希望する場合は、必ず事前に行事委員会（会期前は学会本部へ、会期中は年会本部事務局へ）に連絡して下さい。この場合も「会員に限り1人1題」の発表制限は守るものといたします。代理人による代読、発表会場内での突然の発表者変更、発表順序の変更は一切認めませんのでご注意下さい。とくに口頭発表者の方には発表時間の厳守をお願いいたします。発表に際しては座長の指示に従い、会場の運営がスムーズに行われますようご協力下さい。

### 口頭発表

- ・1題15分（討論時間を含む）
- ・各会場にはOHPが準備されています。
- ・スライドプロジェクターは発表申込時に使用を申し出た講演者に対し、そのつど準備します。スライドを使用される場合は、スライドの左下に赤丸印と映写順の番号を記入のうえ、講演開始60分前まで（9時15分までに講演する方は前日、または当日の遅くとも30分前まで）に試写室担当者に提出してください。終了後は、試写室で返却します
- ・液晶プロジェクターは、セッション予告で「液晶有」としたセッションのみ、会場に準備されています。「液晶無」のセッションでも自前のものを使用することを、あらかじめ世話人が許可している場合は使用可能です。いずれの場合もプロジェクターとパソコンの接続等については、発表者自身が責任を持ち、緊急用としてのOHPも必ずご用意ください。

### ポスターセッション

- \*ポスターサイズについて訂正とお詫び：ポスターサイズについて本ニュース5月号で180cm×180cmとお知らせしましたが、正しくは90cm×180cm以内の誤りでした。深くお詫びするとともに、ポスターは90cm×180cm以内でご準備くださいようお願い申し上げます（行事委員長）。
- \*ポスター発表にたいし、別記の要領にて優秀講演賞が授与されます。奮ってご準備ください。
- ・掲示する際の画紙、テープ等の用意はありません。必要なものは各自でご用意くださるよう、ご協力をお願いします。
- ・展示時間は、9:00-17:00です。展示の準備および撤収はこの時間内に確実に行って下さい。
- ・コアタイムは13:00-14:00です。この時間は必ずポスターに立ち会い、その他の時間は各自の都合によって随時行って下さい。
- ・ボード面積は90cm×180cm（ヨコ×タテ）です。
- ・発表番号・発表題名・発表者名をポスタータイトルとして、必ず明記して下さい。
- ・コンピューターやビデオを使用される場合、機器の準備は各自で行ってください。



# 口頭およびポスター発表

\* 口頭 (O) ・ポスター (P) それぞれに通し番号がついています。すでにお知らせした番号、時間が少々ずれている発表もあるかもしれませんが必ずご確認ください。

\* 口頭発表時間 15分 (質疑応答含む), ポスターコアタイム 13:00 ~ 14:00

## 1. 日本列島とアジア大陸の地質学的連続性

世話人: 田沢純一 (tazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp) ・石渡 明 ・大藤 茂・佐藤興平

9月16日(月) 9:15 11:30 B2会場

座長: 1-4 佐藤興平, 5-7 田沢純一

- O-1 9:15 中国東北部(吉林省)と南部北上帯のベルム系の比較  
.....田沢純一・沈 樹忠・尚 慶華
- O-2 9:30 極東ロシアにおける放散虫研究と2001年度プ  
リモーリエ調査における微化石の検討  
...鈴木紀毅・永広昌之・小嶋 智・鹿納晴尚・  
伊藤谷生・松本みどり・香束卓郎・菅原憲博
- O-3 9:45 ロシア沿海州のジュラ紀付加体中の超苦鉄質火  
山岩とアラスカ型累帯貫入岩体.....石渡 明・  
Sergei A. Shcheka ・ Sergei V. Vysotskiy ・  
市山祐司・小泉一人
- O-4 10:00 日本列島と極東ロシアの中・古生代付加体の対  
比.....小嶋 智・永広昌之・亀高正男・  
大藤 茂・鈴木紀毅・山北 聡
- (10:15-10:30 休憩)
- O-5 10:30 ロシア極東ヒンガン - オホーツク帯のメタロジ  
ェニーとテクトニクス.....佐藤興平・  
A.A.ブルブレフスキー・S.M.ロデオノフ・  
N.P.ロマノフスキー・根建心具
- O-6 10:45 ロシア極東ハンカ地塊の蛍石鉱床を伴う花崗岩  
類: ハロゲンの地球化学.....根建心具・  
佐藤興平・鈴木和博・寺島 滋・  
M.リャザーツェバ・A.I.ハンチュク
- O-7 11:00 東・東南アジアの数値地質構造図(全7図画)  
の出版 マルチレイヤー地質図の試み  
.....佐藤 正・奥村公男
- (11:15-11:30 総合討論)

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-1 南中国の揚子地塊と華夏地塊の境界  
.....八尾 昭・江崎洋一・桑原希世子・  
Liu Jianbo ・ Hao Weicheng ・ Yao Jianxin ・  
Kuang Guodun and Deng Guohui
- P-2 東アジア地質図.....寺岡易司・奥村公男
- P-3 東・東南アジアの数値地質構造図(全7図画)の出版  
マルチレイヤー地質図の実例  
.....奥村公男・佐藤 正

## 2. オフィオライト・マントル岩体・付加体 緑色岩・海洋底岩石

世話人: 石渡 明 (geoishw@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) ・荒井章  
司

9月14日(土) 14:00 17:00 A1会場

座長: 8-11 荒井章司, 12-15 小川勇二郎, 16-17, 総合討論  
石渡 明

- O-8 14:00 サハリン, シュミット半島オフィオライトの岩  
石学的特性 .....早坂康隆・O. A. Melnikov ・  
坂島俊彦・新井孝志・木村 学
- O-9 14:15 残存島弧オフィオライト: 北海道イドンナップ  
帯中の火成岩 礫岩 チャート複合体  
.....植田勇人・宮下純夫
- O-10 14:30 早池峰山周辺に産する超苦鉄質岩類の白金族元  
素濃度.....中川 充
- O-11 14:45 嶺岡オフィオライトとトルコの“アンカラメラ  
ンジュ”との比較.....小川勇二郎
- O-12 15:00 チリ海嶺沈み込み帯東部のタイタオ半島に露出す  
る後期中新世 鮮新世オフィオライト 予報  
.....安間 了・Andres Veloso ・金子慶之・  
寺林 優・太田 努・小宮 剛・片山郁夫・  
折橋祐二・丸山茂徳・Francisco Herve
- O-13 15:15 原生代岩脈群の岩石学的特徴と起源マントルの  
検討 東南極ナビア岩体を例に  
.....鈴木里子・加々美寛雄・石塚英男
- O-14 15:30 オマーン・オフィオライト Hilti 地域における  
層状斑れい岩 Upper Unit 中の優白質貫入岩体  
.....戸松 敬・足立佳子・宮下純夫
- O-15 15:45 オマーン・オフィオライト, 後期火成活動によ  
る海洋底改変過程.....上杉次郎・荒井章司
- O-16 16:00 海洋~島弧に産する高濁濁度かんらん岩の成因  
に関する一考察  
.....阿部なつ江・荒井章司・松影香子・  
二ノ宮小満・Sergei Shcheka ・塚本尚義
- O-17 16:15 かんらん岩への鉄に富む MORB の貫入: 低速  
拡大軸下の深部マグマ過程  
.....荒井章司・松影香子・原久美子・  
KROO-06 航海乗船研究者
- (16:30-16:40) ポスター発表の紹介(1件2分)
- (16:40-17:00) 総合討論: オフィオライト成因論の現状と課題  
コメント: 荒井章司・石渡 明(各5分)

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-4 日高帯ウェンザル超苦鉄質複合岩体の起源と上昇過程  
.....古田 梢・高澤栄一

- P-5 美濃帯舟伏山地域のピクライトについて  
.....市山祐司・石渡 明
- P-6 福井県三方五湖周辺の丹波帯緑色岩類：海洋プレート層序における MORB, OIT, OIA の産状  
.....小泉一人・石渡 明
- P-7 南部ニューイングランド褶曲帯の蛇紋岩に伴われるオフィオライト様岩類.....佐野 栄・渡辺暉夫・兵藤博信・  
E. Leitch・R. Offler
- P-8 オマーンオフィオライト中部, Haylayn ブロック (W. Haymiliyah 地域) における上部ガプロ・ダイクルートゾーンの産状.....山崎 徹・前田仁一郎

### 3. 堆積盆テクトニクス (液晶有)

世話人：山路 敦 (yamaji@kueps.kyoto-u.ac.jp)・保柳康一・荒戸裕之

9月15日(日) 14:45 16:30 A2会場

座長：18-19 山路 敦, 20-22 保柳康一, 23-24 荒戸裕之

- O-18 14:45 磁気特性を用いた堆積環境とテクトニクス 北部フォッサマグナ西縁の新第三系を例に  
.....新妻祥子
- O-19 15:00 北部フォッサマグナ北西縁 (西頸城山地から直江津沖海域) の断層関連褶曲とスラストテクトニクス.....岡村行信
- O-20 15:15 新潟県北蒲原地域における上部中新統~鮮新統椎谷層・西山層の震探シーケンス解析に基づく堆積モデル.....荒戸裕之・永松 健
- O-21 15:30 奥羽山脈および横手盆地の発達史から明らかになる後期中新世初期の圧縮テクトニクス  
.....中嶋 健・檀原 徹・岩野英樹
- O-22 15:45 房総半島新第三系における海溝陸側斜面堆積盆の発達過程.....川上俊介
- O-23 16:00 ドーム構造に発達する断層系のモデル実験：広域応力場の影響.....山田泰広・岡村 仁・田村芳彦・常山 太
- O-24 16:15 東海地域前弧の応力場変遷.....山路 敦・酒井哲弥・荒井晃作・岡村行信

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

P-9 中止(欠番)

P-10 能登半島北西部下部中新統から検出された応力.....小林博文・山路 敦

### 4. 紀伊半島とその周辺における中新世火成作用とテクトニクス (液晶有)

世話人：角井朝昭 (tomo-sumii@aist.go.jp)・新正裕尚・星 博幸・岩野英樹

9月14日(土) 14:00 16:45 B3会場

座長：25-28 星 博幸, 29-32 新正裕尚, 33-36 岩野英樹

- O-25 14:00 紀伊半島の中新世火成岩のK-Ar年代  
.....角井朝昭・新正裕尚
- O-26 14:15 紀伊半島に分布する中期中新世火成岩のジルコンFT年代...岩野英樹・檀原 徹・吉岡 哲・星 博幸・和田稷隆・角井朝昭・新正裕尚
- O-27 14:30 紀伊半島・潮岬火成複合岩体の岩石学  
.....大内智博・吉田武義・中川美千彦・長橋良隆
- O-28 14:45 紀伊半島周辺の中期中新世珪長質火成活動について.....新正裕尚・折橋裕二・角井朝昭・岩野英樹・和田稷隆・檀原 徹
- O-29 15:00 紀伊半島の新生代安山岩類.....佐藤隆春
- O-30 15:15 熊野酸性火成岩類北岩体南部の地質  
.....川上 裕・星 博幸
- O-31 15:30 斜長石の屈折率からみた紀伊半島中期中新世火成岩の分類...山下 透・岩野英樹・星 博幸・角井朝昭・新正裕尚・和田稷隆・檀原 徹
- O-32 15:45 ジルコンの地球化学：バタゴニア地方のアダカイトと熊野酸性岩との比較  
.....折橋裕二・新正裕尚・岩野英樹・平田大二・元木昭寿・檀原 徹
- O-33 16:00 西南日本弧中期中新世火成活動の成因：設楽火山岩類からの制約.....杉原孝充
- O-34 16:15 古地磁気からみた紀伊半島の中新世火砕流堆積物の対比とその意義.....三輪哲夫・星 博幸
- O-35 16:30 紀伊半島とその周辺の古地磁気学.....星 博幸
- O-36 16:45 中止(欠番)

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-11 紀伊半島熊野酸性岩類と房総半島安房層群木の根層Kn-1凝灰岩の対比について.....檀原 徹・星 博幸・岩野英樹・山下 透・三田 勲
- P-12 野外の産状から推定する火砕岩岩脈の形成過程  
.....和田稷隆・三浦大助
- P-13 熊野酸性岩北岩体の内部構造とその形成過程について  
.....吉田武義・皆川 淳・中川美千彦・長橋良隆

### 5. マグマ上昇・噴出システム (液晶有)

世話人：山岸宏光・藤林紀枝 (fujib@ed.niigata-u.ac.jp)・高田 亮

9月15日(日) 15:15 15:45 B4会場

座長：37-38 山岸宏光

- O-37 15:15 溶岩供給率に支配された入水溶岩ローブの形態と定置過程.....海野 進・野中美雪・日高正隆
- O-38 15:30 島根半島中新世水中溶岩の縞状構造の形成過程  
.....三宅康幸・John V. Smith

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-14 海底の珪長質カルデラとその噴出物  
.....鹿野和彦・湯浅真人
- P-15 Geomorphic movement due to the upheaval of magma during the 2000 eruptions of the Usu Volcano, Japan -

- interpretation and image analyses of successive airphotographs.....山岸宏光・渡辺 司・山崎文明
- P-16 帯磁率異方性を用いた浅所貫入岩のマグマ流動解析(予察)~山梨県東部新第三紀小烏山花崗閃緑岩の例~  
.....金丸龍夫
- P-17 割れ目噴火の噴火経緯 観測量とアナログ実験から  
.....高田 亮
- P-18 海底溶岩噴泉堆積物の2段階の発泡とマグマ破砕  
.....藤林紀枝
- P-19 角田岬の水冷スパターと火道堆積物.....寺崎紘一

## 6. 環日本海・オホーツク海の火成活動とテクトニクス

世話人：周藤賢治 (shuto@geo.sc.niigata-u.ac.jp)・池田保夫・石渡 明・岡村 聡・巽 好幸・土谷信高・中川光弘

9月16日(月) 9:00 12:00 B4会場

座長：39-42 中川光弘, 43-46 池田保夫, 47-50 周藤賢治

- O-39 9:00 北海道東部, 阿寒火山地域下のマントル組成の変化.....池田保夫
- O-40 9:15 北部北海道, 雄武地域周辺に産する中期中新世のソレライト質火山岩の岩石学的特徴  
.....武藤 智・周藤賢治
- O-41 9:30 北部北海道, 奥部周辺に産する中期中新世のHMAとアダカイト質安山岩の成因関係  
.....綾部万里・周藤賢治
- O-42 9:45 北部北海道地域における18~10Maの火山活動とテクトニクス 礼文島・宗谷岬地域を中心として  
.....平原由香
- O-43 10:00 北海道北東部の新第三紀火山活動の時空変化-引張応力場での島弧火山活動  
.....廣瀬 亘・中川光弘
- O-44 10:15 北海道中軸部の中期中新世火山活動とそのテクトニクス.....中川光弘・廣瀬 亘
- O-45 10:30 北海道奥尻島, 漸新世~前期中新世の高TiO<sub>2</sub>・P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>玄武岩及び高MgO・高Sr/Y安山岩の岩石学的特徴.....佐藤 誠・周藤賢治
- O-46 10:45 北部北海道と東北日本の起源マントルのSr・Nd同位体組成  
.....周藤賢治・平原由香・石本博之
- O-47 11:00 日本海拡大期に活動した東北日本の火山岩に観測されるPb, Sr, Nd同位体の特徴  
.....能田 成・可児智美・乙藤洋一郎
- O-48 11:15 極東南部シボテアリン地域北部における日本海拡大前後の火山活動史...佐藤佳子・巽 好幸・Vladimir Prikhdko・Yuri Bredstein
- O-49 11:30 宍道地溝帯-日本海-東アフリカ大地溝帯  
.....沢田順弘
- O-50 11:45 北上帯から見いだされた前期白亜紀および古第三紀高Mg安山岩類について  
.....土谷信高・木村純一

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-20 北部フォッサマグナにおける鮮新 更新世火山岩の化学成分の帯状分布.....山岸猪久馬・横山 裕・周藤賢治・所 栄子・大沢隆司
- P-21 北部北海道に産する中新統未分化玄武岩の成因 特に下川地域に産する火山岩類を例に.....石本博之
- P-22 北海道北部, 奥部地域の中期中新世アダカイト質火山岩のK-Ar年代と地球化学  
.....小澤宜史・菅原 誠・岡村 聡・西戸裕嗣
- P-23 富山県南部, 中新統岩稲層を構成する多様な安山岩類の成因.....高橋俊郎
- P-24 能登半島西部, 誌賀町・富来町に産する, 第三紀穴水層カルクアルカリ系列安山岩.....平井佐利・石渡 明
- P-25 北部北上帯岩手県岩泉町小本付近に分布する前期白亜紀火山岩類と小本層の関係.....平元加奈子
- P-26 羽越地域の地殻溶融と分化プロセス  
.....志村俊昭・奥田律子・川井稔子・加々島慎一

## 7. アイソクロンはどこまで使えるか(液晶有)

世話人 中島 隆 tngeoch.nakajima@aist.go.jp ・鈴木和博・加藤文典・原山 智・加々美寛雄

9月16日(月) 14:00 17:00 B4会場

- 座長：51-53 鈴木和博, 54-56 加々美寛雄, 57-59 原山 智
- O-51 14:00 アイソクロン年代の問題点.....中島 隆
- O-52 14:15 アイソクロンを分散させる諸要素  
.....柚原雅樹・加々美寛雄
- O-53 14:30 土生花崗閃緑岩のアバタイトSr同位体組成: 岩体内初生値不均質の検証  
.....壺井基裕・鈴木和博
- O-54 14:45 日高変成帯トッタベツ深成岩体におけるRb-Sr全岩アイソクロンの地質学的意味  
.....神山裕幸・中島 隆
- O-55 15:00 アイソクロンの成立条件 MSWD(0)基準の提唱 .....原山 智
- O-56 15:15 韓国, 春川地域の京畿地塊変成岩のCHIME年代 .....鈴木和博・壺井基裕・Cho Moon-sup
- O-57 15:30 CHIME年代計算方法の比較 .....加藤文典
- O-58 15:45 重複変成帯におけるアイソクロン年代とジルコン年代.....吉田 勝
- O-59 16:00 K-Ar系アイソクロン法について.....板谷徹丸
- (16:15) 総合討論

## 8. Natural AttenuationとNatural Analog Green Geologyの確立のために

世話人：楡井 久 (nirei@mito.ipc.ibaraki.sc.jp)・赤井純治・楠田 隆・丸茂克美・難波謙二・田崎和江・吉田英一

9月16日(月) 9:15 11:30 B3会場

- 60-63 赤井純治, 64-67 丸茂克美
- 9:15 世話人趣旨説明
- O-60 9:30 クエン酸アルミニウム分解性菌の存在と風化機構への関与について

- .....高嶋恒太・難波謙二・楡井 久
- O-61 9:45 阿蘇カルデラに形成される鉄を主体とするバイオマット.....盛一慎吾・田崎和江
- O-62 10:00 阿蘇カルデラにみとめられるリモナイトの特性.....瀬川宏美・田崎和江
- O-63 10:15 重金属がバイオフィーム形成に与える影響 イースト菌培養実験を例として.....朝田隆二・池田頼正・田崎和江
- O-64 10:30 電極表面における生体鉱物化作用.....佐藤一博・田崎和江
- O-65 10:45 Degradation of heavy oil by mixed and pure culture in batch culture.....S. Khodijah Chaerun・Kazue Tazaki・Ruji Asada
- O-66 11:00 原油を多量に含む温泉水中の微生物.....脇元理恵・田崎和江
- O-67 11:15 ナホトカ号重油流出事故後5年半；現場からの研究報告.....田崎和江・青海忠久・柴田晴夫・横畑泰志・沢野伸浩
- O-68 11:30 中止(欠番)
- O-69 11:45 中止(欠番)

9月16日(月) 14:00 16:45 B3会場

- 座長：70-73 田崎和江, 74-77 難波謙二, 78-80 楠田 隆
- O-70 14:00 廃棄物層の安定化問題に関わる場の把握の重要性.....香村一夫・古野邦雄・原 雄
- O-71 14:15 油汚染に関する調査と浄化対策.....上砂正一・渡辺和徳
- O-72 14:30 有機塩素溶剤汚染の微生物による自然浄化と微生物を利用した浄化法...難波謙二・竹内美緒・高橋あすか・浅野泰泉・田中 武・楡井 久
- O-73 14:45 超高压水と微生物を用いた難透水層汚染の浄化手法に関する研究.....竹内美緒・難波謙二・田中 武・楡井 久
- O-74 15:00 天然六価クロムの Natural Analog...楡井 久・楠田 隆・岩本広志・大脇正人・高嶋恒太・原 雄・古野邦雄・矢田恒晴
- O-75 15:15 サンドフィルターによるヒ素汚染地下水の浄化...赤井純治・Shamim Uddin・Hossain Anawar
- O-76 15:30 北海道幌延町周辺における水系の特徴.....藤沢亜希子・青木和弘・田崎和江
- O-77 15:45 新生断層の地下浅所における発生確率 既存断層の分布密度及び内陸地震の発生頻度を用いたナチュラルアナログ的推定.....吉田鎮男・白土博司・沢田臣啓
- O-78 16:00 現場における卓上型X線分析装置を用いた重金属分析.....加藤木真紀・丸茂克美・江橋俊臣
- O-79 16:15 汚染土壌の形態分析.....江橋俊臣・丸茂克美・加藤木真紀・成沢 昇
- O-80 16:30 天然鉱物を用いた重金属の不溶化.....丸茂克美・江橋俊臣
- O-81 16:45 中止(欠番)

9. 第四紀末期における沖積低地の形成史と災害・環境地質の諸問題

世話人：卜部厚志(urabe@gs.niigata-u.ac.jp)・風岡 修・古野邦雄・坂東和郎・三田村宗樹・岡 孝雄・安井 賢・久保田喜裕・高浜信行

9月15日(日) 9:00 12:00 B3会場

- 座長：82-85 安井 賢, 86-89 三田村宗樹, 90-93 卜部厚志
- O-82 9:00 北海道の沖積低地研究の概観と実践例 札幌付近での遺跡関連地震液状化調査および十勝南部の沖積層ボーリング解析.....岡 孝雄
- O-83 9:15 東京湾で確認された古東京谷の沖積層.....石綿しげ子・清水恵介・土井 征
- O-84 9:30 讃岐平野中部における更新統および完新統の層序と更新世後期以降の地形発達史.....川村教一
- O-85 9:45 新潟砂丘形成に関するコンピュータ・シミュレーション.....卯田 強・下倉敏史
- O-86 10:00 越後平野北部, 旧岩船潟における完新世の堆積環境.....安井 賢・皆川昭寛・鴨井幸彦・小林巖雄
- O-87 10:15 珪藻遺骸群集から見た越後平野中央部における完新統上部の古環境変遷について.....矢部英生・安井 賢・卜部厚志・高浜信行・丸山智史
- O-88 10:30 越後平野の沖積層にみられる2つの堆積システム.....卜部厚志・高浜信行・矢部英生
- O-89 10:45 越後平野北部・旧紫雲寺潟形成前後の地質と古地理.....佐藤 充・高浜信行・卜部厚志
- O-90 11:00 大阪平野地下における沖積層の分布の再検討と地下水理特性.....三田村宗樹
- O-91 11:15 千葉県における地下水盆のモニタリング.....香川 淳・古野邦雄・楠田 隆
- O-92 11:30 新潟平野における地震性沈降運動.....高浜信行・卜部厚志
- O-93 11:45 S波ランドストリーマー極浅層反射法探査による新潟平野西縁断層近傍の表面地質構造.....稲崎富士・加野直己

9月15日(日) 14:00 16:00 B3会場

- 座長：94-97 岡孝 雄, 98-100 風岡 修
- O-94 14:00 東京(区部)地盤の地震動特性.....中山俊雄
- O-95 14:15 「大都市圏の平野地下地質・構造の総合解析と地震動予測等の応用研究」の計画...木村克己・長谷川功・堀 和明・堀川晴央・稲崎富士・石井武政・石原与四郎・加野直己・駒澤正夫・宮地良典・水野清秀・村上文敏・村上 裕・村田泰章・中島 礼・中澤 努・西村清和・尾崎正紀・寒川 旭・斎藤文紀・佐竹健治・関口春子・下川浩一・田口雄作・高橋雅紀・内田洋平・脇田浩二・渡邊真人・山口和雄・柳沢幸夫・横倉隆伸・中山俊雄・八戸昭一・中里裕臣
- O-96 14:30 1987年千葉県東方沖地震時にみられた地波現

- 象と地下での実態.....風岡 修・佐藤光男・  
風戸 孝・楠田 隆・酒井 豊・笠原 豊・  
二瓶雅子・加藤晶子・香川 淳・佐藤賢司・  
古野邦雄・香村一夫・原 雄・楡井 久
- O-97 14:45 新潟県北部、胎内川・荒川流域における第四紀  
末期の河成段丘区分と活構造運動...藤平秀一郎
- O-98 15:00 信濃川中流域における第四紀末期の河成段丘面  
編年.....古川昭夫・  
信濃川ネオテクトニクス団体研究グループ
- O-99 15:15 信濃川流域の活構造運動と段丘形成  
.....大塚富男・  
信濃川ネオテクトニクス団体研究グループ
- O-100 15:30 信濃川段丘群の面変位と構造運動.....渡辺秀男  
15:45 総合討論 世話人一同

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-27 阿武隈地域における河川堆積物について  
...鈴木正哉・内藤一樹・上岡 晃・安原正也・渡辺芳夫
- P-28 中止(欠番)
- P-29 越後平野白根層の堆積相(1) 内陸部白根地域のボーリン  
グコア解析 .....田中里志・小林巖雄・鴨井幸彦・  
安井 賢・伊豫田成子・佐藤真弓・立石雅昭
- P-30 北海道東部、根室市納沙布岬～えりも町襟裳岬のイベン  
ト層序対比に基づく、津波遡上規模の相対評価  
.....重野聖之・七山 太・古川竜太・佐竹健治・  
三浦健一郎・牧野彰人・小坂橋重一・石井正之
- P-31 新潟平野東縁“庵地段丘”における後期更新世のテクト  
ニクスと植生変化.....久保田喜裕・成田暁史
- P-32 上町断層北部の完新世活動度評価 新淀川におけるS波  
地震探査と群列ボーリングコア解析の成果  
.....三浦健一郎・七山 太・内海 実・安原盛明・  
横山芳春・杉山雄一・北田奈緒子・竹村恵二
- P-33 兵庫県南部地震による西宮高等学校の地盤変状 地中レ  
ーダを用いた人工地盤の解析 .....香田達也・  
万木純一郎・川瀬信一・宮田隆夫・田結庄良昭
- P-34 松山平野の基盤構造と2001年芸予地震における住宅被  
害との関係.....市原 寛・榊原正幸・小松正幸・  
大野一郎・堀 利栄

10. 地域地質・地域層序

世話人：斎藤 眞 (saitomkt@ni.aist.go.jp), 岡田 誠・天野一男

9月15日(日) 9:15 12:00 A1会場

- 座長：101-104 斎藤 眞, 105-108 柏木健司, 109-111 岩本  
広志
- O-101 9:15 西九州海浦地域の黒瀬川構造帯中・古生界層序  
の改訂とジュラ系田浦層群(新称)の層序  
.....太田 亨・坂井 卓
- O-102 9:30 熊本県ベルム系水越層の地質とフズリナ・腕足  
類化石群.....長谷川怜思
- O-103 9:45 九州三郡帯の地質構造 特にパイルナップ構造  
について .....赤嶺辰之介・豊原富士夫
- O-104 10:00 四万十帯における後期白亜紀から古第三紀の発

達史：四国西部を例として

- .....小柳津 篤・君波和雄
- O-105 10:15 山口県見島における玄武岩類のフィッシュン・  
トラック年代.....松本俊雄
- O-106 10:30 広島県西部細見谷地域の地質.....古川耕三
- O-107 10:45 芸予諸島 塩飽諸島海域における海底活断層の  
概要.....水野篤行・横井康孝・島崎哲也
- O-108 11:00 香川県豊島, 土庄層群唐櫃層の古第三紀渦鞭毛  
藻化石群集とその意義.....栗田裕司・松原尚志
- O-109 11:15 兵庫県中東部山東 - 青垣地域の超丹波帯  
.....竹村静夫・前川 淳
- O-110 11:30 紀伊半島東部の秩父累帯の地質構造  
.....柏木健司
- O-111 11:45 飛騨外縁帯一重ヶ根～福地地域における下部～  
中部古生界 岩相層序区分と放散虫年代につい  
て .....栗原敏之

9月15日(日) 14:00 17:00 A1会場

- 座長：112-115 柳沢幸夫, 116-119 天野一男, 120-123 栗田  
裕司
- O-112 14:00 跡津川断層東端部のトレンチ調査結果  
.....野村誠紀・黒澤範一
- O-113 14:15 愛知県南設楽群鳳来町に分布する阿寺七滝礫岩  
層の礫の起源.....宇井啓高・菊 仁子
- O-114 14:30 岐阜県美濃加茂盆地、中新統蜂屋層下部層の  
地質とフィッシュン・トラック年代  
.....鹿野勤次
- O-115 14:45 瀬戸内中新統瑞浪層群“宍洞砂岩相”に含まれ  
る安山岩質自破砕状溶岩巨礫のK-Ar年代  
.....林 譲治
- O-116 15:00 富山県・石川県に分布する前期中新世火山岩類  
の古地磁気.....伊藤康人・北田敦也・  
玉置真知子・渡辺真人
- O-117 15:15 フォッサマグナにおける後期新生代の造構・火  
成作用と地殻の熱構造.....足立久男
- O-118 15:30 北部フォッサマグナ、中新統内村層の層序と碎  
屑物組成.....山田伊久子・備前信之・小坂共栄
- O-119 15:45 新潟県上越市西部の鮮新統の珪藻化石層序と鮮  
新世における日本海の高海洋環境  
.....柳沢幸夫・天野和孝
- O-120 16:00 新潟県加茂～三条地域における鮮新・更新統の  
層序.....横山一輝・小林巖雄・立石雅昭
- O-121 16:15 差分干渉SAR技術を用いた地盤変動量調査技  
術の紹介.....樋口朋之・竹内正次・大鷲昇一・  
三田 勲・中村通彦・野田克也
- O-122 16:30 房総半島南端地域の千倉層の地質と層序(その2)  
.....岩本広志・安房団体研究グループ
- O-123 16:45 東京湾中ノ瀬の層序と成因  
.....細矢卓志・小野寺幸夫・大鹿明文

9月16日(月) 10:00 12:00 A1会場

- 座長：124-127 鎌田耕太郎, 128-131 川村寿郎
- O-124 10:00 山中地溝帯東域の白亜系と二枚貝化石相  
.....田中 均・高橋 努・坂本大輔・

		一瀬めぐみ・加登住誠	P-41	隠岐島後における漸新統時張山層と中新統郡層の関係について.....落合俊夫
O-125	10:15	黒瀬川帯における左横ずれ運動の検証 関東山地北西部十石峠地域下部白亜系の例 .....一瀬めぐみ・久田健一郎・田中 均・高橋 努	P-42	鳥取県気高部における新生代地質と地殻変形 .....矢野孝雄・岡田昭明・外谷 洋・下田順子
O-126	10:30	栃木県葛生地域に分布する礫質石灰岩の形成過程.....上松佐知子・指田勝男	P-43	兵庫県北部, 神鍋単成火山群, 太田, 神鍋火山のテフラ年代.....棚瀬充史・石丸恒存・古澤 明・二ノ宮淳・Andrew James Martin
O-127	10:45	群馬県北部, 藤原湖周辺の新第三系 特に粟沢層について .....越谷 賢・小坂共栄	P-44	丹波帯北部におけるジュラ紀付加複合体の地質構造 5万分の1地質図幅「西津, 熊川, 敦賀, 竹生島」地域 .....中江 訓・栗本史雄
O-128	11:00	群馬県北東部, 仁下又沢周辺に分布する珪長質火砕岩の層序.....安田智広・小坂共栄	P-45	福井県南条山地のジュラ系に産する碎屑性岩脈群について.....梅田美由紀・田賀秀子
O-129	11:15	茨城県北部の古第三系, 石城層から浅貝層にかけての堆積相変化と古地理的意義 .....上田庸平・安藤寿男	P-46	紀伊半島中央部, 奈良県天川村の秩父累帯(その3) .....加藤 潔・清水宏典・小林洋一・坂 幸恭
O-130	11:30	棚倉断層沿いに分布する中新世火砕流堆積物 .....天野一男・杉山 舞・松原典孝・大森信義	P-47	赤石構造帯北部の秩父帯の地質と放散虫化石...村松 武
O-131	11:45	仙台市西部における上部中新統火山碎屑性堆積物の層序 海岸線付近での火成活動 .....大場 司・杉山 航	P-48	岐阜県可児層群平牧累層(中新統)の層序の再検討 .....細山光也
			P-49	稠密重力測定に基づく濃尾平野の地下構造解析 .....足立 守・萩田直子・志知龍一・山本明彦
	9月16日(月)	14:00 15:45 A1会場	P-50	防災科学技術研究所による阿寺断層掘削井(岐阜県恵那郡川上村ほか).....松田達生・小林健太郎・池田隆司
座長:	132-135	吉田孝紀, 136-138 田中 均	P-51	石川県小松市北部ならびに辰口町地域の地質 .....塚脇真二・冨井康博・前田崇志
O-132	14:00	岩手県日詰地方の新第三系の層序と地質構造 .....照井一明	P-52	手取層群に含まれる含硫黄芳香族炭化水素 .....日比野剛・長谷川 卓
O-133	14:15	早池峰帯/北部北上帯境界と両帯の比較 5万分の1「早池峰山」図幅の地域地質(その4) .....川村寿郎・今野 享・川村信人・北上古生層研究グループ	P-53	姫川中流域, 飛騨外縁帯地域の地質と地すべり .....森川篤平・小坂共栄・高濱信行
O-134	14:30	八甲田カルデラ起源火砕流堆積物の古地磁気層序.....植木岳雪・鈴木毅彦	P-54	北アルプス南部地域の梓川断層 .....永吉哲也・大塚 勉
O-135	14:45	小川原湖南方に分布する野辺地層の層序と堆積相.....鎌田耕太郎	P-55	北部フォッサマグナ, 高妻山貫入岩類のFT年代 .....古川竜太・長森英明
O-136	15:00	北海道北部の遠別層・声問層と勇知層の地質年代.....嵯我山積	P-56	長野 新潟県境地域の中新 更新統の火山灰層序 .....長森英明・古川竜太
O-137	15:15	北太平洋地域第三紀珪藻化石層序の実務的利用における利点と弱点: その現状と展望 .....秋葉文雄	P-57	重力異常と比抵抗分布からみた新潟平野北縁部における基盤構造.....大竹正巳・松久保和人・山下欣一・百瀬 敦・満田信一・持永竜朗
O-138	15:30	ベトナム中部 Truong Son 褶曲帯の古生代碎屑岩の特徴と起源.....吉田孝紀・菅原 勝・波田重熙・Nguyen Xuan Hop	P-58	甲府盆地北縁に分布する後期新生代火成岩類の古地磁気 .....中村宣仁・星 博幸
			P-59	関東山地北東部岳山クリッペを構成する“跡倉層”の未固時変形と熱水変質.....近重史朗・小坂和夫
			P-60	関東山地の黒瀬川帯「名栗断層帯」 .....猿渡ふみよ・松田将志・島村哲也・坂 幸恭
	9月14日(土)	9:00 17:00 ポスター会場	P-61	江花 虫笠断層の運動の消長.....初倉克幹
P-35		沖縄島北部名護市における第四系非石灰質堆積物の層序の再検討.....山下阿須佳・立石雅昭	P-62	南部北上山地, 上八瀬一飯森地域の層序と地質年代 .....御前明洋・永広昌之
P-36		対馬北部上対馬地域における第三紀層の海底地すべり堆積物.....山口悠哉・於保幸正・平山恭之	P-63	津軽海峡及び下北半島西部の地質構造と重力構造 .....伝法谷宣洋・駒澤正夫・垣見俊弘・植原茂次・高智英二郎・市川八州夫
P-37		九州中央部の秩父帯の地質構造.....斎藤 眞・利光誠一	P-64	北海道における後期新生代の地史と熱水活動史 .....八幡正弘
P-38		四国西部四万十帯の大規模褶曲 .....坂口隆昭・小柳津篤・君波和雄	P-65	下部蝦夷層群における“蛇紋岩礫岩”の堆積とその意義 .....瀧 修一・吉田孝紀・伊庭靖弘・菅原 勝・疋田吉誠
P-39		高松クレーター(コールドロン)における1700mボーリングの変質鉱物.....渡辺弘樹・長谷川修一・歌田 実	P-66	ロシア南部ゴルニアルタイ山地カンブリア紀付加体中の古海山起源石灰岩の層序
P-40		広島県中央部, 世羅台地で見い出された漸新統 .....山崎博史・鈴木盛久・菅 孝明・原田浩毅・林 武広・吉村典久		

- .....内尾優子・磯崎行雄・Mikhail. Buslov・  
太田 努, 宇都宮敦, 丸山茂徳
- P-67 1999年8月ズミット地震の湖底地震断層の音波探査結果.....金城聡馬・岡村 眞・松岡裕美・粟田泰夫・  
Emre O.・Ozalp S.・Dogan A.・Tokay F.
- P-68 ニュージーランド北島, ワイパバ帯の緑色岩類とチャート・石灰質岩の初生的関係.....榊原正幸・佐竹 敦・  
藤木 徹・堀 利栄・相田吉昭・竹村厚司・  
酒井豊三郎・竹村静夫・鎌田祥仁・山北 聡・  
鈴木紀毅・中村洋一・小玉一人・古谷野隆行・  
Hamish Campbell・Bernhard Spörli
- P-69 ニュージーランド北島モツカワスイ島から産出した三疊紀放射状化石.....鎌田祥仁・相田吉昭・竹村厚司・  
山北 聡・堀 利栄・鈴木紀毅・竹村静夫・  
小玉一人・榊原正幸・黒崎要子・那須由紀恵・  
大金 薫・古谷野隆行・佐竹 敦・坂本慎吾・  
中村洋一・酒井豊三郎・Hamish Campbell・  
Bernhard Spörli
- P-70 ニュージーランド北島バキヒ島層状チャートから産出した三疊紀末放射状化石.....堀 利栄・相田吉昭・  
竹村厚司・山北 聡・小玉一人・榊原正幸・  
鎌田祥仁・鈴木紀毅・竹村静夫・大金 薫・  
古谷野隆行・佐竹 敦・坂本慎吾・中村洋一・  
酒井豊三郎・Hamish Campbell・Bernhard Spörli
- P-71 ニュージーランド北島ボヌイ島より産出するジュラ紀高緯度帯放射状化石.....相田吉昭・竹村厚司・山北 聡・  
堀 利栄・小玉一人・榊原正幸・鎌田祥仁・  
鈴木紀毅・竹村静夫・大金 薫・古谷野隆行・  
佐竹 敦・坂本慎吾・中村洋一・酒井豊三郎・  
Hamish Campbell・Bernhard Spörli

### 11. 年代層序スケール

世話人: 角井朝昭, 亀尾浩司, 岡田 誠 (okada@mito.ipc.ibaraki.ac.jp)

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-72 火砕流堆積物とその2次堆積物の石英粒子のESR年代.....水垣桂子
- P-73 群馬県富岡地域鮎川セクションにおける珪藻生層序D55と40Ar-39Ar年代との対応.....高橋雅紀・須藤 斎・柳沢幸夫
- P-74 前期カンパニアン期浮遊性有孔虫による大型化石層序の年代決定.....守屋和佳・西 弘嗣・棚部一成

### 12. 地域間層序対比(液晶有)

世話人: 黒川勝己, 岡田 誠 (okada@mito.ipc.ibaraki.ac.jp)

9月16日(月) 15:45 17:00 A1会場

- 座長: 139-143 岡田 誠
- O-139 15:45 長岡市東方東山丘陵の鮮新-更新世テフラ層とその対比.....黒川勝己・坂井 一・樋口裕也・野口典弘

- O-140 16:00 金沢 富山地域に分布する鮮新 更新統のテフラ対比.....田村糸子・山崎晴雄
- O-141 16:15 富山平野東部における“呉羽山礫層”の堆積時期 谷口火砕流堆積物の古地磁気特性からみた時代論と“呉羽山礫層”相当層の再検討.....青砥俊博・原山 智
- O-142 16:30 房総半島, 上総層群中に発見された古期御岳火山起源のテフラとその地質学的重要性.....竹下欣宏
- O-143 16:45 房総半島に分布する三浦層群安野層からの鮮新統広域火山灰の検出.....里口保文

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-75 青森県西津軽地域における鮮新統テフラの対比.....藤田一世
- P-76 新潟地域における鮮新世テフラ層とその対比.....樋口裕也・黒川勝己
- P-77 新潟地域と房総半島の更新世前期テフラ層の広域対比.....坂井 一
- P-78 火山ガラスの化学組成の統計的検討 新潟地域周辺の中新世~更新世前期テフラ層について.....平中宏典・坂井 一・樋口裕也・黒川勝己
- P-79 テフラ鍵層に基づく房総半島の上総層群梅ヶ瀬層・大田代層と豊房層群加茂層との対比.....藤岡導明・小竹信宏
- P-80 愛媛県野村町周辺に分布するいわゆるNG-1テフラの岩石学的特徴.....岩崎仁美・榊原正幸

### 13. 海洋地質(液晶有)

世話人: 西村 昭 (akira-nishimura@aist.go.jp)・湯浅真人・氏家宏

9月15日(日) 10:00 11:45 B2会場

- 座長: 144-147 舟川 哲, 148-150 瀬戸浩二
- O-144 10:00 銚子掘削コアの化学分析による後期更新世海洋環境変動の復元.....岡田 誠・丸田佳奈
- O-145 10:15 陸源有機物の運搬・保存過程と環境変動の関連 銚子地域更新統コアの研究を中心として.....大村亜希子・石川仁子・保柳康一・  
ElMarsry. M.・斉藤実篤・平 朝彦
- O-146 10:30 酸素・炭素同位体比から見たオホーツク海における最終氷期以降の古海洋.....荒木久美子・瀬戸浩二・池原 研
- O-147 10:45 過去3万年間のオホーツク海における中層環境の変遷 オホーツク海西部で採取されたXP98 PC4 コア中の底生有孔虫群集に基づいて.....吉本直一・長谷川四郎
- O-148 11:00 三陸沖における深海掘削試料の底生有孔虫化石群集に基づく後期中新世以降の古水深変化と古海洋変動.....岡本 恵・長谷川四郎
- O-149 11:15 後期始新世から漸新世の南大西洋(ODP Site 689)における海洋古環境の変化.....舟川 哲・西 弘嗣
- O-150 11:30 中央北太平洋ヘスライズ・コアにおける過去

37万年間の古海洋環境変動：黒潮統流の認知は？ .....氏家 宏・J. C. Ingle  
O-151 11:45 中止(欠番)

9月15日(日) 14:00 16:30 B2会場

座長：152-155 戸丸 仁, 156-158 木戸ゆかり, 159-161 辻野 匠

- O-152 14:00 高分解能音波探査記録に基づく山陰 北陸沖縁辺台地の堆積パターン .....片山 肇・池原 研・佐藤幹夫
- O-153 14:15 堆積速度が早い深海の泥質堆積物はどのように形成されるのだろうか？：相模湾における例 .....北里 洋
- O-154 14:30 西津軽沖奥尻海嶺付近の褶曲構造とGrowth Strata .....辻野 匠・岡村行信
- O-155 14:45 四国海盆東部, 三河海山・西承応海山産火山岩の岩石学的研究 .....佐藤 暢・町田嗣樹・石井輝秋
- O-156 15:00 海底熱水活動と初期生物の記録 32億年前, 西オーストラリア, ビルバラ・クラトンの例 ...清川昌一・伊藤 孝・池原 実・北島富美男
- O-157 15:15 ODP Leg 204 Hydrate Ridge 調査速報 .....戸丸 仁
- O-158 15:30 “うりずん露頭”の島尻層 知念層 琉球石灰岩：急速な浅海化とメタン・イベント ...松本 良・武内里香・中川 洋・佐藤時幸・小松原純子・井龍康文・松田博貴・小田原啓・ロバート ジェンキンス・チェン イーフェン
- O-159 15:45 相模湾初島沖海底活断層における生物コロニーと流体挙動.....徐 垣・町山栄章・岩瀬良一・K. Brown・M. Tryon
- O-160 16:00 襟裳海山及びその北西域に沈み込む海山周辺の地球物理学的特徴 .....木戸ゆかり・鶴 哲郎・仲西理子・藤岡換太郎・よこすか「YK02-02」航海乗船者
- O-161 16:15 千島海溝に沈み込んだカデ海山のもたらした水理地質とテクトニクス - 巨大な化学合成生物群集の発見とその意義 .....藤岡換太郎・佐藤孝子・三輪哲也・能木裕一・加藤千明・鶴 哲郎・仲西理子・木戸ゆかり・YK02-02乗船研究者

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-81 オホーツク海の海洋環境を反映した珪藻遺骸群集 .....志賀健司・小泉 格
- P-82 北大西洋西縁での氷期・間氷期の移行期(酸素同位体ステージ8-10)におけるDeep Western Boundary Currentの変動：粒度及び帯磁率異方性の変化からの推定.....横川美和・Sven-O. Franz
- P-83 銚子地域第四系のボーリングコアによる古環境復元 浮遊性有孔虫化石群集変化から推定される寒暖流変動 .....五十嵐厚夫・斉藤実篤・平 朝彦・銚子コア研究グループ

- P-84 海底堆積物コア試料のモニタリング 有機炭素含有量, 色彩, 帯磁率, 含水比の2年間の結果から .....杉山和弘・近藤朋美・宮本元行・原田尚美・齋藤千鶴・柏瀬憲彦・阿波根直一・木元克典
- P-85 地層探査記録から見た鳥取県西部, 美保湾の海底地質 .....井上卓彦・塩屋藤彦・為季克章・井内美郎
- P-86 燧灘の海底地質について(バブルバルサー記録より) .....塩屋藤彦・井内美郎・井上卓彦・大平 亮
- P-87 海上ボーリングコアの解析結果に基づく, 中央構造線活断層系伊予セグメント西縁部, 下灘沖断層の完新世活動性評価.....徳間伸介・七山 太・大塚一広・三浦健一郎・池田倫治・金山清一・小林修二・山本高司・安間 恵・横山芳春・安原盛明・杉山雄一・佃 栄吉
- P-88 相良油田掘削計画~ボーリング調査による相良層群の岩相分布と基礎物性(速報)~ .....平野 聡・相良掘削計画研究者一同
- P-89 相良油田における炭化水素の化学的特徴 .....土岐知弘・蒲生俊敬・角皆 潤・相良掘削計画研究者一同
- P-90 八重山諸島沖黒島海丘周辺の地質構造と表層現象 KY02-01, NT02-08 調査航海速報 .....町山栄章・徐 垣・岩瀬良一・Kevin M. Brown
- P-91 流域から海底へ, 細粒碎屑性粒子の供給・堆積状況 噴火湾流入河川・海底堆積物中の化学組成分布 .....仁科健二・菅 和哉
- P-92 メコン河口の塩水遡上観測(2002年1月) .....吹田 歩・徳岡隆夫・西村清和・立石雅昭・Nguyen Van Lap・Ta Thi Kim Oanh
- P-93 シロウリガイに含まれるラジカル濃度分布と湧水環境の関連性.....谷 篤史・上野剛弘
- P-94 日本海東縁海底の活断層とバクテリアマット 潜水船による第一次総合調査の成果 .....竹内 章・張 勤・蒲生俊敬・笹山雄一・岡村行信・佐竹健二・加藤千秋
- P-95 北海道周辺海域の天然ガスハイドレートとBSR .....佐藤幹夫
- P-96 メキシコ湾のメタン湧水とガスハイドレート MD-July2002航海より(速報) .....チェン イーフェン・松本 良・チャールス ポール・ビル ウィンター

14. 碎屑物組成・組織と続成作用

世話人：竹内 誠 (takeuchi@eps.nagoya-u.ac.jp)・公文富士夫

9月15日(日) 9:00 11:00 B1会場

- 座長：162-165 竹内 誠, 166-169 久田健一郎
- O-162 9:00 西南日本各地帯に分布する古生代砂岩中の碎屑性ザクロ石の特徴.....宮本隆実・桑水流淳二・富永満生・山元大介
- O-163 9:15 手取層群産出オーソコーツァイト礫のCathodoluminescence 観察 .....久田健一郎・山上雄介・小室光世
- O-164 9:30 紀伊半島四万十累帯寺岫層に見られるコニアシ



- アン期の砂岩組成変化.....別所孝範  
 O-165 9:45 中新統八重山層群西表層の砂岩組成  
 .....齋藤 有・増田富士雄  
 O-166 10:00 基礎試錘「東山」のCuttings・コア試料  
 の構成鉱物とその特徴.....福井真珠・吉村尚久  
 O-167 10:15 北海道東部網走湾における現世堆積作用と砂粒  
 組成.....野田 篤・片山 肇・池原 研  
 O-168 10:30 メキシコ湾底から採取されたドリル・コアの粘  
 土の鉱物・化学組成.....青木三郎・神山宣彦  
 O-169 10:45 砕屑岩の化学組成と粒度との関連  
 .....君波和雄・藤井久美子

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-97 母体層群と松ヶ平層の砂岩組成 古生代付加体の砕屑物  
 供給源 .....望月 貴・川村寿郎・吉田孝紀・  
 川村信人・永田秀尚  
 P-98 砕屑性重鉱物による三波川帯大歩危地域の砂質片岩と四  
 万十帯砂岩の比較.....田中姿郎・金子吾朗・足立 守  
 P-99 太平洋堆積物のREE組成を決定づける主要因  
 .....武辺勝道・山本綱志

15. 炭酸塩岩の起源と地球環境(液晶有)

世話人: 山田 努 (yamada@dges.tohoku.ac.jp)・坂井三郎

9月15日(日) 11:00 12:00 B1会場

- 座長: 170-173 松田博貴  
 O-170 11:00 Guam島のサンゴ骨格に記録されたWPWPの  
 消長と移動.....浅海竜司・山田 努・井龍康文  
 O-171 11:15 サンゴ骨格の酸素同位体比とSr/Ca比を用いた  
 古水温・古塩分計の信頼性  
 .....山田 努・浅海竜司・井龍康文  
 O-172 11:30 陸成炭酸塩沈殿物の縞の起源.....狩野彰宏  
 O-173 11:45 増水時のトゥファ堆積場での水質変化  
 .....川合達也

9月15日(日) 14:00 17:15 B1会場

- 座長: 174-177 山田 努, 178-181 井龍康文, 182-186 佐野  
 弘好  
 O-174 14:00 南大東島星野洞産ストロー管に基づく環境解析  
 .....洲脇美智子・松田博貴  
 O-175 14:15 南琉球弧の更新統堆積物の変遷とその規制要因  
 .....山田茂昭・松田博貴  
 O-176 14:30 沖縄本島南部, 後期更新世港川層の続成相  
 .....穴井剛志・松田博貴  
 O-177 14:45 沖縄本島, 本部半島基部に分布する下部第四系  
 層序の再検討.....山本和幸・井龍康文・  
 佐藤時幸・中川 洋・松田博貴  
 O-178 15:00 中国湖北省の最末期原生代の含微生物炭酸 リ  
 ン酸塩堆積物.....古城智子  
 O-179 15:15 オーストラリアN.S.W.州のシルル系石灰岩中  
 の微環境とマイクロバイアライトの多様性  
 .....足立奈津子・江崎洋一・John Pickett  
 O-180 15:30 カナダ, BC州南部Cache Creek テレーンの中部

- ベルム系 Marble Canyon 石灰岩の岩相(予報)  
 .....佐野弘好・井川敏恵・尾上哲治  
 O-181 15:45 ベルム系海山型石灰岩体に見られるマイクロバ  
 イアライトの側方変化 岐阜県郡上八幡での例  
 .....井川敏恵  
 O-182 16:00 中国貴州省南部, 板庚地域の最下部トリアス系  
 マイクロバイアライトの特異な産状  
 .....江崎洋一・劉 建波・足立奈津子  
 O-183 16:15 下部白亜系美良布石灰岩に含まれるoidの特  
 徴と成因.....大賀博道・井龍康文  
 O-184 16:30 青森県深浦町, 鯉ヶ沢町地域のドロマイトおよ  
 びドロマイトノジュールの成因  
 .....五月女亮・井龍康文  
 O-185 16:45 石垣島, 名蔵川河口域における粘土径赤土粒子  
 の流出と炭酸塩粒子との反応  
 .....山本 聰・新良里美・登川明香  
 O-186 17:00 白亜紀から現在までの浅海および深海への炭酸  
 塩フラックス.....中森 亨・北村京子

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-100 中国貴州省, ベルム系石灰海綿礁に特徴的な*Archaeo-*  
*lithoporella* とセメントの産状  
 .....中井紗織・江崎洋一・劉 建波  
 P-101 秋吉台帰り水学術第1号ボーリングコア(中部ベルム系)  
 の堆積相.....中澤 努・上野勝美  
 P-102 アマゾン堆積盆の石炭系上部に見られる炭酸塩堆積サイ  
 クルとドロマイトの起源  
 .....ニエロ松田・松本 良・アザンブルジャ, R.  
 P-103 静岡県掛川地域の鮮新統シルト岩中より産出した含シロ  
 ウリガイ類化石炭酸塩岩の形成過程~大型生物の棲み込  
 みによる湧水持続効果~ .....延原尊美  
 P-104 炭酸塩鉱物分離に基づく同位体測定とその意義~ マリア  
 ナ前弧域, コニカル海山の炭酸塩チムニ - の場合 ~  
 .....加藤和浩・和田秀樹・藤岡換太郎  
 P-105 沖縄県南大東島における二回のドロマイト化作用と堆積  
 岩岩石学的特徴.....橋本直明・松田博貴  
 P-106 沖縄県北大東島の地表に分布するドロマイトの形成過程~  
 ニウエ島産ドロマイトとの比較から~  
 .....鈴木由香・井龍康文・山田 努  
 P-107 化石サンゴの酸素同位体比を用いて復元した海水温の不  
 確実性.....小林久子・井龍康文・山田 努・浅海竜司  
 P-108 炭酸塩試料に施した前処理による同位体比の変化  
 .....邊見紗知・山田 努・浅海竜司  
 P-109 海草藻場における堆積物の特徴と堆積構造  
 .....藤田慶太・井龍康文・山田 努・浅海竜司

16. 堆積相と堆積システム・シーケンス(液晶有)

世話人: 高野 修 (takano-o@rc.japex.co.jp)・伊藤 慎

9月16日(月) 11:00 12:00 B1会場

- 座長: 187-190 高野 修  
 O-187 11:00 手取層群の層序と動植物化石相の時空的特徴  
 .....松川正樹・小荒井千人・青野宏美・

- O-188 11:15 小林典夫・大久保 淳・林 慶一・伊藤 慎  
手取層群の堆積システムと堆積盆の変遷  
.....伊藤 慎・松川正樹
- O-189 11:30 新潟平野紫雲寺地域におけるラグーン埋積完新  
統の堆積相と有機炭素量の変化  
.....吉田真見子・山岸美由起・山崎 梓・  
大村亜希子・ト部厚志・保柳康一
- O-190 11:45 北海道羽幌地域パンケ沢層(函淵層群)の堆積  
環境.....隅田竜也・保柳康一

9月16日(月) 14:00 16:45 B1会場

座長: 191-194 伊藤 慎, 195-198 成瀬 元, 199-201 坂井  
卓

- O-191 14:00 Incised valley の成因: 海岸線自動後退理論から  
の予言と水槽堆積実験.....武藤鉄司
- O-192 14:15 常磐地域, 鮮新統広野層ならびに富岡層に認め  
られる粗粒堆積物の特徴とその成因  
.....笹山岳大
- O-193 14:30 ソールマークから読みとるストーム堆積物の運  
搬過程.....堀川恵司
- O-194 14:45 北海道東部上部白亜系~古第三系根室層群に見  
られる重力流堆積物の粒子配列.....成瀬 元
- O-195 15:00 島弧会合部の foredeep 堆積盆埋積システム  
中新統川端層の例 .....川上源太郎
- O-196 15:15 中部蝦夷層群の深海扇状地堆積作用とシーケン  
ス層序.....坂井 卓・鮎沢 潤・松本達郎・  
西田民雄・井上洋子
- O-197 15:30 北部フォッサマグナ頸城地域における中~上部  
中新統の堆積プロセス: シーケンス層序学的解  
析による斜面~海底扇状地システムの復元  
.....高野 修
- O-198 15:45 房総半島鮮新統安野層に認められるスロープエ  
ブロンシステムの形態的变化.....林 豊和
- O-199 16:00 海底扇状地チャネル末端部における堆積作用の  
特徴 房総半島三浦層群清澄層を例に  
.....斉藤高浩
- O-200 16:15 半遠洋性シルト岩の化学組成・Sr 同位体組成  
と氷河性海水準変動との関係: 房総半島更新統  
大田代層.....中村 譲・伊藤 慎・中野孝教
- O-201 16:30 Deep-water massive sands の透水性  
.....辻田圭吾・小倉芳則

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-110 爆発的珪長質噴火活動に対する遠方陸域堆積システムの  
呼応.....片岡香子
- P-111 エスチュアリーシステムの堆積相と有機炭素量変化 新  
潟平野白根・紫雲寺地域の完新統コアの解析  
.....保柳康一・山崎 梓・山岸美由起・大村亜希子・  
吉田真見子・ト部厚志
- P-112 Sedimentary facies and benthic foraminiferal biofacies of  
the Middle Jurassic Safa Formation, Al. Maghara, North  
Sinai, Egypt  
.....Maejima, Wataru and Ghandour, I. M.
- P-113 和歌山県中新統田辺層群にみられるスランプスカー充填

- 堆積物.....松本 弾・増田富士雄
- P-114 九州西部球磨川中流域, 最上部ジュラ系飯瀬層の堆積相  
および堆積過程.....石田直人
- P-115 房総半島中部に分布する安房層群安野層タービダイトサ  
クセッションの堆積様式.....石原与四郎・徳橋秀一
- P-116 化学組成から見た陸源堆積物堆積速度の変動 上総層群  
大田代層の例  
.....吉岡麻里・木村 真・辻 隆司・宮田雄一郎

## 17. 堆積作用・堆積過程

世話人: 斎藤文紀 (yoshiki.saito@aist.go.jp) ・宮田雄一郎

9月14日(土) 14:00 17:15 B1会場

座長: 202-205 宮田雄一郎, 206-210 斎藤文紀, 211-214 廣  
木義久

- O-202 14:00 岐阜県中新統瑞浪層群中の地震津波堆積物  
.....廣木義久・山崎貞治・志岐常正
- O-203 14:15 津波堆積物を識別する堆積シーケンスモデル  
.....藤原 治・鎌滝孝信・酒井哲弥・  
布施圭介・増田富士雄・田村 亨
- O-204 14:30 パレスベラ海盆中央部のタービダイト砂層の堆  
積構造.....池原 研・川村喜一郎・  
藤岡換太郎・金松敏也
- O-205 14:45 多重級化層におけるバックセットベッディング  
上部白亜系 Haida 層(カナダ)の例  
.....八木下晃司
- O-206 15:00 那珂川の洪水堆積物  
.....牧野泰彦・根本 智・鈴木直哉
- O-207 15:15 横浜市帷子川の河床堆積物の供給源  
.....江藤哲人・山本幸子
- O-208 15:30 新潟県糸魚川地域における河床・海浜礫の堆積  
過程 礫種組成による検討  
.....白井 亨・内山 清
- O-209 15:45 有明海緑川河口付近の堆積過程  
.....佐藤聡美・松田博貴
- O-210 16:00 Geoslicer を用いた干潟堆積物の観察(生痕群  
集).....市原季彦・原口 強・池田哲也・  
高田圭太・山田茂昭・阿部恒平・  
佐藤聡美・中田 高
- O-211 16:15 ビストンコア試料に基づく有明海中央部の後氷  
期における堆積過程の検討  
.....松田博貴・塚脇真二・浅野いずみ・  
小沢広和・岡村 真・長谷義隆・秋元和實・  
中原功一朗・古田徳仁・堂満華子・  
尾田太良・滝川 清
- O-212 16:30 完新世中期における海水準変動とベトナム北  
部, 紅河デルタの発達過程  
.....田辺 晋・堀 和明・斎藤文紀・  
春山成子・Vu Van Phai
- O-213 16:45 ベトナム, メコンデルタ下部の浜堤 砂丘列の  
発達過程 .....立石雅昭・Nguyen. V. L. ・  
海津正倫・平井幸弘・Tat. K.-O.
- O-214 17:00 タイ, チャオプラヤデルタの発達と中央平野の

形成.....斎藤文紀・田辺 晋・鈴木祐一郎・  
佐藤喜男・Sin Sinsakul

.....日浦祐樹・三瓶良和  
O-220 10:15 Turbidity current VS Sandy debris flow  
.....徳橋秀一

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-117 粒子流における粒子の挙動：個別要素法によるシミュレーションと実験.....高川智博・後藤仁志・増田富士雄
- P-118 正規化法による粒度分布の評価：海浜 外浜堆積物への適用.....田村 亨・増田富士雄
- P-119 前浜堆積物中の逆級化葉理の粒子配列：茨城県の更新統下総層群木下層の例.....荒谷 忠
- P-120 北海道鶴川町の沖積層中から見つかった海成イベント堆積物について.....高清水康博・仁科健二・嵯峨山積・岡 孝雄
- P-121 上総層群タービダイト砂岩にみられるトラクションカーペット様の堆積構造とその意義.....宮田雄一郎・二宮寛仁・石原与四郎・杉山貴哉
- P-122 神戸市西部神戸層群中の火砕岩の堆積過程.....木村一成
- P-123 琵琶湖西岸比良 近江舞子地域の臨湖扇状地群の形態的特徴と堆積物.....田中 淳・前島 渉・野村昌司
- P-124 堆積相とC/S比にもとづいた下部中新統野島層群の堆積環境.....小松原純子
- P-125 美保湾の底質分布から見た堆積環境.....為季克章
- P-126 松山市北方海域の砂堆大洲の底質季節変化.....布川裕也
- P-127 三重県柳田川河口干潟における微地形発達.....中条武司
- P-128 Geoslicer を用いた干潟堆積物の観察.....原口 強・市原季彦・池田哲哉・高田圭太・山田茂昭・阿部恒平・佐藤聡美・中田 高
- P-129 セジメントトラップを用いた北浦の現行堆積過程の解析.....納谷友規・天野一男・中里亮治・谷村好洋
- P-130 底生有孔虫の死後移動にともなう殻の保存状態の変化 宗谷海峡を例にして .....内田淳一・長谷川四郎
- P-131 深海底湧水域における堆積構造の特徴～北海道中央部第三系望来層と南海トラフ冷湧水域堆積物との比較～.....石村豊穂・井尻 暁・土岐知弘・角皆 潤・蒲生俊敬・倉本真一・阿部恒平・YK00-10, YK01-04, YK02-02乗船研究者一同

19. 岩石・鉱物の破壊と変形(液晶有)

世話人：小林健太 (kenkoba@gs.niigata-u.ac.jp)・大谷具幸

9月16日(月) 9:00 12:00 A0会場

座長：221-224 小林健太, 225-228 大谷具幸, 229-232 道林克禎

- O-221 9:00 未固結泥質堆積物中に発達する変形バンドの起源と成因.....氏家恒太郎・Alex J. Maltman・Mario Sánchez-Gómez・久光敏夫
- O-222 9:15 一面せん断試験に基づいた泥質堆積物中の細脈形成機構.....滝沢 茂・釜井俊孝・松倉公憲
- O-223 9:30 透水係数の変化とporoelasticity.....清水以知子・大西セリア智恵美・上原真一・溝口一生・嶋本利彦
- O-224 9:45 蛇紋岩の脱水反応に及ぼす差応力の影響.....西川 治
- O-225 10:00 南西インド洋海嶺域、アトランティス海台の断層岩類 .....大友幸子・ABCDE研究チーム
- O-226 10:15 関東山地の中央構造線活断層系に沿った物質分布とその運動像.....小林健太
- O-227 10:30 シアーバンドの発達過程：手島花崗岩を例として.....道林克禎・村上雅美
- O-228 10:45 断層のヒーリングと鉱物の沈殿.....藤本光一郎
- O-229 11:00 畑川マイロナイトに発達する破壊構造...大谷具幸・重松紀生・藤本光一郎・新井崇史
- O-230 11:15 細粒斜長石の塑性変形についての諸問題.....重松紀生・藤本光一郎・大谷具幸・新井崇史・増田幸治
- O-231 11:30 脆性破壊から塑性変形領域に至る温度変化に伴う長石(anorthite)粒子の摩擦特性変化について.....新井崇史・増田幸治・藤本光一郎・重松紀生・角井朝昭・奥山康子
- O-232 11:45 畑川破碎帯花崗岩マイロナイト中の細粒多相集合体の微細構造解析.....金川久一・菊池雅子

18. 石油・石炭地質

世話人：秋葉文雄 (dtakiba@rc.japex.co.jp)・鈴木祐一郎

9月16日(月) 9:00 10:30 B1会場

- 座長：215-217 金子信行, 218-220 柳本 裕
- O-215 9:00 北海道添牛内地域に分布する中部蝦夷層群の続成...鮎沢 潤・坂井 卓・井上洋子・西田民雄
- O-216 9:15 基礎試錐「三陸沖」の貯留岩にみられる laumontite の成因と生成時期.....柳本 裕・飯島 東
- O-217 9:30 秋田地域および天北地域に分布する珪質岩の特徴...大久保進・横井 悟・洲崎照夫・加藤邦弘
- O-218 9:45 新潟県蒲原地方の水溶性天然ガスの地球化学的研究.....金子信行・猪狩俊一郎・前川竜男
- O-219 10:00 静岡県掛川～相良地域に分布する始新統～中新統泥質岩の石油地質化学的研究

9月16日(月) 14:00 16:15 A0会場

座長：233-235 福地龍郎, 236-238 長濱裕幸, 239-241 武田昌尚

- O-233 14:00 節理の終点の性状について 花崗岩を例とする鏡下観察 .....藤井幸泰
- O-234 14:15 石英のクラック, 2つの型 応用地質つくば技術開発センター1350mボーリングコアからの例.....原 郁夫・三本健四郎・山根 誠・妹尾洋一・岡野 肇・吉田 浩
- O-235 14:30 超微小硬度計の有効利用.....増田俊明・松尾弥生・木村希生
- O-236 14:45 マイクロブーディン差応力計を用いた古応力解析.....木村希生・増田俊明
- O-237 15:00 二相岩アナログの変形実験

- .....武田昌尚・大藤 茂  
 O-238 15:15 高速剪断すべりによる断層ガウジの磁化現象  
 .....福地龍郎・溝口一生・嶋本利彦  
 O-239 15:30 花崗岩の摩擦すべりに伴う表面電荷の発生  
 .....長濱裕幸・竹内昭洋  
 O-240 15:45 地殻岩石の透電率異方性と変形 物理相互作用  
 場理論による考察 .....武藤 潤・長濱裕幸  
 O-241 16:00 亀裂パターンの群論的分類 群作用下の分岐理  
 論 .....千葉智章・長濱裕幸

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-132 高温高压下における岩石の弾性波速度異方性と岩石組織  
 との相互関係  
 .....北村圭吾・石川正弘・有馬 眞・白石和行  
 P-133 傾角壁と亜粒子の方位に基づくカンラン石の活動転位す  
 べり系.....塚本雅理・金川久一  
 P-134 日高変成帯におけるマイロナイトの組織変化  
 .....豊島剛志・新里忠史・小原友弘・小松正幸  
 P-135 岩手県久慈市南部に分布する断層岩 主にマイロナイト  
 についての地質学的研究.....秋山華子・豊島剛志  
 P-136 犬山地域にみられる微小変形構造と色相  
 .....小山敦子・小林健太  
 P-137 飯田・松川断層の浸透率構造  
 .....斎藤泰彦・溝口一生・谷川 亘・嶋本利彦  
 P-138 花折断層の内部構造と浸透率構造  
 .....野田博之・上原真一・嶋本利彦  
 P-139 野島断層平林 NIED コア破砕部 (1,140 m, 1,300 m,  
 1,800 m) における粘土鉱物の解析  
 .....淡路勲太・青木亮介・高木秀雄・松田達生・  
 小村健太郎・池田隆司  
 P-140 流体包有物中の石墨 シュードタキライト高温異常の証  
 拠?.....竹野直人・田口幸洋

20. 付加体 (液晶有)

世話人: 大塚 勉 (otsukat@gipac.shinshu-u.ac.jp)・倉本真一

9月15日(日) 10:00 11:45 A0会場

- 座長: 242-244 大塚 勉, 245-248 原 英俊  
 O-242 10:00 四国東部三宝山付加コンプレックス中のチャー  
 ト角礫岩について.....鈴木秀和  
 O-243 10:15 三宝山帯の上部トリアス系二枚貝・サンゴ群集  
 の古地理的意義.....尾上哲治  
 O-244 10:30 関東山地 四万十帯, 秩父帯 (三宝山帯) の形  
 成・上昇過程 K-Ar年代からの制約  
 .....原 英俊  
 O-245 10:45 中国黒竜江省ウスリー川西岸地域のジュラ紀付  
 加体.....大塚 勉・洪 景鵬・丹羽耕輔・  
 小林伸隆・谷井祐美子・永吉哲也・青山 武・  
 川原直樹・中村淳二・根本 淳  
 O-246 11:00 九州四万十帯, 延岡衝上断層の構造解析  
 .....近藤英樹  
 O-247 11:15 屋久島南西部のメランジ中にみられる, 大円上  
 に乗る褶曲軸群.....遠藤良太・安間 了

- O-248 11:30 熊野トラフ泥火山の微細地形と地質構造  
 Wadatsumi サイドスキャンソナー調査報告  
 .....芦寿一郎・澤田拓也・中村恭之・  
 倉本真一・村山雅史・亀尾 桂・渡辺正晴・  
 山本富士夫・徳山英一

9月15日(日) 14:00 17:00 A0会場

- 座長: 249-252 倉本真一, 253-256 坂口有人, 257-260 芦寿  
 一郎  
 O-249 14:00 (招待講演) 付加体における地下微生物研究  
 .....稲垣史生・高井 研  
 O-250 14:15 沈み込み帯のレオロジーと地震: 現状と課題  
 .....嶋本利彦  
 O-251 14:30 四万十帯奥津メランジ震源断層の構造  
 .....坂口有人  
 O-252 14:45 四国南西部白亜系四万十付加体の古地温構造を  
 切る小断層群の形成深度  
 .....向吉秀樹・坂口有人  
 O-253 15:00 熊野沖 OOST の特徴  
 .....倉本真一・YK02-02 Leg 2, 3 乗船研究者  
 O-254 15:15 小断層解析に基づく四万十付加体中の古応力場  
 復元.....佐藤活志  
 O-255 15:30 流体包有物測定から推定した, 四万十帯・杵岐  
 メランジの温度・圧力条件  
 .....松村正之・橋本善孝・円城寺 守・  
 池澤栄誠・木村 学  
 O-256 15:45 帯磁率異方性解析からみた付加体メランジの  
 形成過程: 四国東部四万十付加体杵岐メランジ  
 ュの例.....北村有迅・氏家恒太郎・金松敏也・  
 池澤栄誠・木村 学  
 O-257 16:00 付加体における変形構造と粘土鉱物組成との関  
 係.....廣野哲朗・山本由弦・飯島耕一  
 O-258 16:15 付加体浅部および深部における堆積岩の変形構  
 造と歪分布.....山本由弦・安間 了  
 O-259 16:30 四国東部四万十帯黒色頁岩における体積変化  
 .....川端訓代  
 O-260 16:45 台湾中部堆積盆地における浸透率構造  
 .....谷川 亘・嶋本利彦

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-141 美濃帯東部におけるチャートの小褶曲  
 .....谷井祐美子・大塚 勉  
 P-142 美濃帯左門岳ユニットの堆積相と堆積環境.....小林祐哉  
 P-143 長野県美濃帯東部の島々コンプレックス  
 .....小林伸隆・首藤拓郎・永吉哲也・谷井祐美子・  
 酒井順・田中基樹・大塚 勉  
 P-144 美濃帯ジュラ紀付加体におけるスラスト系 特に岐阜県  
 高山地域について .....丹羽正和  
 P-145 浜名湖西方地域の秩父帯付加コンプレックス  
 .....丹羽耕輔・大塚 勉  
 P-146 高知県四万十帯の内部構造と浸透率  
 .....西野真一郎・堤 昭人  
 P-147 ビストンコア試料からみた熊野泥火山の表層地質と活動  
 史.....澤田拓也・芦 寿一郎・氏家由理香・村山雅史・

21. テクトニクス(液晶有)

世話人: 川村信人 (mkawa@strati.sci.hokudai.ac.jp)・星 博幸

9月14日(土) 14:00 17:00 A0会場

座長: 261-264 高木秀雄 265-268 山北 聡 269-272 伊藤谷生

- O-261 14:00 黒瀬川帯・南部秩父帯の白亜紀の薄化・伸長変形.....山北 聡
O-262 14:15 飛騨外縁構造帯の剪断帯群.....大藤 茂・束田和弘・笠原健司・堀田久美子・佐々木みぎわ
O-263 14:30 足尾山地, ジュラ紀付加体の剪断帯と大褶曲.....佐々木みぎわ・大藤 茂・小堀和雄
O-264 14:45 美濃 丹波帯付加コンプレックスの大構造からみた柳ヶ瀬断層の起源.....狩野謙一
O-265 15:00 内帯西部における白亜紀の微小褶曲の形成.....豊原富士夫・赤嶺辰之介・松迫暁子
O-266 15:15 南琉球弧における forearc sliver の再検討.....大坪 誠・林大五郎
O-267 15:30 マイロナイト帯を貫く阿蘇火山.....高木秀雄・石井 徹・戸邊恵里
O-268 15:45 低重合反射法地震探査による東海・設楽地域の深部地殻構造.....佐藤比呂志・伊藤谷生・Miller, K.・岩崎貴哉・平田 直・大西正純・吉田武義・加藤直子・菊池伸輔・蔵下英司・河村知徳
O-269 16:00 日高衝突帯下の delamination-wedge-subduction システム: super-deep Hidaka 2000 の成果.....伊藤谷生・鈴木和子・菊池伸輔・津村紀子・在田一則・森谷武男・小澤岳史・川中 卓・井川 猛
O-270 16:15 非剛体プレートテクトニクス: 顕生代以降の最上部マントルの脆弱化.....石川正弘
O-271 16:30 日本海拡大の原動力と新プレート分類法.....新妻信明
O-272 16:45 ヒマラヤで期待される断層のFEMシミュレーション.....林 大五郎・F.M.Howladar

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-148 四国中央部, 中央構造線沿いの変形構造記載...窪田安打
P-149 中琉球に分布する島尻層群における小断層解析.....寺前憲昭・林大五郎
P-150 近畿地方中央区における領家変成帯南縁部の地質構造特に塩基性岩類の定置機構について.....西脇 仁・奥平敬元
P-151 上越国境地域の低変成度片状岩体の変形史 水無川変成岩と川場変成岩の対比.....竹之内耕・高橋 浩
P-152 関東山地北縁の緑色岩メランジュと御荷鉾緑色岩類の構造関係.....竹内圭史・牧本 博
P-153 二風谷地域にみられる褶曲・衝上断層構造.....熊谷小百合・香東卓郎

- P-154 圧力1.0GPa, 温度最大1000 における弾性波速度測定システムの開発.....河野善生・石川正弘・有馬 真
P-155 Bangladesh, Sylhet 地域の砂岩組成と碎屑性重鉱物 ヒマラヤ上昇過程に対する制約 .....奥澤康一・久田健一郎・Md.Badrul Islam・荒井章司
P-156 反射法地震探査による房総半島嶺岡山地南部の地質構造の解明.....三縄岳大・伊藤谷生・宮内崇裕・河村知徳・浅尾一巳・須田茂幸・太田陽一・井川 猛
P-157 小田原東部, 国府津 松断層の反射法地震探査による浅部地下構造の解明.....田中 環・佐藤比呂志・宮内崇裕・伊藤谷生・加藤 一・河村知徳・石山達也・菊池伸輔・児島悠司・笠原敬司・太田陽一・川崎慎治・井川 猛
P-158 房総半島南端更新統中部(千倉層群最上部)から検出された応力.....戸村元史・山路 敦・伊藤谷生
P-159 青野山単成火山群のK-Ar年代と徳佐盆地および津和野盆地の形成.....久村和敬・金折裕司・土志田 潔
P-160 地中海レーダによる紀伊半島西部中央構造線活断層系の破碎帯探査.....万木純一郎・宮田隆夫
P-161 マグマの定置と熱による山脈の形成過程 飛騨山脈と東北脊梁山脈の比較 .....及川輝樹

22. ノンテクトニック構造(液晶有)

世話人: 永田秀尚 (nagatah@concerto.plala.or.jp)・宮田雄一郎・田近 淳

9月15日(日) 14:00 16:30 C1会場

座長: 273-276 加藤靖郎, 277-280 藤田勝代, 281-282 永田秀尚

- O-273 14:00 テクトニック“非地質”構造-人工構造物および人工地質体の地震断層.....伏島祐一郎
O-274 14:15 地中海レーダイメージ: 1999年集集(台湾)地震の地表地震断層.....宮田隆夫
O-275 14:30 Vein structure の形態とarrayの方向性に基づく成因の再検討.....仁平麻奈美・小川勇二郎
O-276 14:45 有珠山麓の表層に見られる火山性地質構造.....田近 淳・大津 直・廣瀬 亘
O-277 15:00 函館-七飯安山岩の「底浅球面割れ目」の特徴とでき方.....新井田清信・中嶋 久
O-278 15:15 岩盤崩壊堆積物のサイズ分布.....永田秀尚
O-279 15:30 京都府南部宇治田原地域の長山層の多重地すべり堆積物の内部構造.....紺谷吉弘・亀井成美
O-280 15:45 メランジェからなる斜面の切土法面で発生したクリープ変形 紀伊半島四万十帯音無川層群の事例 .....加藤靖郎・柏木健司
O-281 16:00 バレーバルジングの発見とその発生機構.....野崎 保
O-282 16:15 花崗岩中のラミネーションシーティング研究の現状と課題.....藤田勝代・横山俊治

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-162 リーデルシア実験に基づくペイン構造形成に関する一考

- 察.....大角恒雄・高見芳裕・小川勇二郎  
 P-163 活動中の地すべり側部に形成された微地形の特徴について(長野県落合地すべりの例).....内田 克・田辺智司  
 P-164 すべり面粘土から見た大規模地すべり~石川県基之助谷地すべりの例.....川村喜一郎・大八木規夫・北原哲郎

### 23. 新生代古生物(液晶有)

世話人: 天野和孝 (amano@juen.ac.jp)・入月俊明

9月15日(日) 11:00 12:00 C2会場

- 座長: 283-286 天野和孝  
 O-283 11:00 CLAMPによる古気候解析 相馬中村地域の台島型植物群を例に .....矢部 淳  
 O-284 11:15 喜界島陸生貝類化石を用いた面積種数関係の考察...丸井康成・奥野淳一・千葉 聡・山崎和仁  
 O-285 11:30 常磐新線つくば駅の上更新統から産した貝化石.....大原 隆・菅谷政司  
 O-286 11:45 香川県小豆島の第三系土庄層群四海層の貝類化石群.....松原尚志

9月15日(日) 14:00 17:00 C2会場

- 座長: 287-290 松原尚志, 291-294 小沢広和, 295-298 入月俊明  
 O-287 14:00 *Glycymeris* 属に認められる沿岸域への生息地の変化: 日本の白亜系と新生界の例 .....遠藤 浩・近藤康生  
 O-288 14:15 九州北西部野島層群大屋層から産出する *Bellamyia kosasana* (Veji) の成長に伴う形態変化.....鶴飼宏明・河野重範  
 O-289 14:30 北太平洋地域における *Lirabuccinum* 属(腹足類)の分類と進化.....天野和孝・Vermeij, G. J.  
 O-290 14:45 新潟県海川周辺における新第三系の軟体動物化石群および古環境 .....遠藤満久・天野和孝・柳沢幸夫  
 O-291 15:00 新潟県鮮新統欽江層下部の貝形虫化石群集 ...庄司真弓・入月俊明・山田 桂・田中裕一郎  
 O-292 15:15 貝形虫化石群集から見た後期鮮新世における日本海沿岸域の海洋構造の解明 .....山田 桂・田中裕一郎・入月俊明  
 O-293 15:30 第四紀の地史的イベントと関連した日本産内湾性貝形虫種の消長と形態変化 .....入月俊明・稲吉里枝・石崎国熙・安原盛明  
 O-294 15:45 中部中新統来待層から産出した介形虫化石群 .....田中源吾  
 O-295 16:00 長崎県に分布する古第三系沖ノ島階~間瀬階の貝形虫化石群集と古海洋気候.....山口龍彦  
 O-296 16:15 日本海溝の現生底生有孔虫群集 .....秋元和實・服部陸男・加藤千明  
 O-297 16:30 津軽半島南東部に分布する鮮新統~下部更新統の有孔虫化石群.....畑 元子  
 O-298 16:45 宮崎層群高鍋層最上部の有孔虫群集 ...長谷川四郎・阿部恒平・内田淳一・吉本直一

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-165 東北日本太平洋岸における新第三紀浮遊性有孔虫群集の変遷と古海洋.....林 広樹  
 P-166 青函地域の下部更新統より産する有孔虫化石と古環境 .....根本直樹  
 P-167 京都府阿蘇海(天橋立)における現生底生有孔虫群 *Virgulinea cf. fragilis* の産出とその意義 .....高田裕行・村上俊介・瀬戸浩二・酒井三郎・田中里志・高安克己  
 P-168 大桑 万願寺型介形虫の分布水塊環境~現生種および日本海の更新世の絶滅種について.....小沢広和  
 P-169 上部鮮新統古琵琶湖層群から産出した球果化石群とその堆積環境.....山川千代美・小西省吾  
 P-170 堆積物構成粒子としての花粉の堆積過程 大阪湾東部の表層堆積物を例として .....本郷美佐緒

### 24. 中・古生代古生物

世話人: 江崎洋一 (ezaki@sci.osaka-cu.ac.jp)・鈴木雄太郎

9月14日(土) 14:00 16:30 C2会場

- 座長: 299-303 江崎洋一, 304-308 八尾 昭  
 O-299 14:00 イラン北部, 石炭系 Mobarak 層のサンゴ化石とその時代対比.....新川 公  
 O-300 14:15 南部北上山地, 上八瀬-飯森地域の中部ペルム系産アンモノイド: 化石層序と古生物地理 .....永広昌之・御前明洋  
 O-301 14:30 福岡県北九州市小倉南区檜ヶ峠に分布する礫岩から新に産出したフズリナ化石.....太田泰弘  
 O-302 14:45 古海山頂部相石灰岩におけるペルム系中/上部統境界前後の層序変化.....太田彩乃・磯崎行雄  
 O-303 15:00 関東山地五日市西方の“星竹礫岩”から産する中生代微化石...指田勝男・鈴木義孝・青木理恵  
 O-304 15:15 高知県伊野地域の伊野層から産する三疊紀・ジュラ紀放射虫化石 .....堀 常東・脇田浩二・宮崎一博  
 O-305 15:30 岩手県下部白亜系宮古層群の堆積相とウミユリ化石の産出状況.....佐藤洋子  
 O-306 15:45 白亜紀前期の波浪卓越型浅海化石群集 下部白亜系宮古層群を例に.....望月浩司・安藤寿男  
 O-307 16:00 手取層群からの前期白亜紀シダ植物胞子化石の産出とその意義.....梅津慶太・松岡 篤  
 O-308 16:15 北海道白糠丘陵の上部白亜系-古第三系根室層群における花粉・胞子化石層序.....二階堂崇

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-171 オーストラリア東部, Silver Gully 層の下部デボン系放射虫層序 ...梅田真樹・Furey-Greig, T.M., Mowson, R. and Talent, J.  
 P-172 中国四川省北部の P T 境界前後の石灰岩の微小岩相変化.....清水紀英・磯崎行雄・松田哲夫・姚 建新  
 P-173 南部北上帯中部ジュラ系の軟体動物化石密集層の形成過程.....小出雅文・菅原憲博  
 P-174 山形県小国町の箱の口層群より放射虫化石の発見

- .....金井勝宏・田中久雄・鈴木紀毅  
P-175 マンガンフェリユールより産出したジュラ紀中世放散  
虫化石群集の変遷.....荒川竜一  
P-176 Bonarelli 層準 (Cenomanian-Turonian 境界) の放散虫化  
石.....矢野健一  
P-177 日本における白亜紀の造礁生物化石産出層準とその意義  
.....佐野晋一  
P-178 北海道南夕張地域における花粉・孢子群集の特徴  
.....土屋 健

.....小林哲夫

9月14日(土) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-180 長崎県, 福江火山群のK-Ar年代  
.....永尾隆志・田島俊彦・棚瀬充史・二ノ宮純・  
鴨志田毅・麻草 憲・梅田浩司  
P-181 鳥海火山帯南部地域の火山活動(2) 浅草火山のK-Ar年  
代 .....赤石和幸・梅田浩司

## 27. 深成岩・火山岩(液晶有)

世話人: 土谷信高 (tsuchiya@iwate-u.ac.jp)・藤縄明彦

9月15日(日) 9:00 12:00 B4会場

座長: 320-323 土谷信高, 324-327 高橋 浩, 328-331 藤縄  
明彦

- O-320 9:00 八溝山地の白亜紀前期アグカイト質石英閃緑岩  
.....高橋 浩・加々島慎一・御子柴(氏家)真澄  
O-321 9:15 三河地方領家帯の清崎花崗閃緑岩中の含ざくろ  
石花崗岩質岩.....沓掛俊夫  
O-322 9:30 花崗岩質 苦鉄質マグマ混合における苦鉄質マ  
グマの含水量の効果~小豆島・領家花崗岩類の  
例~.....熱田真一・吉田武義・吉倉紳一  
O-323 9:45 北部九州, 白亜紀トータル岩類と同時期に活動  
したランプロファイアの岩石学的特徴とその  
重要性.....矢田 純  
O-324 10:00 東北日本弧, 福島市南西の鮮新統「笹森山安山  
岩」の産状と岩石記載 鮮新世に活動した火山  
フロント産マグマの岩石学的特徴の時空変化  
.....安井光大・山元正継・山田哲也・伊藤奈緒  
O-325 10:15 新潟県清津峡における地質および半深成岩類の  
岩石化学的研究.....広野達也・大場孝信  
O-326 10:30 新潟県火打山周辺の地質および火打山半深成岩  
類の岩石化学的研究.....遠藤 聡・大場孝信  
O-327 10:45 長野県戸隠周辺の地質および火山岩類の岩石化  
学的研究.....佐藤徹也・大場孝信  
O-328 11:00 北部フォッサマグナに分布する第三紀火山岩類  
のK-Ar年代と岩石化学組成.....大場孝信  
O-329 11:15 溶結凝灰岩と本質物の全岩化学組成の比較 濃  
飛流紋岩, 瀬戸川溶結凝灰岩層の例  
.....曾根原崇文・原山 智  
O-330 11:30 マントルゼノリス 母岩マグマ相互作用~西南  
日本, 黒瀬の例~  
.....石橋秀巳・池田 剛・柳 哮  
O-331 11:45 ホットスポット火山のマグマプロセスと同位体  
比変化.....兼岡一郎

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-182 青森県白神岳複合花崗岩質岩体西部岩体の岩相と構造  
その2 .....藤本幸雄  
P-183 南部北上帯の白亜紀花崗岩類の地球化学的特徴  
.....御子柴(氏家)真澄・蟹澤聡史  
P-184 福島県船引町周辺に分布する阿武隈花崗岩類の岩石記載  
.....亀井淳志・高木哲一

## 25. 脊椎動物化石

世話人: 仲谷英夫 (nakaya@eng.kagawa-u.ac.jp)・堀川秀夫

9月15日(日) 9:30 11:00 C2会場

- 座長: 309-311 仲谷英夫, 312-314 堀川秀夫  
O-309 9:30 日本産の古生代脊椎動物化石について  
.....後藤仁敏  
O-310 9:45 新潟県佐渡産3種のデスモステルス類化石につ  
いて.....堀川秀夫  
O-311 10:00 山形県の新第三系産出のヒゲクジラ類頭蓋化石  
2標本について .....長澤一雄・伊藤定雄・  
大場 聡・阿部龍市  
O-312 10:15 仙台市北西部の竜の口層から産出したカワイル  
カ上科の化石について.....石丸一男  
O-313 10:30 掛川層群における海生哺乳類化石の発掘  
.....柴 正博・横山謙二・新村龍也  
O-314 10:45 タイの後期新生代哺乳類生層序  
.....仲谷英夫・三枝春生・国松 豊・  
鏑本武久・Benjavun Ratanasthien・  
Yupa Thasod・Pratueng Chintaskul・  
長岡信治・福地 亮

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-179 中空化石の型取り技法 草食恐竜プロトケラトプスの  
頭骨を例にして .....松本幸英・橋本 龍

## 26. 噴火と火山発達史(液晶有)

世話人: 山元孝広 (t-yamamoto@aist.go.jp)・早川由紀夫

9月15日(日) 14:00 15:15 B4会場

- 座長: 315-317 山元孝広, 318-319 早川由紀夫  
O-315 14:00 北八ヶ岳火山東部における前期更新世火山岩類  
の層序と古地磁気学的特徴.....西来邦章  
O-316 14:15 西南日本の白亜紀後期火山活動: 兵庫県姫路  
山崎地域のカルデラ火山群.....山元孝広  
O-317 14:30 単成火山群の確率論的将来予測 東伊豆および  
東山陰地方の単成火山を例にして  
.....マーチン・アンドリュー・高橋正樹・  
湯佐泰久・梅田浩司  
O-318 14:45 三宅島火山噴火2000 2002(.9)  
.....大島 治  
O-319 15:00 モンブレ - 1902年5月8日の破局的な噴火

- P-185 伊豆弧 本州弧衝突帯に分布する新第三紀花崗岩体の形成プロセス.....斎藤 哲・有馬 眞・中嶋 隆
- P-186 八溝山地の花崗岩類のSr同位体組成.....加々島慎一・高橋 浩
- P-187 飛騨帯花崗岩類におけるSr-Nd同位体組成の時間変遷と地殻発達史.....石岡 純
- P-188 累帯マグマ溜りからみた六甲山地東部における花崗岩類の産状および相互貫入関係.....新井敏夫
- P-189 近畿地方領家帯に分布する塩基性深成岩類の形成年代.....西岡芳晴
- P-190 山陰中央部における白亜紀～第三紀火成岩類のSr・Nd同位体組成.....西田和浩・飯泉 滋・今岡照喜
- P-191 ベトナム中部、三疊紀ハイバン峠花崗岩体のマグマ過程.....大和田正明・小山内康人・中野伸彦・Nam, T.N.
- P-192 南インド, Yelagiri, Sevattur アルカリ深成岩体の起源鉛同位体比からの検討.....宮崎 隆
- P-193 東南極, 奥岩に産する花崗岩類の成因 Sr・Nd同位体組成からの検討.....西奈保子・川野良信・加々美寛雄
- P-194 上部空知層群に産出する緑色岩類の岩石化学的特徴.....長橋 徹
- P-195 一の目漏火山の海洋性と島弧性の捕獲岩類の同位体的特徴.....石田直之
- P-196 南八ヶ岳・黒富士火山岩類のSr, Nd同位体組成.....新井智幸・藤林紀枝
- P-197 阿蘇火砕流堆積物に含まれる斜長石中の包有結晶.....安東律子・西山忠男
- P-198 中止(欠番)
- P-199 琉球列島奥武島バハアイト中の高Mgインクルージョンの岩石学的研究.....伊藤純一
- P-200 石垣島東北部, 野底岳周辺に分布する火山岩類の岩石学.....川野良信・加々島慎一・金子慶之・安間 了

## 28. 変成岩とテクトニクス

世話人: 榎並正樹 (enami@eps.nagoya-u.ac.jp)・小山内康人

9月16日(月) 9:00 12:00 C1会場

- 座長: 332-335 榎並正樹, 336-339 乾 睦子, 340-343 小山内康人
- O-332 9:00 四国三波川変成岩のウェッジエクストルージョン, とくに横臥褶曲の不存在.....遅沢壮一
- O-333 9:15 四国中央部三波川帯中の正断層と断層岩岩石学.....竹下 徹・八木公史・Driss El Ouai
- O-334 9:30 Structural analysis in the Sanbagawa metamorphic belt, Besshiyama district, Central Shikoku, Japan.....Driss El Ouai・Toru Takeshita
- O-335 9:45 三波川変成作用の地域変化 年代と変成作用.....高須 晃・南出幸代
- O-336 10:00 徳島県祖谷地域に分布する三波川低変成度岩類の地質と変成作用.....坂口真澄
- O-337 10:15 四国三波川帯・肉淵岩体中のグラニュライト共生の平衡温度の再検討.....榎並正樹
- O-338 10:30 電子スピン共鳴(ESR)顕微鏡による変成作用過程の評価法の提案～瀬場谷エクロサイト中

- のMn<sup>2+</sup>のESR信号強度分布から～  
...上野剛弘・谷 篤史・平井 誠・吉朝 朗・山中千博・土山 明・池谷元何
- O-339 10:45 超高压変成岩中の水を含んだ単斜輝石とザクロ石:地球深部への水の輸送様式.....片山郁夫・中嶋 悟・丸山茂徳
- O-340 11:00 日高変成帯主帯における角閃岩類の岩石学的研究.....川浪聖志
- O-341 11:15 Scapoliteを含む共生から見た領家変成作用.....丹羽健文・榎並正樹
- O-342 11:30 大崩山花崗岩体周囲の変成分帯と変成鉱物の化学組成.....吉村真理・池田 剛・柳 哮
- O-343 11:45 九州中部肥後変成帯に産するミグマタイト,特にダイアテクサイトについて 産状と全岩化学組成からの検討.....小林記之・小畑正明・吉村康隆

9月16日(月) 14:00 15:45 C1会場

- 座長: 344-347 宮崎一博 348-350 池田 剛
- O-344 14:00 九州西部, 野母半島・天草下島に産する高温型変成岩類.....武田賢治・西村祐二郎・板谷徹丸・早坂康隆
- O-345 14:15 花崗岩系の拡散律速型メルト成長:ミグマタイトの理解にむけて.....西山忠男・山口高明・磯部博志
- O-346 14:30 西彼杵変成岩類に見られる脈交代作用:物質移動と反応経路.....森 康
- O-347 14:45 変成塩基性岩脈中の反応帯から派生した複合脈.....福山蘭子・浦田健作・西山忠男
- O-348 15:00 変成作用とクラックネットワーク系.....鳥海光弘・山口はるか
- O-349 15:15 二面角から推定される沈み込み帯における脱水した水の行方...吉野 極・三部賢治・小野重明
- O-350 15:30 The role of silica activity in the formation of spurrite skarn at Fuka, Okayama.....M. Satish Kumar・Isao Kusachi

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-201 日高変成帯上部層(ヌビナイ～広尾地域)の変成分帯.....宝代誠二郎・中澤哲二郎・小松正幸・小原友弘・豊島剛志
- P-202 日高変成帯上部層片岩のキン青石ポーフィロブラスト生成と変形 変成作用の関係.....小松正幸・神谷忠克
- P-203 領家帯東縁片岩, 片麻岩帯の変成作用.....木本 健・小松正幸・伊藤雅彦・久保美和
- P-204 肥後変成・深成岩の巨視的構造.....宮崎一博
- P-205 東南極ナビア岩帯 Howard Hills産グラニュライトの超高温変成作用条件下における相関係.....佐藤 桂・宮本知治・川崎智佑
- P-206 ベトナム中部・コンツム地塊の“対”をなす変成岩類の変成作用.....小山内康人・中野伸彦・大和田正明・Nam, T.N.
- P-207 ベトナム中部・コンツム地塊にみられる2つの変成年代.....中野伸彦・小山内康人・大和田正明・Nam, T.N.



- 加賀美寛雄・鈴木里子
- P-208 南アフリカ，東トランスヴァール地域の含クロロイトド  
十字石ホルンフェルスの相平衡解析  
.....金子康成・宮野 敬・水野耕平
- P-209 東ネパール，タマコシ流域のテクトニクスと変成作用  
.....在田一則・レグミ，カマルラジ
- P-210 和歌山県清水 美里地域より産する高压変成岩  
.....富吉将平・高須 晃
- P-211 紀伊半島，飯盛地域に分布する三波川泥質片岩の変成鉱物  
の化学組成 .....南出幸代・高須 晃
- P-212 紀伊半島東部の三波川変成作用.....上野貴司
- P-213 四国中央部における北部秩父帯の広域変成作用  
.....大塚孝頼・竹下 徹
- P-214 汗見川・猿田川地域の三波川変成岩の温度・圧力履歴と  
ざくろ石の微量元素濃集帯.....藺部美穂子・乾 睦子・  
岡本 敦・鳥海光弘・高須 晃
- P-215 三波川変成帯に発達する充填鉱物脈の組織と組成  
.....山口はるか
- P-216 三波川帯上昇末期の低温下での大規模脆性 塑性流動に  
よる構造改変.....八木公史・竹下 徹・板谷徹丸
- P-217 前進モデルによる Fe-Mg-Mn ザクロ石形成から見た変成  
岩の脱水過程.....乾 睦子・鳥海光弘
- P-218 三郡変成帯・大佐山超苦鉄質岩帯中のひすい輝石岩と  
rodingite.....柏原由美子・高須 晃
- P-219 西彼半島に分布する長崎変成岩類の変形構造と変成鉱物  
の組成累帯構造.....重野未来・森 康・井上和男
- P-220 前弧下における低压変成帯の形成  
.....池田 剛・宮本知治・西村光史

### 29. 岩石鉱物一般

世話人：高澤栄一 (takazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp)・赤井純治

9月14日(土) 14:00 15:30 C1会場

- 座長：351-353 森清寿郎，354-356 中野聰志
- O-351 14:00 始生代花崗岩中のカリ長石の三斜度の頻度分布  
.....加納 隆
- O-352 14:15 滋賀県野洲花こう岩における熱水変質岩の産出  
.....西村貞浩・中野聰志・  
周琵琶湖花崗岩類団体研究グループ
- O-353 14:30 西南日本内帯に分布する堆積岩類Ndモデル年  
代.....加々美寛雄・川野良信・井川寿之・  
西奈保子・豊島剛志・濱本拓志・早坂康隆・  
池田保夫・柚原雅樹・田結庄良昭
- O-354 14:45 中国山東省Badouのカーボナタイトパイプに  
みられる全岩化学組成の多様性とその要因  
.....後藤晶子・藤巻宏和・森清寿郎
- O-355 15:00 シベリア産キンパーライトのSr, Nd同位体比  
とくにカーボナタイトとの比較  
.....森清寿郎・M. W. Weerakoon・宮崎 隆・  
周藤賢治・加々美寛雄
- O-356 15:15 ロドナライト Yamato-791491 隕石の岩石化学的  
研究.....矢内桂三

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-221 中国内陸部エアロゾルの電顕鉱物学  
.....山口泰慶・赤井純治
- P-222 関東平野の土壤中の有害元素の地球化学的研究  
.....太田充恒・寺島 滋・今井 登・岡井貴司・  
御子柴真澄・谷口政碩
- P-223 ベトナム北部タンマイパイロフィライト鉱床の生成時期  
について.....平野英雄・青木正博
- P-224 房総半島上総層群長浜層(60万年前)中の蛇紋岩礫  
.....高橋直樹・荒井章司・古滝修三
- P-225 福井県越前中央山地に分布する中新統系生累層火山岩  
類；未分化なカルクアルカリマグマについて  
.....葛木健太・石渡 明
- P-226 山陰帯中部古第三紀鉛山進入岩類の岩石学  
.....飯泉 滋・大平寛人・筒井夏実・高橋 亮
- P-227 島根県南東部仁多町に分布する花崗岩類のFT年代  
.....大平寛人・筒井夏実・平野宏樹・飯泉 滋

### 30. 情報地質

世話人：坂本正徳 (cigma@kokugakuin.ac.jp)

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-228 ITを活用した地学教育教材の開発  
.....勝野直樹・西岡孝章・林 浩司・伊佐治寿英・  
野沢竜二郎・鈴木康弘
- P-229 TerramodとGeo Map Model：地質空間情報処理研修用  
ソフトウェア.....坂本正徳・塩野清治・升本眞二
- P-230 野外データを用いた三次元地質モデリング  
.....梶山敦司・居川信之・塩野清治
- P-231 5万分の1地質図幅の数値化 数値化データの構成  
.....牧本 博
- P-232 地層名検索データベースの構築  
.....巖谷敏光・鹿野和彦・中野 俊・尾崎正紀
- P-233 CCOP加盟国の地下水および地熱データベースの現状と  
課題.....山田崇三
- P-234 東北・九州地熱資源図(CD-ROM版) 地熱GIS情報提  
供の試み.....阪口圭一・高橋正明
- P-235 電子地理～地球科学情報の統合的な管理・処理 地理院  
標高メッシュ・ファイルフォーマット系を共通規格とし  
て .....茂野 博・阪口圭一

### 31. 環境地質

世話人：田村嘉之 (tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp)・風岡  
修・三田村宗樹

9月14日(土) 14:00 17:00 A2会場

- 座長：357-360 藤崎克博，361-364 加藤晶子，365-368 田村  
嘉之
- O-357 14:00 千葉県周辺の地震活動の推移(その2)  
.....酒井 豊・楠田 隆・加藤晶子
- O-358 14:15 千葉県強震観測記録からみた地域性(その2)

.....加藤晶子・酒井 豊・楠田 隆・  
岩井久美子・宇野 亨

- O-359 14:30 地震災害と地耐力.....田中 収
- O-360 14:45 東北地方南部の非火山性地熱資源の分布と性状  
.....玉生志郎・阪口圭一
- O-361 15:00 地質環境長期安定性に関する火山学の課題  
.....林信太郎
- O-362 15:15 魚を用いた過去40年間の湖水硫黄同位対比の  
復元 滋賀県・琵琶湖の例  
...伊藤 孝・田辺和江・石井玲子・佐々木昭・  
梶原良道・西野麻知子・辻村茂男・  
中島拓男・成田哲也
- O-363 15:30 道路堆積物の化学分析(第4報).....平岡義博
- O-364 15:45 神戸市国道43号線における道路粉塵中Ti, Cr  
成分の由来.....足立光司・田結庄良昭
- O-365 16:00 常総粘土層の地下水流動について  
...佐藤賢司・仁平雅子・笠原 豊・楠田 隆・  
高嶋恒太・高信勝巳・本田 崇・和田信彦
- O-366 16:15 乾燥地における地下水かん養量の推定の一事例  
.....藤崎克博
- O-367 16:30 残土石埋立地層の地質汚染調査と自然層濃度  
...楠田 隆・風岡 修・香川 淳・佐藤賢司・  
酒井 豊・加藤晶子・古野邦雄・香村一夫・  
森崎正昭・石渡康尊・笠原 豊・仁平雅子・  
風戸孝之・楡井 久
- O-368 16:45 有機塩素系溶剤地質汚染現場における汚染物質  
の挙動.....仁平雅子・佐藤賢司・笠原 豊・  
楠田 隆・高嶋恒太・高信勝巳・本田 崇・  
和田信彦

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-236 谷津の埋立と地下水のモニタリング  
.....古野邦雄・楠田 隆・笠原 豊
- P-237 茨城県東海村及びひたちなか市における環境放射線と土  
壌の地球化学.....田切美智雄
- P-238 室温・大気圧下の弱酸性溶液中におけるカリ長石の溶解  
速度.....平山恭之・福岡正人
- P-239 帯磁率を用いた大気汚染の影響調査 道路表面の場合  
.....中井陸美・島崎春夫
- P-240 地質環境を題材とした環境学習の実績と成果 地下水流  
動モデルと地質汚染モデルによる例  
.....田村嘉之・山濱 裕・須藤雅彦・和田直之
- P-241 房総丘陵に生息するタゴガエルの産卵・越冬場所を規制  
する地質学的要因に関する一考察.....大木淳一
- P-242 沖縄本島北部地域の四万十帯の風化と第四期環境変遷の  
関係(その1).....今中里華子・大河内誠・斉藤高浩
- P-243 沖縄本島北部地域の四万十帯の風化と第四期環境変遷の  
関係(その2).....大河内誠・斉藤高浩・今中里華子
- P-244 バイカル湖湖底堆積物からみたユーラシア大陸高緯度内  
陸域における中新世後期の気候変遷.....岩本直哉
- P-245 愛媛県宇和海岩松湾における底質の季節変化とその音響  
的变化.....天野敦子・井内美郎・井上卓彦・大平 亮・  
岩本直哉・塩屋藤彦・三井拓也・西 綾乃

32. 応用地質学一般(液晶有)

世話人:野崎 保(nozaki@cnktec.co.jp)・横田修一郎

9月15日(日) 9:00 12:00 C1会場

- 座長: 369-371 上野将司 372-375 佐々木靖人 376-380 横  
田修一郎
- O-369 9:00 琉球石灰岩層中には含まれる泥質堆積物とその  
土質工学的評価について.....黒田登美雄・  
古川博恭・小澤智生・長井孝一・山本昭夫
- O-370 9:15 活断層露頭とその周辺における第四紀現象(富  
山県黒部市嘉例沢地内).....小幡真弓・野崎保
- O-371 9:30 空中写真による活断層地形判読の確からしさの  
解析...倉橋稔幸・活断層地形判読研究グループ
- O-372 9:45 紀伊半島大峰山系稜線の崩壊残存地形  
.....西田史朗
- O-373 10:00 中国地方における蛇紋岩地すべりの原因  
.....沢井長雄・林 伴憲・阪口和之
- O-374 10:15 地すべり危険度区分調査のための空中電磁法探  
査.....中里裕臣・小西尚俊
- O-375 10:30 地すべり地の危険度評価.....上野将司
- O-376 10:45 GISによる道路斜面ハザードマップ作成の試み  
.....佐々木靖人・ニコライ・ドブレフ・  
脇坂安彦・道路斜面GIS共同研究会
- O-377 11:00 統計的手法を用いた斜面崩壊物質の到達距離の  
解析 土砂崩壊を例として  
.....福田徹也・佐々木靖人・脇坂安彦・桑野健
- O-378 11:15 統計的手法を用いた斜面崩壊物質の到達距離の  
解析 岩盤崩壊を例として  
...桑野 健・佐々木靖人・脇坂安彦・福田徹也
- O-379 11:30 島根県宍道町に分布する“来待石”の風化特性  
.....横田修一郎
- O-380 11:45 (招待講演) Assessment of natural hazards in  
Ethiopia.....Lulseged Ayalew

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-246 塩水浸入域の観測井での淡塩境界の長期観測(島根県江  
の川の例).....徳岡隆夫・上野博芳・西村清和・鈴木重教
- P-247 活断層の影響範囲の検討 阿寺断層を例として  
.....大嶋章浩・田中姿郎・吉田英一
- P-248 空中物理探査による甚之助谷地すべりの地質構造解釈  
.....北原哲郎・中山文也・石田孝一

33. 地学教育・地学史

世話人 佐瀬和義(Fax 03-3976-0872)・阿部国広・府川宗雄

9月15日(日) 9:00 12:00 A2会場

- 座長: 381-384 府川宗雄, 385-388 阿部国広, 389-392 堀本  
格
- O-381 9:00 大学教養科目における環境学教育の在り方につ  
いて.....山縣 毅
- O-382 9:15 大学における教職課程(中学及び高校理科)の  
地学関連教科の内容 事例と実態 ...河野忠臣

- O-383 9:30 惑星地球の出来事 酸素と炭素のふるまい (小6).....阿部国広
- O-384 9:45 「大地の成り立ちと生いたち」の实践 中学理科での地球科学教育の目標と内容 ... 齋本 格
- O-385 10:00 地域の教材と『地学散歩』の発行.....佐瀬和義
- O-386 10:15 地域素材の教材化 那須の地質 .....伴 敦志
- O-387 10:30 秩父盆地北東部郷平橋周辺の地学野外実習 学校教育から生涯教育まで .....千代田篤史
- O-388 10:45 高校地学および公開講座での実践とその問題点 .....山本和彦
- O-389 11:00 清水三保海岸における深海魚“ミズウオ”の打ち上げとその原因について .....佐藤 武・石亀剛太郎
- O-390 11:15 アンモナイトの壁展示を来館者はどのようにみているか.....田口公則
- O-391 11:30 マグマをテーマとした体験型展示と博物館における地学教育.....家田健吾
- O-392 11:45 地学系天然記念物を活用する4次元体験型の総合自然科学教育 “バイオミネラル” オンネット湯の滝マンガン酸化物生成地での実践例と展望 .....三田直樹・岡崎智鶴子・尾山洋一・澤村 寛

9月15日(日) 14:00 14:45 A2会場

座長: 393-395 佐瀬和義

- O-393 14:00 火山災害を防ぐための啓発活動と地学教育 .....鎌田浩毅
- O-394 14:15 高校「理科基礎」教科書でのプレートテクトニクス成立過程の扱い.....会田信行
- O-395 14:30 地質学徒・魯迅.....清水大吉郎

9月15日(日) 9:00 17:00 ポスター会場

- P-249 21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム(その1) ... 中川康一・池田 正・芝川明義・柴山元彦・平岡由次
- P-250 高校地学開講学校数の変化(1999-2002).....柴山元彦
- P-251 大学教員がみた高校理科(地学)教育 大学教員に対して行ったアンケートより .....芝川明義・大阪府高等学校地学教育研究会
- P-252 川原の石と、穂別の今・昔.....櫻井和彦
- P-253 砂鉄が教えてくれたこと ワクワク探求活動 .....横山義人・本田瑞穂・内藤敏男
- P-254 おしゃれな体験型教材の開発による地球科学教育から総合科学教育へ 新しいタイムカプセル式の化石レプリカでの実践 .....岡崎智鶴子・三田直樹・芝原暁彦・利光誠一・澤村 寛
- P-255 プレートテクトニクスからブルームテクトニクスへ .....太田 宏・今橋健彦・丸山茂徳・渡辺 聡

34. 第四紀

世話人: 高安克己 (takayasu@soc.shimane-u.ac.jp)・吉川周作・立石雅昭

9月16日(月) 9:00 12:00 C2会場

座長: 396-399 輿水達司, 400-403 公文富士夫, 404-407 井内美郎

- O-396 9:00 下北半島にみられる海底林.....藤井昭二・奈良正義・山口吾一郎・畑中 盛・堀内一穂
- O-397 9:15 福島県矢の原湿原における風成塵分析による古環境変動 .....箕輪貴治・成瀬敏郎・叶内敦子・豊田 新
- O-398 9:30 新潟県佐渡島における中期~後期更新世の赤色風化 風化作用の相対的強度と赤色土の垂直分布について .....仲川隆夫
- O-399 9:45 信州松原湖の湖底堆積物 大月川泥流の年代との関連 .....公文富士夫・田原敬治
- O-400 10:00 石器の摩耗度からみた旧石器時代遺跡の堆積条件.....中村由克
- O-401 10:15 富士五湖湖底ボーリングコアの層序およびコア中の富士火山噴出物の化学組成 .....輿水達司・内山 高・京谷智裕・山本玄珠
- O-402 10:30 富士五湖本栖湖・河口湖・山中湖ボーリングコアのテフラ層序と花粉分析 .....内山 高・輿水達司・渡辺正巳
- O-403 10:45 有孔虫化石を用いた1993年北海道南西沖津波とイベント堆積物の比較.....岡橋久世・秋元和實・三田村宗樹・吉川周作・七山 太
- O-404 11:00 琵琶湖西岸断層系南部の最新活動時期 .....水野清秀・小松原琢
- O-405 11:15 大阪湾表層堆積物の珪藻化石群集 .....廣瀬孝太郎・佐藤裕司・三田村宗樹・安原盛明・吉川周作
- O-406 11:30 山陰地域中央部における縄文時代の花粉組成変遷.....渡辺正巳
- O-407 11:45 山陰中央部の汽水湖群の形成過程と堆積速度の変化.....高安克己・古代出雲景観復元チーム

9月16日(月) 14:00 15:45 C2会場

座長: 408-411 渡辺正巳, 412-414 高安克己

- O-408 14:00 島根県中海における水深別堆積過程と湖底の擾乱.....野村律夫・瀬戸浩二
- O-409 14:15 コアサンプルに含まれる貝類化石から見た中海の古環境変遷... 田中秀典・瀬戸浩二・佐藤高晴
- O-410 14:30 瀬戸内海の内海地形の成因について 再確認 .....井内美郎
- O-411 14:45 瀬戸内海伊予灘の完新世貝形虫群集の垂直変化から推定される高解像度海水準変動 .....安原盛明・吉川周作・七山 太
- O-412 15:00 中国のレス・湖沼堆積物による最終氷期中の古降水量変動とミランコビッチフォーシング .....山田和芳・福澤仁之
- O-413 15:15 古カトマンズ湖に記録された過去5万年の環境変動 .....酒井治孝・桑原義博・藤井理恵・山中寿朗
- O-414 15:30 南極宗谷海岸における塩湖の底質環境と堆積物の特徴.....瀬戸浩二

9月16日(月) 9:00 17:00 ポスター会場

P-256 下北半島田名部低地帯の形成過程と第四紀地殻変動  
.....桑原拓一郎・山崎晴雄

P-257 茨城県中部地域における更新統下総層群見和層の編年と古地理.....横山芳春・大井信三・中里裕臣・安藤寿男

P-258 下部～中部更新統魚沼層最上部の層序・古環境解析  
.....満川知代・小林巖雄・立石雅昭

P-259 新潟県佐渡島の沖積層.....鴨井幸彦・小林巖雄・  
安井 賢・神蔵勝明・渡辺其久男

P-260 富士五湖湖底堆積物中の最近1万年間の黄砂フラックスとオリピン化学組成変化.....京谷智裕・興水達司

P-261 琵琶湖高島沖湖底堆積物粒度変化からみた過去約15万年間の環境変遷史.....齋藤笑子

P-262 中海堆積物の環境磁気学的研究  
.....佐藤高晴・遠藤雅也・瀬戸浩二

P-263 音波探査記録からみた備前瀬戸西部海域の過去約2万年

間の地史.....大平 亮

P-264 音波探査記録から見た猫瀬戸周辺地域の過去約2万年間の海峡形成史.....中條喜友

P-265 日本列島における過去10万年間程度の内陸部隆起量分布と隆起・沈降特性の検討.....幡谷竜太・鳥越祐司・  
柳田 誠・佐藤 賢・佐々木俊法

P-266 氷期(最大海退期)における海面低下による影響を考慮した河川の下刻作用による最大侵食ポテンシャルの履歴.....鳥越祐司・幡谷竜太・柳田 誠・佐藤 賢・  
佐々木俊法

P-267 バイカル湖バソリスコエバンクの堆積物密度からみた過去約100万年間の気候変遷史.....川口優美

P-268 ベトナム・メコンデルタにおける高解像度音波探査を使用した完新世層調査.....村上文敏・木下泰正・  
斉藤文紀・Nguyen Truong Luu・Nguyen Tran Tan

## 関 連 行 事

### 市民向け講演会

日時：9月14日(土) 13:30 16:30 入場無料  
会場：白山会館 芙蓉の間  
(新潟市一番堀通町1-1, 電話 025-228-2977)

13:30 14:30

#### 1. 「新潟の化石」

先生：小林巖雄さん、堀川秀夫さん、笹川一郎さん

15:00 16:30

#### 2. 「新潟の活断層と地震」

講師：加藤碩一さん(産業技術総合研究所)

問い合わせ：新潟大学理学部立石(電話/Fax 025-262-6187；  
E-mail sedta9-4@geo.sc.niigata-u.ac.jp)

### 市民向け体験学習ツアー

#### 新潟県の化石・鉱物産地を訪ねるフィールドスクール

市民向けの見学旅行を、フィールドスクール(体験学習ツアー)として実施します。化石採集と鉱物採集の2コースがあり、野外だけでなくそれぞれ、新潟大学展示資料館を使つての学習、また室内での実習つき講義等がセットになっています。

いずれも休日の日帰りコースで、実際に化石・鉱物を採集し、自然にふれて新潟の地史を学びます。また、鉱物・宝石等について知識を深め新潟産の鉱物に親しむ場にもなります。

#### 1) 出雲崎コース

9/22(日) 午前9時 新潟大学旭町資料展示館集合

展示館見学と解説：新潟産の化石、新潟県の地史の学習。

バスにて出雲崎町小木ノ城へ：新生代(更新世)の貝化石の採集(キララガイ、エチゴキリガイダマシ、エゾタマキガイ、ナデシコガイ、キサゴ、ハナガイ、コシバニシキ、ツキガイモドキ等)、現地での鑑定会

案内者 小林巖雄(新潟大学)・加藤正明(長岡市立科学博物館)

#### 2) 間瀬コース

9/22(日) 午前9時 新潟大学理学部正面玄関前に集合

鉱物と宝石についての講義と実習：新潟産鉱物について学ぶ。バスで間瀬へ：沸石採集(方沸石、エリオン沸石、ソーダ沸石、輝沸石、トムソン沸石、あられ石、魚眼石、方解石など)  
案内者 赤井純治(新潟大学・理)

お申し込み/お問い合わせ：

申し込みは、フィールドスクール参加希望として(希望コースを指定)、往復ハガキで、下記まで申し込みください。

〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050

新潟大学理学部地質科学教室 赤井 純治

電話 025-262-6186 Fax 025-262-6194

E-mail : akai@sc.niigata-u.ac.jp

### 第1回地学普及のための巡検

#### 1. 目的

教師を対象に、地学の野外実習を通して自然に触れる楽しさと、地球科学を学ぶ楽しさと、その重要性などを認識してもらい、学校教育現場で軽視・敬遠されがちな地学教育の普及に役立てる。あわせて、このような巡検の実施を全国に広げるきっかけとすることを目的とする。

#### 2. 参加対象者(定員20名)

地学に関心を持っている・地学の初歩を学びたい・身近な地域の地学的自然について知りたい・地学の野外実習を体験したいなどの希望をもつ小・中・高校の先生方を対象とする。

なお、初歩的・基本的な内容を心がけていますので、地質学会会員外の方にもぜひ参加していただきたい。

#### 3. 日時 2002年9月16日(月)日帰り 晴雨かかわらず決行

集合 新潟大学西門 8時

解散 新潟駅 17時予定

注1) 集合時刻が少し早いかもしれませんが、後の行程を考慮し、出発時刻8:30を厳守したいので、ご協力ください。

注2) 解散時間が遅れることもありますので、復路の列車等予約される方は17:30以後の時間をお願いします。なお、新幹線は新潟始発なので、自由席でも可。

注3) 復路飛行機をご利用の方は、新潟空港で途中下車。(下

車予定時刻は16:30～40ころ)

4. 観察予定地(および内容)

新津市金津(新津油田・地層の観察)

新潟市(新潟平野の放水路・砂丘・新潟地区の地盤沈下・新潟市の海岸決壊とその対策・水溶性天然ガス)

5. 行程

- ・新潟大学西門出発 8:30
- ・河川の立体交差[下車観察]: 新川・西川の立体交差・新川放水路
- ・釜淵干拓地[車窓見学]: 釜淵干拓地跡
- ・新津石油の里[下車観察・見学]: 地層・石油・褶曲・断層・石油の世界館・昼食
- ・新潟東港[下車観察]: 新潟砂丘・含有鉱物
- ・阿賀野川[下車観察]: 松ヶ崎放水路・旧阿賀野川(通船川)
- ・山ノ下みなとタワー[下車観察・見学]: 地盤沈下地域・新潟港の展望・展示物見学
- ・入船みなとタワー[下車観察・見学]: 海岸決壊の展望・新潟みなと館の見学
- ・護国神社海岸[下車展望]: 海岸決壊防止対策
- ・関屋分水口[下車観察・見学]: 放水路・海岸決壊・ガス採取井戸・資料館見学
- ・新潟空港(途中下車の方) 16:30～40ころの予定
- ・新潟駅解散 17:00予定

6. 調査用具ならびに地形図

ハンマー・クリノメーター・サンプル袋・フィールドノート・軍手・カメラなど、各自必要に応じてご用意ください。地形図は、下記の組み合わせのいずれかを、各自ご用意ください。

5万分の1地形図...「新潟」「内野」「弥彦」「新津」「新発田」  
2万5000分の1地形図...「矢代田」「巻」「新潟北部」「新潟南部」「松浜」「内野」

なお、巡検案内資料はこちらで用意します。

7. 参加費 5000円(含 バス代・資料代・昼食代)  
当日徴収いたします。

8. 申込方法

Fax・e-mail・はがきのいずれかに、以下～の事項を明記の上、下記世話人あてに、8月31日(必着)までにお申し込みください。先着20名。満員になり次第締め切りますので、の意思表示を必ず明記してください。

氏名 連絡先(住所ならびに電話, Fax, e-mailのいずれか) 所属(学校名等)および会員・非会員の別 解散時の下車先(新潟空港か新潟駅か) 満員になっていた場合、キャンセル待ちの希望の有無

9. 案内者

白井健裕(元新潟大学教育学部教授・現同大学非常勤講師)・坂井陽一(新潟市立高志高校教頭)・村松敏雄(新潟市立高志高校教諭・新潟県地学教育研究会事務局長)・鈴木邦夫(埼玉県川越市立野田中学校教諭・学校教育委員会委員)ほか。

10. 主催 日本地質学会 普及教育事業部会 学校教育委員会  
世話人 阿部国広(川崎市立西有馬小学校教諭・学校教育委員会委員長)

連絡先: 〒216-0001 川崎市宮前区野川846-23

電話&Fax 044-751-1840

e-mail: abek1@cello.ocn.ne.jp

# 地質情報展 にいがた のぞいてみた地球の不思議

日時：9月14日(土)～16日(月)

9:30～17:00

会場：新潟市民芸術文化会館「りゅ～とびあ」  
新潟市一番堀通町3番地2(白山公園内)

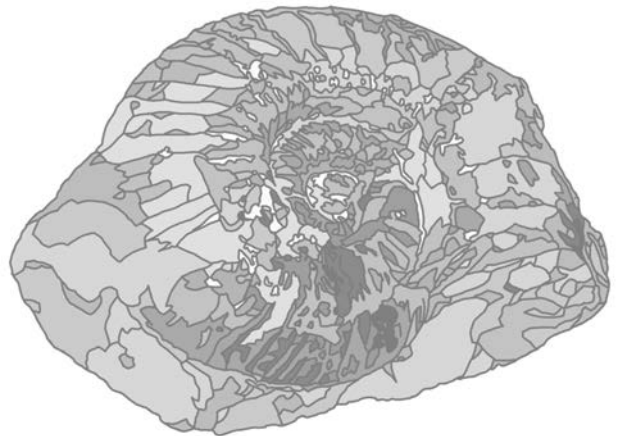
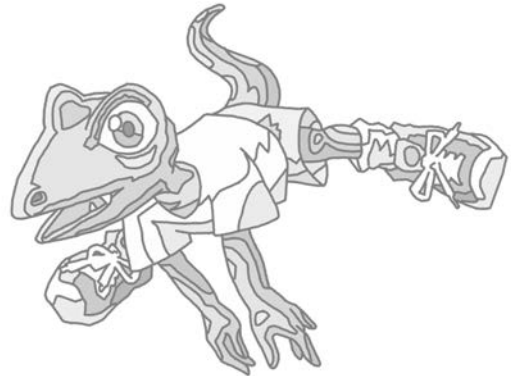
主催：独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター・日本地質学会

後援：新潟大学・新潟県・新潟県教育委員会・新潟市教育委員会・(社)新潟県地質調査業協会

日頃私たちが研究に取り組んでいる「地質」を、一般市民の方々に親しんでいただこうと、例年開催されてきた地質情報展が、今年は新潟市民芸術文化会館「りゅ～とびあ」で開かれます。

会場では、下に示すように地質に関するいろいろなテーマを、それぞれの小ブースに展開し、わかりやすく解説したポスター展示に加え、地質調査総合センターの研究者が直接説明にあたります。

また、珍しい化石や鉱物の標本展示、地質相談コーナー、化石レプリカ作成や地質現象の体験コーナーなど、子どもを含めた一般の方々が楽しみながら地質情報を身近に感じられるようなコーナーを企画しています。



## 展示内容(予定)

GSJ(地質調査総合センター)って?

地質標本館がやってくる!

自分だけの化石レプリカを作ろう!

不思議な鳴砂を鳴らしてみよう!

ペットボトルで地盤の液状化を再現!

地質図ってなに?何につかうの?

自分の町の地質はどんなだろう?

地震はなぜ起きる?

地震が起きると津波も起きる?

地震で地面が液状化する?

活断層ってどこにある?

怖いけど美しい?! いろんな火山の素顔

火山の謎を解き明かそう!

新潟周辺の温泉マップ!

上手に地熱を利用しよう!

新潟の地下に眠る資源をのぞいてみよう!

顕微鏡で石を見たこと、ある?

地球化学図ってなに?川の砂から何が解る?

重力図ってなに?地下にあるもう一つの地形!

新潟沖に沈む、もう一つのプレート境界?

地層はこうしてできた!プレートテクトニクスと褶曲・断層

\*地質図も販売します(販売コーナー)

事務局：独立行政法人 産業技術総合研究所

地質調査情報部 河村

電話 0298-61-3581 E-mail kawy@ni.aist.go.jp

<http://www.gsj.jp/Info/event/2002/niigata/niigata.html>

# 日本地質学会 *News*

Vol.5 No.8 August 2002

The Geological Society of Japan *News*

日本地質学会 / 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6階

編集委員長 高橋正樹

電話 03-5823-1150 Fax 03-5823-1156

E-mail : geosocjp@ra2.so-net.ne.jp

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/gsj/>

## Contents

### 巻頭 日本地質学会第109年年会 プログラム.....(1)~(29)

日本地質学会2003年度役員選挙の結果報告.....1

法人化調査検討委員会 第109年総会審議  
事項「法人化について」の討議資料.....2-6

研究企画委員会 報告.....7-10

倫理規定等検討委員会 中間報告.....10

会員の声.....11-12

学会の法人化について考える(正会員 徳橋秀一)/産業技術  
総合研究所と海洋科学技術センターの組織(正会員 氏家  
宏)

各賞助成.....13

平成15年度笹川科学研究助成募集要領

公募.....13-14

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻教官公募/同志  
社大学工学部環境システム学科(仮称)教員公募/東京大学大  
学院理学研究科地球惑星科学助手公募

2002年版会員名簿作成についてのお願い.....14

取り扱い地質図一覧.....15

紹介.....16-17

琉球弧の成立と生物の渡来 木村政昭 編著(徳山英一)/岩  
手の温泉を探る 島津光夫 著(八木健三)/地震予知研究の  
新展開 長尾年恭 著(庵尾浩司)

新版地質図・報告書類.....17

50万分1活構造図11「京都」(第2版)説明書(三田村宗樹)

学協会・研究会報告.....18-19

オーストリア地球科学会議「バンゲオ・オーストリア」参加  
報告(鈴木寿志)/IUGS-COGEO-International  
Geoenviromental workshop 2002 in Japanのお知らせ

都城秋穂会員の学士院賞受賞について(坂野昇平).....20

箱根町大涌谷自然科学館の役割の存続を!「火山の国日  
本の箱根シンポジウム(仮題)」の開催とその意味.....21

列島各地から.....21

愛媛の地学研究第6巻が刊行(鹿島愛彦)

委員会だより.....22

環境地質研究委員会 シンポジウム「地質汚染と土壌汚染対策  
法」のお知らせ

院生コーナー.....23-24

東北大学 大学院理学研究科地学専攻地圏進化学講座 井龍・  
山田研究グループ(浅海竜司)/“Impressed Paper”企画のお  
知らせ

支部コーナー.....25

北海道支部 ともに学ぶ自然教室/東北支部 総会開催

地学教育のページ.....25

作文コンクール「21世紀を幸せにする科学」(毎日新聞社主催)  
のお知らせ

執行委員会だより.....26

2002年第13・14回執行委員会

表紙紹介 新潟県新津丘陵にみられる火災構造(豊島剛  
志).....26

### 総会の委任状を提出して下さい

総会の議決には、会則第10条により正会員・学生会員の1/15以上(委任状を含む)の参加が必要です(2002年5月末現在の数では328名)。多くの会員の総会への出席をお願いします。欠席される場合には、ニュース誌7月号に綴じ込みの委任状を9月12日までに事務局宛にお送りください。

広告取扱:株式会社廣業社

〒104-0061 東京都中央区銀座8-2-9 電話 03-3571-0997

印刷・製本:創文印刷工業株式会社

# 日本地質学会2003年度役員選挙の結果報告

選挙管理委員会

委員長 辻 隆司

委員 五十嵐 聡・川辺文久・塚本 育・吉岡 正

標記選挙の投票を選挙細則に基づいて7月24日(水)に開票いたしました。その結果は、下記のとおりとなりましたのでご報告いたします。

## 記

有権者総数	4,914 名	内訳	有効投票	1,478 通
投票用紙発送数	4,798 通		白票	6 通
投票総数	1,504 通		無効投票	20 通

## 2003年度日本地質学会役員当選者

会長 平 朝彦(無投票当選)

副会長 加藤 碩一・木村 学(無投票当選)

大学	柴崎 直明 662	鈴木 徳行 572
大友 幸子 771	足立 勝治 597	松田 博貴 553
公文富士夫 768	院生	廣井 美邦 551
田崎 和江 736	片山 郁夫 511	吉田 武義 546
教員		
紺谷 吉弘 666	得票順当選者	次点以下
斉藤 尚人 634	石渡 明 664	岡村 眞 524
佐瀬 和義 574	井内 美郎 658	小坂 共栄 519
官公庁	新妻 信明 633	菊地 隆男 495
徐 垣 627	木村 純一 619	竹内 誠 493
赤羽 久忠 617	狩野 謙一 612	今岡 照喜 486
吉田 史郎 598	玉生 志郎 595	平島 崇男 480
民間	佐々木和彦 586	角田 史雄 470
荒戸 裕之 703	伊藤 谷生 584	仲谷 英夫 463



選挙管理委員会による開票風景



## 第109年総会審議事項「法人化について」の討議資料

法人化調査検討委員会

徳岡隆夫(委員長)・会田信行・赤羽貞幸・天野一男・上砂正一・滝田良基

109年総会では日本地質学会の法人化について評議員会の下に準備委員会を設置して準備を進めることが議題となっています。以下はこの議題についての討議資料です。ニュース誌前号(7月号p1-2)の記事とともに読みいただき、総会での審議にご参加ください。なお、委員会の報告は「法人化調査検討委員会報告」(同5月号p12-13)および「新春座談会:これからの地質学会を語る」(同1月号p2-7)についても、あわせてご一読ください。なお、ご意見、疑問やお気づきの点がありましたら、委員長あるいは学会事務局までお寄せください。

準備委員会設置の提案に至る経過(ニュース誌7月号p1-2参照)

委員会はこれまでに公益法人制度や文科省による学会法人設立のための諸資料の検討、文科省認可の学会法人の状況把握、最近法人化あるいは準備中の関連学会からの事情聴取などとともに5回の委員会を行い、その内容を評議員会に報告、その都度長時間をかけた審議が行われました。その概要は以下のとおりです。

- ・01年12月評議員会(ニュース誌1月号p31) 関連学会の状況報告、公益法人の任務と役割、法人化で生じる諸問題についての自由討論など。
- ・02年3月評議員会(同5月号p23) 法人化の必要性、法人化に伴う運営上の問題点の討議などを行い、「法人化する必要性を評議員会として認める」提案を賛成多数で採択。
- ・02年6月評議員会(同7月号p31) 前回評議員会以降の関連学会の動向聴取と文科省担当部局訪問等の報告、定款案の提示とその骨子の説明、法人化する場合の組織運営形態(総会の代議員制、役員選挙方式、評議員会に代わる常任代議員会の設置など)が説明・審議され、委員会答申にもとづいて新潟総会で法人化準備委員会設置を提案することを賛成多数で採択。

社団法人化する場合の組織運営についての基本的な考え方

今回の提案は、現在の任意団体(権利能力なき社団)としての地質学会を、社団法人化する準備を進めようとするものです。社団法人の範囲は広く、さまざまですが、学会法人もその一つです。任意団体の場合には会則などを自由に決めることができますが、社会的な存在として認知されるためには、その代償として一定の基準を備えている必要があります。その根幹となるのが定款です。認可にあたる文科省は、学会法人に対して定款作成例を示し、それにもとづいて申請することを求めています。最近法人化された学会、また現在申請中の学会の定款は、細部では表現がいくらか異なる場合がありますが、ほぼこれにもとづいています。末尾に示す定款案は、それに従って作成しています。なお、この案は、以下に示す骨子とともに、社団法人化後の組織運営体制の概要を理解していただくためのものです。

本総会で準備委員会設置が承認された場合に、文科省と具体的な折衝が始まることとなりますが、もとより交渉事ですので、修正が必要になる部分が出てくることは、十分に予想されます。文科省の学会法人の設立許可の基準はニュース誌5月号13pに示していますが、「学問分野として確立していること」、「とくに学術会議のなかでの活動」、「一般国民への普及啓発活動」、「学術情報の国際的な発信」、「厳正・適切な経理処理」などで、これらについての説明が求められます。地質学会は「基本財産2000万円以上」の条件を除けば、充分な資格・実績を備えていることは明らかで、むしろ長い歴史のなかで社団法人化が話題にならなかったほうがおかしいといってもよいと思います。理学分野では数学・物理学・化学・動物学・

植物学・天文学などの各基本分野の学会は、かなり以前に社団法人化されています。社会的な発言力の確保という点では、地質学分野は大きく立ち後れているといわざるを得ません。委員会としては、最近法人化された学会や法人化を目指して努力を重ねてきている学会からの情報収集を進めるなかで、できるだけ早い機会に法人化を実現することが今後の学会の発展にとって必要である、という認識を深めてきました。

法人化した場合には、任意団体のこれまでとは、組織形態は大きく変わることになります。

その一つは、総会です。現行会則では委任状を含む1/15以上の参加が成立条件ですが、社団法人にあつては1/2以上という厳しい条件が課されていることから、「代議員制を採用することになります」。

もう一つは、組織運営形態です。「総会 評議員会 執行委員会」という現行の形態は、社団法人にあつては「総会 理事会」となります。任意団体とは異なって社団法人においては責任の所在を明確にする必要があり、理事および理事会が全責任を持つこととなります。会長(理事長)も理事の一員となります。従って現行の総会に次ぐ審議・議決機関としての評議員会は廃止することになりますが、地質学会にとって評議員会が果たしてきた役割は大きく、これに代わる機関は不可欠であると判断されることから、常任代議員会を学会規則として定め、評議員会の役割を実質的に担わせることとします。

委員会としては、これまで任意団体として行ってきた組織運営体制を最大限生かしながら、社団法人へと移行するのが良いと考えています。上記の評議員会に代わる組織としての常任代議員会は、その一つとしての提案です。代議員の選挙は正会員により、全国区と支部で半数ずつを選出し、前者においては現在の評議員選挙の方式の採用、また代議員による理事の選挙では、現在評議員会で行っている互選による執行委員の選挙方式の採用を提案しています。これらの問題は、今後準備委員会においても引き続き検討することになりますが、法人化するにあつての基本的な考え方については、この総会で真摯な討論を行って、会員間の共通の理解としておく必要があると考えています。

これからのスケジュールは?

今総会で準備委員会設置が承認された場合には、定款案を含め前述のような法人設立の内容について、ただちに文科省との折衝を始めることとなります。同時に、基本財産2000万円確保のための募金活動をスタートさせる必要があります。約5000人の会員でこの目標は容易ではありませんが、社会的に認知され責任を果たすためには、越えなければならないハードルです。

文科省との折衝で法人化の認可申請の見通しがついたと判断される段階で、任意団体として現行会則にもとづく総会を行い、社団法人に移行するための最終的な定款案について承認を求めることとなります。移行の手続きがどのようになるかについては、2つの可能性が考えられます。

一つは、定款案とともに役員(とりあえずその時の会長、副会長、会計監査、執行委員などがそのまま引き継ぐ?)の承認および設立総会の持ち方についての承認を求め、それが得られた段階で任意団体の総会を設立総会に切り替え、定款、役員などを承認する、という方式です。この場合、定款にもとづく代議員選挙を行わないこととなりますが、その後の文科省への設立の申請では社員(役員と代議員)についても報告する必要がありますので、最初の代議員についてどのようにするのか(たとえば評議員が代行するなど)、工夫

が必要になります。もう一つは、定款案とともに現行の会則の改正（代議員制を含む）の承認を求め、社団法人へスムーズに移行できる体制をまず整え（進行中の前例あり）、その上で、任意団体としての代議員制にもとづく総会を行い、定款、役員などを承認する、という方式です。

どのような方式を取ることになるかは、次の準備委員会が考える問題ですが、認可が下りるまでは任意団体のままです。そのまま活動ができるようにしておく必要があります。いずれにしても、最終的な定款案を諮る総会は、新潟総会で法人化についての議案が承認され、準備委員会がただちに精力的に活動をスタートさせたとして、もっとも早い場合で1年後の静岡総会ということになります。

#### 定款案についての説明

以下は02年6月の評議員会に示した資料に沿っていますが、その後の委員会での検討で、一部修正を加えています。常任代議員会とその選出方法については、定款の枠外となりますが、ここで説明することにします。なお、これらは社団法人化後の組織運営体制の概要を理解していただくためのもので、今後の検討で変わりうるものです。

学生会員 会員は正、賛助、名誉の3区分となるので、学生会員は準会員として扱うことになる。

役員 理事（15～20名、うち会長1、副会長2、常務理事1）および監事（2名）とする。任期は2年とし、毎年半数ずつ改選する（社団法人にあっては会長・副会長は理事の一員）。

総会 代議員制とし、役員および代議員（200名、定款案では幅をもたせるので、170～220としておく）で構成する（これらが民法上の社員となる）。代議員は会員を代表して総会に出席し、必要事項を審議・議決する。任期は2年とし、毎年半数ずつ改選する。なお、代議員以外の正会員は総会の構成メンバーでないことになるので、定款には文科省作成例にもあるように、「正会員は総会に出席して意見を述べるができる」という条項を入れる。総会の定足数は代議員の1/2以上、出席者の過半数で決す。事業年度（1～12月）は現行どおりとして、3月および9月の2回行うこととし、前者で決算、後者で予算を審議する。なお、最近の例では年1回開催で認められている例もあるので、今後検討する。

常任代議員会議（常任代議員および各支部代表で構成）総会に次ぐ審議・議決機関である評議員会は廃止し、代わりに常任代議員会議を学会規則（定款の枠外）として定め、従来評議員会が果たしてきた役割を実質的に担わせる。常任代議員会議は会長の諮問機関として、理事会に対して助言を行う。会議は年4回とし、過半数で成立、出席者の過半数で決する。（参考：これまでの評議員会は実質的には3月、6月、9月総会の前および12月の4回で、これらに相当する。）  
理事会（会長1、副会長2、常務理事1を含み15～20名で構成）総会に次ぐ議決・執行機関としての役割を担い、年10回以上とし、2/3以上の出席で成立、出席者の過半数で決する。従来、執行委員会が果たしていた役割は理事会が担う。常務理事は従来執行委員長が果たしていた役割を担う。

役員の選出方法（理事・監事は定款では総会で選任することにな

るので、あくまでも候補者の選出）

会長・副会長 定款案では理事の互選による。学会規則により正会員の投票により、会長・副会長予定理事候補者を選出する。（後述の問題点を参照）

その他の理事 代議員候補者による互選で、候補者を選出する。（理事候補者に選出された者は代議員でなくなる）

常務理事 理事の互選により候補者を選出する。

監事（2名）：1名は正会員の投票により、候補者を選出する。あとの1名は公認会計士の資格をもつ者を会長が指名する。

代議員の選出方法（定款では総会で選任することになるので、候補者の選出；200名+選出理事数）正会員の投票により、正会員のなかから半数ずつを全国区と地方区にわけて選出する。任期を2年とし、毎年半数を改選する。全国区は現行の評議員選挙方式（所属別最低充足数を含む）を踏襲して行う。地方区は支部別に正会員数に応じて定数を配分することとし、選出方法は別途検討する。代議員候補者のなかから、互選により理事候補者を選出する。理事候補者に選出された者は代議員からは除く。

常任代議員の選出方法 常任代議員（仮称、50名、任期2年、毎年半数改選）は全国区代議員選挙の得票順に、階層別最低充足数を考慮して選出する。（常任代議員会議は常任代議員および各支部代表1名で構成）

定款案と学会規則に関して、大きな問題となるのはつぎの2点です。

常任代議員会議（仮称）：評議員会に実質的に代わるものとして設置するものです。既存の法人学会で評議員会を定款上で残している例や社団法人における評議員会の意義・役割を指摘している解説書もありますが、文科省は新しく認可する場合には定款からは外するのが望ましいと考えているようです。今回の案では総会を代議員制により行うということになりますので、代議員（および代議員から選出される常任代議員）が評議員の役割を担うという考え方にたっています。会員数によって代議員数がほぼ決まりますので、代議員数を200としていますが、この人数で総会以外の会議を行うのは難しいと判断されることから、常任代議員会を提案しています。評議員会が総会に次ぐ審議機関として位置づけられていたのに対して定款の外に会長の諮問機関として設けることになりましたので、実質的に評議員会に代わってその役割を果たすには、選出された方々の不断の意識的な努力が必要となります。

会長・副会長の選出方法：社団法人にあっては理事の一員となります。これまでの方式にもとづいて正会員の選挙によって会長副会長予定の理事候補者として選出することを提案していますが、定款では「理事の互選によって決める」ことになっています。従って、上記のように学会規則として決めておいても、理事候補者が総会で承認された後に開かれる理事会で会長副会長予定理事がそのように選出されないケースはあり得るということになります。このような問題については、正会員の投票によって選出された代議員が互選する理事候補者の方々の良識にまかせるべき問題であると考えます。

## 社団法人日本地質学会定款案

### （法人化調査検討委員会v4）

#### 第1章 総 則

（名称）

第1条 この法人は、社団法人日本地質学会（The Geological Society of Japan、略称J.G.S.）という。

（事務所）

第2条 この法人は、事務所を東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビ

ル内に置く。

（支部）

第3条 この法人は、理事会の議決を経て、必要の地に支部を置くことができる。

#### 第2章 目的及び事業

（目 的）

第4条 この法人は、地質学に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、地質学の進歩普及を図り、もってわが国の学

術の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究発表会、講演会等の開催
- (2) 学会誌その他の刊行物の発行
- (3) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (4) 関連学術団体との連絡及び協力
- (5) 国際的な研究協力の推進
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

第3章 総 則

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の通りとする。

- (1) 正会員 地質学あるいはその関連科学に関し学識経験を有する個人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人または法人
- (3) 名誉会員 正会員の中で地質学の発展に関して功績が特に顕著な者で、総会の議決をもって推薦された者

(入会)

第7条 会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。

(会費)

第8条 この法人の会費は総会の議決をもって別に定める。

- 2 名誉会員は、会費を納めることを要しない。
- 3 既納の会費は、いかなる事由があっても返還しない。

(資格の喪失)

第9条 会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 死亡、もしくは失踪宣告を受け、または法人である学会が解散したとき。
- (3) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届を会長に提出しなければならない。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するときは、総会の議決を経て、会長が除名することができる。

- (1) この法人の名誉を傷つけ、又はこの法人の目的に違反する行為があったとき。
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき。
- (3) 会費を1年以上滞納したとき。

第4章 役員、代議員、社員及び職員

(役員)

第12条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以上20名以内(うち、会長1名、副会長2名、常務理事1名)
- (2) 監事 2名

(代議員)

第13条 この法人に170名以上220名以下の代議員を置く。

(社員)

第14条 役員及び代議員をもって、民法上の社員(以下「社員」という)とする。

(役員の選任)

第15条 理事及び監事は総会で選任し、理事は、互選で会長、副会長、常務理事を定める。

- 2 特定の理事とその親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない。
- 3 理事及び監事は、相互に兼ねることができない。

(理事の職務)

第16条 会長は、この法人の業務を総理し、この法人を代表する。

- 2 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名した順序により副会長がその職務を代理し、又はその職務を行う。
- 3 常務理事は、会長を補佐し、理事会の議決に基づき、日常の事務に従事し、総会の議決した事項を処理する。
- 4 理事は、理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、この法人の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を議決し、執行する。

(監事の職務)

第17条 監事は、この法人の業務及び財産に関し、次の各号に規定する職務を行う。

- (1) 法人の財産の状況を監査すること。
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3) 財産の状況又は業務の執行について不整の事実を発見したときはこれを理事会、総会又は文部科学大臣に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要があるときは、理事会又は総会を招集すること。

(役員の任期)

第18条 この法人の役員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 4 補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 5 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

(役員の解任)

第19条 役員が次の各号の一に該当するときは、理事現在数及び正会員現在数の各々の4分の3以上の議決により会長がこれを解任することができる。

この場合、理事会及び総会で議決する前にその役員に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき。

(役員の報酬)

第20条 役員は、有給とすることができる。

- 2 役員の報酬は、理事会の議決を経て会長が定める。

(代議員の選任)

第21条 代議員は正会員の中から、選挙により選出し、総会で選任する。

- 2 代議員は役員を兼ねることができない。
- 3 代議員の選挙は、別に定める規程に基づいて行う。
- 4 代議員の欠員が生じた場合は、別に定める規定に従い、速やかに欠員を補充する。

(代議員の職務)

第22条 代議員は正会員を代表して総会に出席し、審議事項を議決する。

(代議員の任期)

- 第23条 代議員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 欠員又は増員により選任された代議員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
  - 3 代議員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その任務を行う。

(代議員の解任)

- 第24条 代議員が次の各号の一に該当するときは、理事現在数及び社員現在数の各々の4分の3以上の議決により、会長がこれを解任することができる。
- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき
  - (2) 職務上の義務違反その他代議員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

(代議員の報酬)

第25条 代議員は無報酬とする。

(事務局及び職員)

- 第26条 この法人の事務を処理するため、事務局及び必要な職員を置く。
- 2 職員は、会長が任免する。
  - 3 職員は、有給とする。

## 第5章 会 議

(理事会の招集等)

- 第27条 理事会は毎年10回以上会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるとき、又は理事現在数の3分の1以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、会長はその請求があった日から10日以内に臨時理事会を招集しなければならない。
- 2 理事会の議長は、会長とする。

(理事会の定足数)

- 第28条 理事会は、理事現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は、出席者と見なす。
- 2 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(総会の構成)

第29条 総会は、社員をもって組織する。

(総会の招集)

- 第30条 通常総会は、毎年3月及び9月に会長が招集する。
- 2 臨時総会は、理事会が必要と認めるとき、会長が招集する。
  - 3 前項のほか、正会員現在数の5分の1以上から会議に付議すべき事項を示して総会の招集を請求されたときは、会長は、その請求があった日から40日以内に臨時総会を招集しなければならない。
  - 4 総会の招集は、少なくとも30日以前に、その会議に付議すべき事項、日時及び場所を記載した書面をもって社員に通知する。
  - 5 正会員は総会に出席し、意見を述べることができる。

(総会の議長)

第31条 総会の議長は、会議のつど、出席社員の互選で定める。

(総会の議決事項)

第32条 総会は、この定款に定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 事業計画及び収支予算についての事項

(2) 事業報告及び収支決算についての事項

(3) 正味財産増減計算書、財産目録及び貸借対照表についての事項

(4) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(総会の定足数等)

- 第33条 総会は、社員現在数の過半数以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者及び他の社員を代理人として表決を委任した者は、出席者と見なす。
- 2 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、社員である出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(会員への通知)

第34条 総会の議事の要領及び議決した事項は、全会員に通知する。

(議事録)

第35条 すべての会議には、議事録を作成し、議長及び当該会議において選任された出席者の代表2名以上が署名押印の上、これを保存する。

## 第6章 資産及び会計

(資産の構成)

第36条 この法人の資産は、次のとおりとする。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 会費
- (3) 資産から生じる収入
- (4) 事業に伴う収入
- (5) 寄附金品
- (7) その他の収入

(資産の種別)

- 第37条 この法人の資産を分けて、基本財産と運用財産の2種とする。
- 2 基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。
    - (1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産
    - (2) 基本財産とすることを指定して寄付された財産
    - (3) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産
  - 3 運用財産は、基本財産以外の資産とする。

(資産の管理)

第38条 この法人の財産は、理事会が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て定期貯金とする等確実な方法により、会長が保管する。

(基本財産の処分の制限)

第39条 基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、又は運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事現在数及び社員現在数の3分の2以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の承認を受けて、その一部に限りこれらの処分をすることができる。

(経費の支弁)

第40条 この法人の事業遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

(事業計画及び収支予算)

第41条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、会長が

編成し、理事会及び総会の議決を経て、毎事業年度開始前に、文部科学大臣に届け出なければならない。

事業計画及び収支予算を変更しようとする場合も同様とする。

(暫定予算)

第42条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない事情により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(収支決算)

第43条 この法人の収支決算は、会長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書及び正味財産増減計算書並びに会員の異動状況書とともに、監事の意見を付け、理事会及び総会の承認を受けて毎事業年度終了後3月以内に文部科学大臣に報告しなければならない。

2 この法人の収支決算に収支差額があるときは、理事会の議決及び総会の承認を受けて、その一部又は全部を基本財産に編入し、又は翌年度に繰り越すものとする。

(長期借入金)

第44条 この法人が借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事現在数及び社員現在数の各々3分の2以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の承認を受けなければならない。

(新たな義務の負担等)

第45条 第37条ただし書及び前条の規定に該当する場合並びに収支予算で定めるものを除くほか、この法人が新たな義務の負担又は権利の放棄のうち重要なものを行おうとするときは、理事会及び総会の議決を経なければならない。

(事業年度)

第46条 この法人の事業年度は、毎年1月1日に始まり、翌年12月末日に終わる。

第7章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第47条 この定款は理事現在数及び社員現在数の各々4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の認可を受けなければ変更することができない。

(解散)

第48条 この法人の解散は理事現在数及び社員現在数の各々4分の3以上の議決を経て、かつ、文部科学大臣の許可を受けなければならない。

(残余財産の処分)

第49条 この法人の解散に伴う残余財産は、理事現在数及び社員現在数の各々4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の目的を有する公益法人に寄附するものとする。

第8章 雑 則

(書類及び帳簿の備付等)

第50条 この法人の事務所に、次の書類及び帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これらに代わる書類及び帳簿を備えたときは、この限りでない。

- (1) 定款
- (2) 会員の名簿
- (3) 役員及びその他の職員の名簿及び履歴書
- (4) 財産目録
- (5) 資産台帳及び負債台帳
- (6) 収入支出に関する帳簿及び証拠書類
- (7) 理事会及び総会の議事に関する書類
- (8) 官公署往復書類
- (9) 収支予算書及び事業計画書
- (10) 収支計算書及び事業報告書
- (11) 貸借対照表
- (12) 正味財産増減計算書
- (13) その他必要な書類及び帳簿

2 前項第1号から第5号までの書類、同項第7号の書類及び同項第9号から第12号までの書類は永年、同項第6号の帳簿及び書類は10年以上、同項第8号及び第13号の書類及び帳簿は1年以上保存しなければならない。

3 第1項第1号、第2号、第4号及び第9号から第12号までの書類並びに役員名簿はこれを一般の閲覧に供するものとする。

(細 則)

第51条 この定款の施行についての細則は、理事会及び総会の議決を経て、別に定める。

附 則

- 1 この定款は、文部科学大臣の設立許可があった日(平成 年 月 日)から施行する。
- 2 第40条の規定にかかわらず、この法人の設立初年度の事業計画及び収支予算は、設立総会の定めるところによる。
- 3 第44条の規定にかかわらず、この法人設立当初の事業年度は、平成 年 月 日から平成 年12月31日までとする。
- 4 第13条の規定にかかわらず、この法人設立当初の理事及び監事は次の通りとする。

- 理 事(会長)
- 理 事(副会長)
- 理 事(副会長)
- 理 事(常務理事)
- 理 事
- 理 事
- 理 事
- 理 事
- 理 事
- 理 事

.....  
.....  
.....

5 従来日本地質学会に属した権利義務の一切は、この法人が継承する。

はじめに：

平成12年度10月評議員会の下に発足した研究企画委員会は「現在の地球科学と地質学を巡る状況を分析し、社会動向とその将来を見すえて、日本地質学会の理念を再確認する。理念を実現していく上での基本的事項について提言し、それを推進するための研究企画を立案し、提案する」ことを任務とした。委員会の構成は評議員全員がそれぞれの分科会に所属して、検討をすすめることとした。この間、地質学会の年会の機会を利用して、2回の公開討論会を開催し、議論を重ねて来た。また平成13年度には科学研究費（企画）「21世紀地質学発展の総合戦略の構築」の補助も受け、分科会や討論会の開催を行った。特に新しい支部の発足（中部支部や四国支部）を契機として新しい支部活動のあり方も模索した。以上の議論の結果、得られた現段階でのまとめが以下の文章である。目まぐるしく展開する情勢の中でも着実に前進する学会として発展することを念じて報告の枕とする。

## 「新しい日本地質学会構築へむけて」

新しい世紀に入り、今後の世界と日本社会の将来を見すえて、日本の学術・文化・科学・技術、そのための高等教育のあり方などに関して大規模な再編成がすすんでいる。たとえば2001年の文部科学技術省の発足と国研の大再編成につづいて、2004年からの国立大学の法人化の方向が国大協において決定した。政府主導の科学技術基本計画では、生命科学、情報科学、地球環境・ナノ技術開発と重点分野を設定し、日本の科学技術体制を効率的に再編成する路線が取られている。また高等教育においても全国一律の平均的教育をほどこす路線から転換し、競争原理を導入することがすすめられている。これらに対する賛否に関わらず、地球科学界・地質学界も、この目まぐるしい流れの影響を受けずにはいられない。この流れは社会に対しては短期的にはより効率的に科学技術の成果を還元する可能性があるとともに、長期的、持続的に科学技術の成果を社会に還元していく上で欠かすことができない基礎的な学術研究が軽んじられる可能性があることも多くの論の指摘するところである。

特に重点とされた地球環境に関しては、地質学は最も貢献するところの大きい分野であるが期待されているが地質学界の主体的努力は極めて不十分と思える。学界が激動する情勢、社会的要請に敏感に対応する必要があるとともに、科学の発展という長期的な展望も見据えた基礎科学的視点から、正確な対応が求められている。

地球科学・地質学の果たすべき知の創造への貢献、地球環境の持続的保全・資源エネルギーの人類社会への安定的供給など人類と地球の持続的生存への貢献、そして防災や環境汚染対策等、当面する社会要請への貢献を日本地質学会の3つの役割として明確に押し出す必要がある。新しい理念のもとに活発な創造的研究活動を展開し、旺盛に情報発信交流を展開し、緻密な教育普及活動を展開して、社会貢献を強く意識した新しい日本地質学会構築を旨とするために以下の報告をまとめる。

## 日本地質学会の構成

日本地質学会は地質学に関連する科学者、技術者、教育者、将来これらの分野で職業を得ようとする学生、そしてこの分野に知的興味を持つ自立した個人が集まって成立している。1893年創立以来、多様な会員の多様な要求に依拠して学会は発展してきた。21世紀に入り日本地質学会は、100年以上に及ぶ伝統と新しい可能性を統一し、活力をもった学会として更に発展することをめざしている。

## 地質学の一般的役割と日本地質学会の理念

地質学とは地球・惑星の岩石圏を主な研究の対象としつつ、それと地球表層部の流体圏や生命圏、そして人間圏との相互作用をも解明することを目的とする「地球を知る」科学の体系をいう。私達、日本地質学会はこのような科学である地質学の基本的役割は以下の3つのことに貢献することであると考えている。

### 1. 「知の創成への貢献」

20世紀は「科学の時代」とも言われる時代であった。「私達はどこからやってきて、今どこにいて、どこへいくのであろうか？」という人類共通の根本的問いに対する科学の解答は、人類を非科学的な迷信による恐怖から次々と解放してきた。地質学と地球科学は直接的に私達の住む惑星/地球の起源、進化、現在の姿、そして予測される大局的未来を明らかにし、また生命の進化する過程を明らかにした。そして私達が有限な空間と時間の中に生きていることを描き出した。しかし、科学の急速な発展は一層多くの未解明な課題を提出した。還元主義的科学だけでは解けない科学の限界と自然そのものの複雑性が浮かび上がり、地球や生命、環境などを理解するためにはシステムや自然の階層性・歴史性などに関する深い考察が不可欠なものとなっている。21世紀こそ地質学の新しい発展が新しい知の創造に向けて一層貢献できる時代である。

### 2. 「人類と地球の持続的生存への貢献」

地球環境の持続的保全、資源エネルギーの安定的供給などが生命と人類の生存のかかわった重大な問題として浮上しており、特に先進国の科学と政治と経済の果たすべき役割が国際社会で強く求められている。私達は、固体地球内部で進行する変動が地球表層の流体圏、生命圏、人間圏と強くリンクして地球の進化がすすみ、地球表面の環境が形作られて来たことを最も良く知っている。また地球外からの擾乱も時として起こったことも知っている。この科学を一層発展させ、未来の地球環境予測とその持続的保全に対する貢献がこれまでにない空間と時間スケールで求められている。他の自然諸科学や人文社会科学との強い相互作用をもった新しい地質学のこの分野での貢献は当面する極めて重要な課題である。

また、21世紀、限界に達すると見積られる地球人口の増加に対して、国際社会は資源エネルギー、水資源、食料枯渇などの問題に対する戦略的将来対応が迫られている。地球スケールでの物質循環に対する深い科学的理解なくしてこれらの人類の生存に関わる課題には対応できない。この分野での日本の地質学の貢献も極めて重要である。

### 3. 「当面する社会要請への貢献」

活発な変動帯における地震災害、火山災害、斜面崩壊災害、都市基盤災害など自然災害予測と防災、生活時空間における環境汚染、土壌汚染、水汚染、資源エネルギー開発と廃棄物処理など社会が当面する課題に対してこれまで地質学は重要な役割を果たして来た。21世紀の地球的規模での資源エネルギー枯渇への対応と共に、長期的に安全な産業廃棄物地下処分や最終核廃棄物地層処分などに対しても、科学的見地から積極的にこれらの課題に関わり、安全な社会の持続的発達を果たす上で地質学の貢献も極めて重要である。

これら3つの役割は相補的な関係にあり密接不可分である。地質学に多様に関与する人たちが相互に交流し、総合的にこの地質学の3つの基本的役割を推進すること、そしてその成果を広く社会へ普及することが日本地質学会の基本的理念である。

### 1. 学会活動改善に関する提言

学会の果たす最大の役割は地質学に関わる専門家集団として、研究成果の公表に権威ある保証をあたえること、最近の会員の研究活動にかかわる情報と人の交流を支援することである。加えて専門家集団としての社会への情報発信も近年とりわけ重要である。また、情報発信交流の電子化に伴って学会活動の根本的な変更が世界的に進んでいる。情報に関わる著作権問題/倫理問題に対する法的な対応も含めて早急に情報発信交流の方針を確立する必要がある。

#### 情報発信

科学の成果は広く国際的に提供されるべきものである。日本の発行する地球科学関連国際雑誌の中でもっとも高いimpact factorを持つIsland Arc誌の電子ジャーナル化に引き続いて、この国際誌の国際競争力を高めるため、引き続き努力を重ねることが重要である。

地質学会会員の職業構成を考慮し、会員の多様な要求に配慮した活動を展開するために、地質学雑誌の位置付けなどを見直す必要がある。

社会に向けて広く貢献することを高く掲げ、ホームページの飛躍的充実など緻密な情報発信と各種問題への権威ある発言提言を組織する必要がある。学会時における科学の特筆すべき成果や特筆すべき社会貢献などに関して記者会見を開く等、自ら直接、社会へ還元することも重要である。

社会や国民のニーズを吟味し、一般社会へ向けた地球と地質に関する旺盛な出版活動を組織的に展開する必要がある。

#### 学会運営/年会等開催

学会の年会の開催方式に関して多くの努力が払われ、改善されてきたが、他の地球諸科学あるいは他の自然科学や人文社会諸科学も含めた境界領域に大胆に踏み込んだ魅力に富み、時機を得たセッションをリードすることが特に重要である。

日本地質学会では年会などの開催時以外に、研究の交流をすすめる場をほとんど設定してこなかった。アメリカ地質学会のペンローズ会議方式のようなテーマを明確にし、かつ公募によって参加者をつのり、数日間宿泊を共有して徹底した議論を展開して科学を前へすすめる場を学会として提供することが重要である。その場合、データやアイデアの独創性の尊重等が前提となることは言うまでもない。質の高い会議はIsland Arc誌が積極的に特集号などを誘致して成果を世界へいち早く発信することも重要である。

春の地球惑星関連学会合同大会におけるセッションの設定に当たっては日本の地球惑星関連の研究者が一同に会するという地質学会だけでは得られないメリットを最大限生かして、他の学会との共催や地球惑星関連科学以外（生命科学や情報科学、あるいは応用科学）との共催を含めて開く工夫をするなど、特に境界領域を強く意識し、リードすることが重要である。たとえば現在の地球惑星関連学会合同大会においても地球環境を全面にすえた取り組みなどは飛躍的に強化することが重要である。

学会運営や年会開催に関して、これまで押し進めてきた男女共同参画に関わる課題を更に意識的にすすめる必要がある。また、女子学生の地質学への積極的参加と将来この分野で職業を得られる様、支援する取り組みを一層強化する必要がある。特に他の自然科学分野における男女共同参画のための取り組みとも連携し、研究教育機関などにおける職場環境改善のための活動支援も重要である。

支部活動の抜本的強化を計る必要がある。これまで支部活動はそれぞれの地域によって様々な活動を展開してきた。ともすると学会構成員の要求や地域的な研究交流に閉じがちであった活動を大胆に開き、地域社会との結びつきを抜本的に強化する創造的活動を展開し、地質学会の基本的理念を実現していく活動を強化する必要がある。新しく発足した四国支部における学会ファンの組織化や中部支部の取り組み等は教訓となる。

### 2. 大学・大学院教育と学会の役割に関する提言

地質学の研究活動の主要な部分は大学と国公立の研究機関がこれまで担って来た。1990年代まで地質学が主体であった日本の大学における地球科学の研究教育体制は他の地球科学諸分野との統合による地球惑星の総合的研究と教育、あるいは地球環境や自然環境解明を理念として他の自然諸科学との統合による総合的研究と教育を掲げて再編成されてきた。また、このことは地質学、地球物理学、地球化学など細かく地球諸科学へと分化していた20世紀的意味での「地球科学」の古典的体制がはっきりと終わったことを明確にした。しかし、研究教育の組織的体制は変更されたが、内容として実体的になるにはまだまだ途上にあると言わざるを得ない。たとえば、新しく総合された教育カリキュラムがどのように機能しているかは明確ではない。地質学は地球科学の黎明以来、その中心的位置を占め、常に他の自然諸科学の先進的成果を取り入れて、地球の理解を押し進めてきたが、今その専門性の深化とともに他の自然諸科学や人文社会科学も含めた新しい教育体系の構築が求められている。

大学や研究機関の法人化に見られるように、研究活動が「より効率的・競争的環境」で行われるように急速に改革がすすめられている。この改革は「自主的・自律的な科学技術の先端」を形成するために有効である可能性がある。一方、短期的な効率的・競争的環境になじまない「時間を要する基礎的な知の創成」と「広く深い視野を持つ豊かな科学」を発展させることに配慮が欠けると地質学の総合的役割・日本社会が果たすべき大局的な国際的役割が果たせなくなる可能性もある。多様な個性をもつことになると予想される大学や研究機関を結ぶ学会の新たなありようが極めて重要である。

地質学における20世紀初頭の古典的カリキュラム体系は歴史的役割を果たした。学際的領域と融合した新しい地質学が果たすべき役割を推進する人材を育成するための新しい体系的カリキュラムの形成は極めて重要である。個々の大学の自律的努力に加えて学会として高等教育の体系化を支援することが重要である。大学間カリキュラム・単位交流など可能性を最大限探り、また学会が独自に学生を対象としたさまざまな創意あるショートコース「学校」を開催する必要がある。学際的カリキュラム体系を強く意識した「教育出版活動」も支援する、など、新しい地質学を担う人材の開発をすすめる必要がある。

学会開催時あるいは夏休み等の期間を利用して以下のようなショートコースを設ける。個別大学では不足する基礎的な教育に関して学会として相互に補助するシステムを設ける。シラバス(講義、実験、実習内容、時間)を明確にして、学会法人と大学法人の間の契約による大学の単位認定になるような新しい試みを行う。

- 総合的地質調査法コース
- 物理探査観測コース
- 実験地球科学コース
- 分析地球科学コース
- 総合観測コース

(海洋底コース、活断層コース、山岳コース、都市基盤コース)  
地球惑星科学、地球環境科学において取り組まれているプロジェクト研究から積極的に最先端に関する集中的なセミナーを誘致し、若い研究者や大学院生の活発な取り組みを支援する。

(統合深海掘削計画、セレーネ計画、月再訪計画、地震予知計画、火山噴火予知計画、廃棄物地層処分など)

大学における地球惑星科学、地球環境科学などのカリキュラムに関して学会としての検討を行い、地球科学における人材養成の体系化を計る。

### 3. 初等中等教育と学会の役割に関する提言

地質学の総合的役割を推進する上で専門性を教育する高等教育のみならず、それに至る初等中等教育は重要である。地球や生命を慈しむ豊かな人間性の形成、自然・学術・科学・技術を理解し、将来地質学の発展を担う人材の開発のためには初等中等教育が鍵である。大学受験競争の中で深刻化した「地学切り捨て理科離れ」や

21世紀前半に訪れる未曾有の日本社会の少子時代に学会としてどのような政策を示すのかが求められている。

高等学校においては受験最適化教育が一層進行し、理科系受験生に対してすら極端に受験科目に偏重した教育体制が大学専門教育にも支障をきたすに至っている。高等学校においてはこれまで以上に地学教育が減少し、日本人の地球に関する知識はおおむね中学校教育までというのが現状である。2002年4月より始まった学校教育における完全週休2日制を背景として、初等教育においても自然や地球に関する教育の時間が減少し、そのことに関する危機が叫ばれている。このことと欧米先進諸国に比べて日本人の自然科学に対する関心が近年、極端に低くなったという深刻な現実が指摘されている。

しかし、一方で、環境をキーワードとした大学学部は多くの志願を集め、自然と接する多くの教育の実践からは子供たちの「知の喜び」が数多く報告されている。

これまで、地質学会は主にその構成員の要求を満たすことに閉じてその主要な活動を展開してきたが、その科学の成果を大胆に未来を担う子供達に還元して、学校教育だけでは期待できない未来の地球科学、地球環境科学を担う後継者育成に積極的継続に取り組む必要がある。

学会の年会が日本各地を巡る利点を生かし、一般普及活動を一層充実させるとともに、特に小学生から高校生まで含めた若年層に特段の配慮をした企画をすすめる必要がある。

青少年普及講演会、青少年科学キャンプ。

若年層を焦点とした出版、ホームページなど情報発信をすすめる。(特に相互作用が可能な発信が重要である)

地質学会が主導する学校教育での地学の教科書作りに本格的な参入を検討する

支部活動を充実させ、多くの学会構成員の協力で地域の特性を生かした若年層の地質学ファンを持つことに積極的に取り組む必要がある。大学における公開講座やOPEN COLLEGEなど、今後増えることが予想される様々な企画との継続的関係も大事である。以上の活動を実のあるものとするために、地方自治体の教育委員会あるいは地域マスコミとの密接な関係を構築する。

#### 4. 博物館と学会の役割に関する提言

21世紀前半の日本では未曾有の少子社会と超高齢化社会が現実のものとなる。しかも同時に平均的教育水準が世界で最も高い社会でもある。年令の壁を超えて科学の重要性や自然の豊かさを理解する社会を作り、未来へと引き継いでいくためには博物館はその基軸である。特に、1990年代以降の大学における地質学の研究教育体制の大幅な変更に伴い、それまで大学が担ってきた地質学の記載分類学的研究とアーカイブ資料保存(化石、岩石、鉱物、記載データ)機能が重点化された大学における大学博物館の充実として分離された。しかし一方で、多くの地域においてはこの機能が切り捨てられた。このような情勢の中で地域に根ざした多くの博物館が「地域の地質研究と資料保存、そして教育の拠点」として機能することが特に重要であり、期待されることもある。学会としてそのような博物館の意義をこれまで以上に明確に位置づけ、量質ともに高い水準のものが日本各地に形成されていく、そしてそれを中心とした活動が展開されていくように学会が支援することが重要である。

80年代末から90年代前半にかけて、日本各地に多くの自然史関係の博物館が建設された。しかし、その後の日本経済の悪化とともに博物館の閉鎖がとりざたされている。一方で学校教育における完全週休2日制の導入と総合学習の開始、生涯学習の要求は博物館の需要をかつてない程のものとしている。自然を愛する老若男女が集う場としての博物館活動を地域社会の拠点として学会として支援する活動に取り組む。

地域社会の地質アーカイブ保存活動

学術的に貴重な露頭の保全と博物館活動支援

失われた貴重露頭の記録保存(写真、記録、化石、岩石、鉱物)

博物館日常活動、イベントの積極的支援(講師派遣、資料提供、

各種執筆協力)

博物館ネットワーク作りの支援

以上の活動を実のあるものとするために、地方自治体の教育委員会あるいは地域マスコミとの密接な関係を構築する。

#### 5. 民間と学会の役割に関する提言

地質学の社会的意義、その科学技術の到達点の質を最も敏感に反映するのは産業である。自然災害予測や防災、生活時空間における環境汚染、資源開発、廃棄物処理などに関連する新しい技術の創造とその交流に学会は積極的支援をすることが重要である。また、近年地球環境保全にかかわる多くのNPOとも積極的な関係を計ることが重要である。

日本地質学会のこれまでの活動はともすると「知の創造」に片寄ったものであり、直接的に役に立つことに鈍感であるとの内外の批判が強かった。このことは日本においては理学部において主に「地質学」の教育と研究がなされ、理学部の基本的目的が「真理の探究」に置かれていたと言う歴史的事情を色濃く反映している。しかし、21世紀を迎えた今、科学と技術の融合、理と工の融合、産学の関係などこれまでの枠を超えた活動が重要であることが内外において強調されている。

産学の関係を学会としても強く意識して支援する必要がある。とくにJABEEに関わる課題には積極的に関与し、国際的な地質技術者養成に貢献することを引き続き重要な課題とする。

自然災害予測や防災、生活時空間における環境汚染、資源開発、廃棄物処理などに関わる研究活動を積極的に誘致、組織する必要がある。たとえば二次汚染をとまなう従来の物理化学的処理ではなく、安価で持続可能な微生物処理の研究開発などは急務でかつ重要である。

地球環境保全に関わるNPOなどとも連携し、科学的に適切な助言を計れる活動を支援する必要がある。

以上の活動とともに、専門家集団として研究活動の結果を広く社会に公表し、還元する必要がある。

マスコミとの関係を強化し、科学の普及と社会貢献を積極的にアピールする必要がある。

#### 6. 政策・行政と学会活動に関する提言

地質学の3つの基本的役割を果たすことは人類と地球の未来、日本社会の未来にとっても極めて重要であると私達は認識している。このことを実現するためには、国際組織、国家政府、地方自治体の基本的政策と行政に反映させるための活動を抜本的に強化することが必要である。学会活動の基本的柱として位置付ける。学会とそれぞれの行政組織とが恒常的に相互意思疎通ができるような体制を意識的に作る必要がある。

国連など国際機関への積極的提言の展開、人材の派遣。

国の科学技術政策/学術文化政策立案実行過程への参加。

国の資源エネルギー政策立案実行過程への参加。

国の教育政策立案実行過程への参加。

国の地球環境保全政策立案実行過程への参加。

地方自治体における各種政策立案実行過程への参加。

院生学生の国家公務員試験「地質」の受験を励まし、多くの有能な人材を輩出することを学会としても重視する。

#### 7. 国際社会と学会の役割に関する提言

20世紀は世界の分極と対立の時代であった。21世紀に国際的融合と平和の時代を作ることは人類共通の願いである。21世紀は一層グローバルに人と情報とものが行き交う時代である。全地球にまたがる地球環境問題、一国では解決し得ない資源エネルギー問題や自然災害問題などに先進国たる日本の地質学が役割を果たすことが重要である。「知の創造」において先進的な位置を占めるとともに、上に述べた地球環境や国際的な社会的要請にも答えられる学会でなければ成らない。国際的な地質関連の職業を持つ人たちの関係も



鍵である。日本の国際的位置から見て日本地質学会は国際的にも主導的な役割を果たすことが期待されている。早急に国際的に開かれた学会をつくとともに、さまざまな活動において国際的にリードできる活力と力量と体制をそなえた学会を作ることが重要である。直接的国際交流と共に、先に述べた学術雑誌の充実、情報発信など、特に国際性を意識した活動を展開する必要がある。

自然災害に関わる国際調査団の積極的派遣。

高度な情報を連続的に発信するWeb Siteの構築。

日本の地質研究者の世界的貢献の発信。

日本周辺の地球科学的成果の発信。

Web Siteによる情報請求などへの機敏な対応システムの構築。

環太平洋地域の各国地質学会との情報交流や学会共同開催等の企画、活発な相互関係、共同プロジェクト支援。

学会における留学生支援活動、留学希望学生への窓口の情報提供

## 8. 地球関連学会と学会の役割

地球科学の総合性と多様な発展を反映して、これまで多くの地球科学関連学会がつくられ、それぞれの学会が独自に活発な活動を展開してきた。関連学会の構成員総数は数万人規模となっている。地質学の基本的役割を果たすためには、関連する学会が支えている学術・科学技術との交流・関係、政策作成や行政への提言を含めた社会的役割における共同歩調、一貫した教育体系をつくるための共同歩調などは不可欠である。地球惑星関連同学会連合大会、地質科学関連学協会連合などの活動を積極的・主体的に支援し、地球関連科学の全体としての発展に貢献することが重要である。また、地球環境の持続的保全や生活時間での社会の要請に答えるためには地質関連学会、地球惑星科学関連学会の枠を大きく超えた関係こそ極めて重要である。

たとえば地質学会会員も中心となって長年進めてきた、生命・水・鉱物相互作用セッションが地球環境レギュラーセッションとし

て定着させたような活動を、様々な分野について今後更に積極的にすすめる必要がある。

ナノスケール地球科学なども新しい地質学の方向として、期待されている分野であり、境界領域として今後の大きな発展が見込まれる領域であり、合同大会で地質学会が積極的に開拓すべき分野である。

日本学術会議等の活動に積極的に関わり、専門領域を超えた問題に積極的に関与することが重要である。持続的地球環境保全、地球温暖化、21世紀の資源エネルギー、廃棄物処理などはすぐにも取り組める課題である。

## 9. 新しい日本地質学会をめざして。

以上に21世紀の早い時期に達すべき、新しい日本地質学会の姿についてのスケッチを試みた。これまで、日本地質学会は長い歴史があるとはいえ、日本の中の専門家内へ向いた共同体としての学会であったといえる。21世紀を迎えた今、そこから大きく脱皮し、多様な学会構成の特徴を最大限生かし、強く地質学の社会貢献を意識し、また新しい地質学の発展を計る国際的学会へと変貌することを目ざそうというものである。

国際的には近代工業社会たる20世紀の文明が終わり、グローバルに人間社会が変わろうとしていることが明確となっている。日本社会も持続的発展を遂げられる社会たるべく多くの困難に立ち向っている最中にある。その中であって、日本地質学会はこれらの変化と未来を見据えて自己の変革を計ろうとするものである。

新しい日本地質学会の活動量はこれまでのものと比べて飛躍的に増えることとなるであろう。それはこれまでのような学会構成員のボランティアのみを支えられた活動量では到底実現しえないものである。責任主体が明確であり、社会的認知をハッキリと得た法人として、法人たる大学や研究機関、企業、行政機関等との関係を構築するものでなければならない。

# 倫理規定等検討委員会 中間報告

倫理規定等検討委員会 委員長代行 伊藤谷生  
委員 上杉 陽 足立勝氏 湯浅真人  
通信委員 石渡 明 長谷川修一

## 1. 議論の経過

2001年12月8日評議員会で設立が承認された本委員会は、委員長空席のまま伊藤谷生を委員長代行とし、足立勝治、上杉陽、湯浅真人の各委員と、石渡明、長谷川修一の各通信委員（会議内容に対してメール等でコメントする）のもとで、2月10日、3月1日、3月19日、5月10日、6月14日と5回にわたって開催された。委員会には立石執行委員長も毎回、また水野事務局長も出席され適切な助言をされた。5月10日、6月14日には東京第二弁護士会事務局長推薦の高木弁護士に出席を頂き、専門家の立場からの助言をお願いした。

## 2. 倫理規定制定の目的と必要性

- 1) 科学技術基本計画が学協会などに研究者・技術者が守るべき倫理についてのガイドラインを策定するよう求めているだけでなく、そのようなガイドラインの策定は社会的要請となっていることも考慮し、地質学会がいっそう社会的活動を旺盛に展開するためには地質学会としても倫理規定の制定が必要である。
- 2) 大学の地球科学関連学科において技術者養成を進めることは社会的に一層重要になっている。このプログラムを促進する上で、重要な視点の一つが技術者倫理であり、学会としても一定の地質関連技術（者）の倫理について検討を深め、指針としての倫理規定制定の必要性が高まっている。
- 3) 現在の司法改革の流れの中で、専門家が司法に適切な形態で参加することが求められることが予想される。そうした事態に地質学会が主導的に対処できるためには、自らの規範を倫理規定制定

によって内外に明示し、社会的責任を担い得る団体としての地位を確保しておく必要がある。

## 3. 知的財産権保護の在り方検討と適切な措置の必要性

日本地質学会の目的とそれを実現する上での倫理規定等を基礎に、学術的知見公開・普及の重要性との関連、情報電子化の急速な普及という現実なども踏まえながら、知的財産権の現在の在り方を検討することが必要となっている。具体的には、日本地質学会が編集・発行している雑誌・書籍等の出版物（電子ジャーナルを含む）における著作権や著者の学術的成果保護等の在り方を再検討し、コンセンサスを得られたところから適切な措置を講じていく。また、大学における卒論・修論、大学・研究所・企業等における各種草稿・報告書の位置についても検討を加え、それらの扱いに関するガイドラインを広く地質学界や関係諸機関と協議していく。

## 4. 今後の検討方向

9月の第5回定例評議員会に最終答申を提出する。このなかで、具体策として以下の2点が提案される予定である。

- 1) 新たに倫理規定制定のための委員会を設置する。同委員会は倫理規定案を策定し、同案を評議員会へ報告する。評議員会は同案を審議し、最終的な案を決定した後、総会に提案するという手続きが妥当であろう。
- 2) 知的財産権等検討委員会を設置して知的財産権問題の検討を開始し、コンセンサスを得られたところからとるべき適切な措置を評議員会へ提案する。



## 会員の声

### 学会の法人化について考える

正会員 徳橋秀一

はじめに

6月号のニュース誌の会員の声欄に、倉林三郎名誉会員から、「これでよいのかー「法人化が必要」との評議員会の議決」という題目の投稿がありました。これに関連して、一会員、一評議員の立場から法人化について意見を述べさせていただきます。倉林氏の意見に対しては、批判的な立場からの執筆となりますが、倉林氏個人を非難するために書くものではありませんので、ご理解ください。

地質学会の法人化に関する現状、現在の課題については、本ニュース誌5月号(p.12-p.13)の法人化調査検討委員会(徳岡隆夫委員長)からの報告(「法人化調査検討委員会報告」、以下「報告」と略)のなかで、要点が簡潔にかつ真摯に指摘されているといえます。倉林さん自身は、この「報告」が手元に届く前に上記の原稿を投稿されたものと思いますが、倉林さんが問題にされている点の多くについては、この「報告」のなかで述べられているか、既に問題点として指摘されているといえます。

#### 代議員制問題

問題になっている点のひとつに代議員制があります。文部科学省の定款作成例によりますと、総会の成立は正会員の1/2以上となっています。しかし、地質学会のような大世帯の場合には、この方式での総会の成立は極めて非現実的であることから、最近の地震学会や地理学会でみられるように、これに代わるものとして、代議員制の導入が指導されているわけです。代議員制の場合には、上記の「報告」にも書いてありますように、役員(理事と監事)と選挙で選ばれた代議員が民法上の社員となり、総会で議決に参加できるのは、これらの社員だけということになります。これを、会員(正会員と学生会員)15の分の1以上の委任状を含む出席により成立し、委任状を含まない出席者の多数決により議決する、という現在の規約と比べた場合、どちらが合理的かつ民主的か考えてみましょう。現在の規約に基づく、総会の成立条件は現在360名前後ということですが、最近の総会の実際の出席状況は、200~250名ぐらいということですから、残りは委任状によって成立していることとなります。私は、会員が多数いる組織(産業技術総合研究所、旧地質調査所)に所属していることもあり、総会前になると、広い建物のなかを何回も歩いてまわり、数10という委任状を集めるのが最近の慣例となっています。これは万一総会

が成立しない場合、次年度の予算の執行ができなくなりますし、総会当日授与される予定だった各賞も授与できなくなってしまうからです。また、別途総会を開くということは大変なことだからです。

このように、総会に参加している人たちは、会員全体からすればごく限られた人たちです。参加した会員も、評議員(全員で50人)を除くと、大部分の人は学会に参加した人のなかの任意の会員ということになります。こうした任意の会員を主体とする参加者の多数決で決める現在の最高議決方法というのは、いっけん理想的な美しい形式のようにみえますが、ちょっと考えると、一転して大変不合理な方法といえるのではないのでしょうか。たとえば、国会で新しい法律案が提案されたときに、議員ではない一般の(任意の)国民も国会の議決に参加して多数決で決めるということが、選挙で選ばれた国会議員の多数決で決めるよりも合理的で民主的でしょうか。もちろん、選挙権を有する国民の過半数が参加する直接民主制が可能ならば、それは民主的で合理的な方法であるといえるでしょう。しかし、現実には、たとえば地質学会の場合でも、15分の1の定足数を集めるにもかなりの委任状が必要なわけですから、このような方法は、極めて非現実的といわざるをえません。毎年委任状を集めているものとして、このことを身にしみて感じています。

代議員制の場合には、選挙で選ばれた代議員が、事前に議案をよく理解し、あるいは周囲の人の意見も聞いた上で、総会での議論と議決に参加するわけですから、現在の任意の会員の多数決で決めるよりも、最高議決方式としては、より合理的で民主的であるといえるでしょう。また、代議員制をとったからといって、総会で代議員以外の会員が発言できないということはありません。現在の総会においても、議決権をもたない名誉会員の発言は許されていますし、最近の総会ではそういった名誉会員の方がもっとも積極的な(過激な?)発言をされているようにも見受けられます。すなわち、代議員制のほうが、偶然性に左右されやすい現在の方式よりもより合理的、民主的な方法であり、法人化以前の問題として、できるだけ早くこの方式に切り替えるのが望ましいと思います。

#### 財政支出問題

法人化すれば、満たすべき条件が多くなり、その結果学会の財政の負担が大幅に増加するのではないかと懸念がありますが、これも上記の「報告」にありますように、基本財産の2000万円の条件の取扱いを別にすれば、地質学会の場合基本的な要件は既にほぼ満たしており、年間予算で新たに必要となる主な項目は、公認会計士に係る諸経費(数10万円程度)ということに収まるようです。

#### 文科省の干渉問題

法人化すれば文部科学省の干渉が多くなるのではないかと懸念もありますが、学会の場合、基本的には、学会の会費や学会の活動に伴う収入をもとに活動を行うわけですから、活動内容に関して干渉されることは考えられません。また補助金としては、これまで長い間地質学雑誌(昨年からThe Island Arc誌)に対する出版補助金を文部省(文部科学省)からもらってききましたが、そのために干渉を受けたということは聞いたことがありません。指導があったとすれば、もともとが研究成果の国際発信、国際交流を趣旨とする補助金であることから、英語の論文を増やしたりその質を高めるためにどのような努力をしているか記述することが求められているくらいで、これは補助金の趣旨からいって、当然のことといえるでしょう。

#### 定款の性格と位置づけ

上記の「報告」にも書いてありますように、定款は、法的な存在として共通して具備すべき最低限の項目を規定していると思われまので、ここで個々の学会の事情を反映するような独自の規定を盛り込むことは、常識的に考えてむずかしいと思います。そのかわり、それ以外の規則(細則)でどのようにその学会の特徴を出し、実現していくかが腕のみせどころといえるのではないのでしょうか。法的に認知される団体になるために、共通の法の規定をうけるのは避けて通れない道であり、そのなかでいかに主体的に実現していくかということではないかと思えます。そのためには、多くの会員の力と智恵を結集することが必要であり、そこに学会としての力量ややる気が問われてくると思います。

#### 評議員会および評議員の役割問題

現在の評議員会がはたしている審議機関を、定款とのからみでどのように実現していくかも、法人化を検討し、準備する過程で主体的に検討していくことが重要です。しかし、現在の総会の議決方式が必ずしも民主的、合理的方法とはいえないのと同じように、現在の方式が絶対正しいとも唯一の方法ともいえないのですから、必ずしも従来の形にとらわれる必要もないと思います。また、理事会方式は悪であるという先入観があるとすれば、それも考え直すべきかと思えます。名称にとられる必要はないからです。法人化をめざすということを、受動的に考えるのではなく、可能な限り、もっとも合理的で民主的、創造的な方法を模索し、実現するように努力するのが本来の姿であると思います。新しい器には、新しい酒が必要であり、またにあうのではないのでしょうか。

倉林さんの会員の声では、評議員会の役割が重要で、法人化した場合、評議員会やその機能が存在できないのではないかと懸念され

る一方で、現在の評議員会は、会員無視の決定をした「評議員による、評議員のための評議員会」と批判されています。これでは、評議員会が大変重要であるが、現在の評議員会はけしからんということになり、自己矛盾ともいえます。つきつめれば、一部の人のとって都合のいい従順な決定をする場合にはよい評議員会であるが、不都合な反抗的な決定をする場合には悪い評議員会でけしからんということにもなりかねません。名誉会員など年輩の会員の方が、過去の経験をともに意見をいわれることは大変貴重なのですが、一方でそれに固執しすぎると新たな問題が生じるのではないのでしょうか。学会の活動の主体は、第一線で活躍している現役や若い人たちであり、基本的には、そうした人たちの活動や判断にまかせるべきものではないのでしょうか。法人化をめぐる最近の議論の傾向をみますと、時代の背景を全く異にする世代間の意見の不一致のような気がしてなりません。しかしその結果、対外的に地質学会がもめているという印象を与えるならば、文部科学省との交渉においても十分な力を発揮できず、大きな損失を被る可能性がないともいえないからです。

現在、評議員や執行委員など役員としてがらばっておられる方は、それぞれの職場で第一線で活躍されている大変忙しい人たちであり、そういった人が忙しいなか時間を割いて、またある人たちは、学会の会合出席のために、数万円の交通費を毎月のように自腹で出費して、学会のために活動されているわけです。そういった人たちが、会員を無視した「評議員による評議員のための評議員会」にするために活動しているわけでは、決してありません。たとえば、最近評議員会では、名誉会員推薦委員会(徳岡隆夫委員長)が中心になり、

新しい内規ののっとり、昨年から過去の名誉会員の見直しを行って新しく名誉会員の補充を行ったり、「50年会員」の表彰規定を新しく設けて顕彰を行っています。これは、これまで評議員など役員経験者に偏重していた名誉会員の条件が修正されたのを機会に、名誉会員候補の見直しと不均衡の解消をめざすとともに、永年会員への感謝の気持ちを表したもので、評議員会のために行ったものではありません。それどころか、学会の発展と会員全体のために、献身的な活動を行っているのではないのでしょうか。法人化に批判的の一部年輩の会員が学会のために心配されているのはよくわかるのですが、しかし基本的には、世代の交代として、現在現役でそして学会のために奮闘している人たちを信頼し、任せておかれればいいのではないのでしょうか。

#### 準備委員会設置と大同団結の重要性

上記の「報告」でも指摘されていますように、全国の多くの大学の教室名・学科名から地質学の名前、看板が消えたり、また、小中高の教育現場において理科教育の危機が叫ばれている昨今、全国の地質関連の組織、活動の核・拠点になる団体として、地質学会が任意団体から法人格を有する法的存在になることの意義は非常に大きく、かつ緊急の課題であると思われます。この9月の新潟総会から新しく会長、副会長になられる方は、個人の名誉や売名のためではなく、今年のニュース誌の1月号の座談会報告をみてもわかりますように、法人化が必要であると強く認識し、小松現会長や徳岡現副会長の意志を継いで、先頭にたつていけば命を張って奮闘するという決意を有する人たちです。またそういう決意を有し、それを態度で示す人でなければ、献身的に学会活動を支えている評議員・執行

委員を始めとする多くの会員をまとめ、法人化という大きな波を主体的に乗り越えるなど、決してできるものではありません。

法人化については、地質学会は、1990年代において、事業計画委員会(坂 幸恭元副会長が委員長)等のいろいろな委員会活動を通して、法人化の必要性についての多くの検討が行われ、また一般会員への広報活動も活発に行われてきましたが、一部の会員の反対もあって、それらの努力は実らず、結果的に、法人化のために多大な労力を払ってきたことに大きな消耗感と挫折感を残すことになってしまいました。1990年代は、日本経済のみならず、地質学会にとってもある意味では「失われた10年」といえるかもしれません。しかし同じことを再度繰り返してはなりません。現在は、もはや法人化するかどうかを議論する段階ではなく、もっとも理想的な法人をできるだけ早期に実現するために地質学会として最大限の力が発揮できるように、会員が一丸となる時期にきていると思います。そのためには、法人化のための強力な準備委員会を早急に立ち上げ、会員の英知と力をそこに結集すべきであると考えます。今こそ、法人化に向けて一歩大きく踏み出すときといえるでしょう。

#### おわりに

以上、地質学会の法人化について、僭越とは重々承知しながらも、常日頃強く感じていることを、主に健康上の理由から3期つづけた評議員を退くのを機会に一通り述べさせていただきます。長くなってしまい大変恐縮ですが、真意をご理解いただき、法人化問題を考える際のひとつの参考にしていただければ幸いです。

### 産業技術総合研究所と海洋科学技術研究センターの組織

正会員 氏家 宏

関係各位の大変な努力により、上記機関の組織が大変の末に発足したのは周知のとこ

ろであろう。独立法人「産業技術総合研究所」の地質学部門の、日本における地質学及び関連分野の研究者の1大研究機関である点は工業技術院地質調査所時代から変わりはない。しかし全体像についての紹介パンフレットは出ているが、具体的に把握する情報については、個々に調べねばならないのが実状である。ぜひとも、関連各組織名(正規の英文名を付記)と所属する人々の名前、できれば身分や電話・ファックス・E-mail addressも含めて、本News誌上に公開して頂きたいと思う。

海洋科学技術研究センターも、「固体地球総合フロンティア研究システム」(IFREE)が付置されて陣容がほぼ固まったようである。それに伴い従来の組織も大きく改組されている。ぜひとも上記同様に公開して欲しいものである。

この2大機関の公開は、焦眉の急となっている国立大学と付属機関の独立法人化への対処にとって有益かつ欠かすことの出来ない問題であろう。上記機関は新しい人材を、やはり大学に求めざるを得ない。IFREEなどでは、そのためにサテライト校を指定して研究費などの援助を行うとの話も聞いている。学部生・院生の教育方針に大きな影響を与えるであろう。研究上でも有効な共同研究の場が公平に与えられる一助ともなる。

なお法人化に向けての考慮もあると思われるが、各大学で組織名の改変や追加が行われている。これについても順次可能な

限り公開するべきであろうか? 私が現役時代に全国地学教室主任者会議の席上、各大学間での講義・実験実習の単位交換制度の導入を提唱したことがある。地方大学はもとより東大のように大きい組織であっても、1組織で多様化し先鋭化する分野をカバーするのは至難のことである。琉球大理学部では、長崎大水産学部との間で単位交換制度に基づく「乗船実習」を行ってきた。この制度に要する費用は文部省支出である。こうした制度の施行により、大学間の実質的交流が進み、reasonableな大学各組織の再編や統合ができたのではなかったのではないかと回想している。

以上の公開結果を2年に一度の「会員名簿」に掲載するのも良いが、情勢が急展開している現状では有効とは言えない。地質学会ニュース誌上の活用を強く要請するものである。

## 各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします。推薦ご希望の方は締切日半月前までに、執行委員会までお申し込み下さい。

## 平成15年度笹川科学研究助成募集要領

### 1 趣旨

「笹川科学研究助成」は、21世紀を迎えて真に質の高い社会の実現のため萌芽性、新規性および獨創性のある内容をもった研究を奨励し、振興することを主旨とし、他からの研究助成が受け難い研究を全国的に掘り起こすとともに、意欲に満ちた優れた若手研究者の育成ならびにその研究に対する助成を目的とします。

### 2 研究計画および助成額

研究計画は、単年度（平成15年4月1日から平成16年2月10日まで）内で研究が完了し、成果をとりまとめられるものとします。助成額は、1研究課題あたり年間100万円を限度としています。

### 3 募集の対象者

平成15年4月1日現在、35才以下の者であって、次の条件を満たす者

ただし、大学院生、博物館（含む類似施設）および図書館の学芸員・図書館司書等においては、年齢制限はありません。

#### 応募条件

- (1) 平成15年4月1日現在、大学院修士課程ならびに博士（前期・後期）課程に在籍する者および進学予定者
- (2) 大学院生と同等以上の能力を有する者
- (3) 大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者
- (4) 博物館（含む類似施設）および図書館で研究活動に従事する学芸員・図書館司書等の職員

### 4 申請の方法

所定の「平成15年度笹川科学研究助成交付申請書」を用いて下さい。

なお、申請書の書式はホームページをご覧ください。

### 5 募集期間

平成14年9月2日（月）～平成14年10月15日（火） 必着

### 7 申請書の申込方法

申請書のお申し込みは、E-mailもしくは、Faxにて郵便番号、住所、氏名、電話番号および希望部数を明記の上、ご連絡下さい。また、申請書はホームページからも申し込みおよびダウンロードできます。

財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5F

電話 03-6229-5365 Fax 03-6229-5369

E-mail: jss@silver.ocn.ne.jp

URL: http://www.jss.or.jp

## 公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



## 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻教官(教授)公募

このたび、当専攻では下記の要領で『教授』を広く募集することになりました。ふるってご応募いただくとともに、関係各位にご周知下さいますようお願い申し上げます。

### 1. 職種・人員:

地球惑星進化科学講座 教授 1名

2. 専攻分野: テクトニクス・堆積学（野外調査に基づいて教育・研究を推進できる方）

3. 着任時期: 決定後、できるだけ早い時期

### 4. 応募書類

イ) 履歴書（内外の学会活動、受賞歴、参加しているプロジェクト研究歴、各種研究費受領歴、主査・副査のほか実質的指導を含む学位審査履歴、非常勤講師の経歴、公的機関の委員の履歴なども記載すること）

ロ) これまでの研究経過（2,000字程度）

ハ) 研究業績目録（和文のものは和文で表記すること）

A. 査読のある原著論文

B. 査読なし論文、総説など

C. 著書

D. 解説、報告などその他の出版物で参考になるもの

二) 主な原著論文の別刷または著書 10篇（複写可）

ホ) 今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）

5. 応募締切: 2002年9月6日（金）必着  
封筒の表に「教官公募関係」と朱書きし、簡易書留にて郵送すること。

6. 書類の送付先及び問い合わせ先:

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 蒲生俊敬

電話 011-706-2725（ダイヤル・イン）

Fax 011-746-0394

電子メール: gamo@ep.sci.hokudai.ac.jp

## 同志社大学工学部環境システム学科（仮称）教員公募

1. 採用職種: 助教または講師

2. 募集人数: 下記の分野で各1名

3. 所属学科: 環境システム学科（仮称、申請準備中）

### 4. 分野:

(1) 地球システム科学（気候変動や物質循環など自然環境システムについて地球科学を基礎とした教育と研究を行なう）

(2) 環境保全・防災技術（自然災害や環境変化についての観測と予測、環境保全と防災の技術について教育と研究を行う）

5. 応募資格: 博士の学位を持つこと。原則として着任時の年齢が50歳未満であること。

6. 着任時期: 平成16年（2004年）4月1日

7. 提出書類:

(1) 履歴書（写真貼付）

(2) 研究業績リスト（査読論文とそれ以外に分類して下さい）

(3) 代表的な論文の別刷またはコピー（10編以下）

(4) これまでの研究の概要（1000字程度）

(5) 今後の教育・研究に対する抱負（1000字程度）

(6) 応募者についてご意見をいただける方（2名）の氏名と連絡先

8. 応募締切: 2002年10月20日（日）

9. 送付先 〒610-0321 京田辺市多多羅都谷1-3 同志社大学工学部 事務室  
応募書類は封筒の表に「教員応募書類」と朱書きし、（簡易）書留にてご送付下さい。

10. 照会先 上記事務室

教務係長 山口数宏（E-mail: kayamagu@mail.doshisha.ac.jp）

電話（0774）65-6200

Fax（0774）65-6800

## 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 地球生命圏科学講座 助手公募

東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻では、下記の要領で地球生命圏科学講座教官を公募することになりました。つきましては、関係の方々へのご周知を、よろしくお願い申し上げます。

### 1. 公募人員

地球生命圏科学講座 助手 1名

### 2. 募集分野

地球表層における岩石圏・水圏・気圏・生命圏の様々な現象と相互作用についての研

- 究
3. 応募資格  
博士の学位を有するか平成15年3月までに学位取得見込みで、大学院博士前期・後期課程および学部での研究指導を補助できる方
4. 着任時期  
決定後できるだけ早い時期
5. 募集方法  
自薦または他薦（他薦の場合はご本人が了解していること）
6. 提出書類  
1) 履歴書（学歴および職歴）  
2) これまでの研究概要（1600字程度）

- 3) 研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説、著書などに分類）
- 4) 主要な原著論文別刷り（コピー可）3編以内
- 5) 今後の研究・教育の計画および抱負（1600字程度）
- 6) 応募者に関する所見を伺える方2名の氏名および連絡先
- 7) 他薦の場合は、上記1) - 3), 6)の内容のわかる文章
7. 応募締切  
平成14年10月31日（木）（消印有効）
8. 書類送付先  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 星野真弘  
電話：03-5841-4584  
封筒の表に「地球生命圏科学講座教官応募」と朱筆して（簡易）書留にて郵送のこと

9. 問い合わせ先  
東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 山岸皓彦  
電話およびFax：03-5841-4682  
E-mail：yamagisi@eps.s.u-tokyo.ac.jp

\*その他、当専攻に関する情報は、ホームページ（<http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp>）をご覧ください。

## 2002年版会員名簿作成についてのお願い

本年11月末日発行の予定で、会員名簿作成の準備をいたします。下記の変更・訂正用のフォーマットに記入の上Fax（E-mail、郵送も可）でご返送下さい。なお、個人会員の名簿掲載項目は、前回同様の予定です。なお、所属先等で記載内容がない場合には、古いものが残らないように「なし」と記入して下さい。名簿はデータの一括出力作業により作成しますので、氏名以外の項目についてとくに掲載不都合のある場合にはその旨お書き添え下さい。名簿原稿は9月末日締めで作成予定ですので、なるべく早めにご連絡下さるようお願いいたします。

（日本地質学会総務委員会 会員担当）

Fax. no. 03-5823-1156 E-mail address geosocjp@ra2.so-net.ne.jp

会 員 番 号	会 員 名 簿 確 認 (訂 正 ・ 変 更) カ ー ド ( 年 月 日 届 )		
アルファベット表記	生 年 月 日		年 月 日
氏 名	専 門		
出 身 校	学校 大学 大学 大学 大学 修士課程 大学 博士課程 大学 研究生・聴講生・その他（ ）		年卒・在学 年卒・在学 年修・在学 年修・在学
自 宅 住 所	(TEL - - , Fax - - )		
所 属 先 住 所 お よ び 名 称 (社名・部課名まで)	(TEL - - , Fax - - ) 代表・ダイヤルイン		
E-mail Address			

取扱い地質図一覧(委託販売)

02/7/31現在

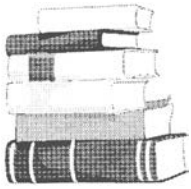
会員には代金後払いで注文をお受けします。電話かFaxにて(なるべくFaxで)、地質学会事務局へお申込み下さい。

Tel. 03-5823-1150, Fax. 03-5823-1156

100万分の1日本地質図 第3版 4枚組 ¥6,000	韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 ¥1,300
100万分の1日本重力図(ブーゲー異常) ¥3,700	*東アジア地質災害図 ¥3,500
地球化学アトラス -北関東- ¥5,300	重力図(ブーゲー異常) 1:20万
200万分の1地質編集図	青森地域 ¥2,100, 秋田地域 ¥1,400,
コンピュータ編集による日本地質図(付記付き) ¥2,200	山形地域 ¥1,400, 北上地域 ¥2,300,
日本の磁気図(説付き) ¥2,400	渡島地域 ¥1,700, 苫小牧地域 ¥1,500,
300万分の1 日本列島地温勾配図 ¥1,600	札幌地域 ¥1,700, 帯広地域 ¥1,500,
数値地質図	旭川地域 ¥1,500, 北見地域 ¥1,500,
200万分の1東・東南アジアの数値地質図(説付き) ¥2,500	根室地域(2枚組) ¥2,400, 天北地域 ¥1,800,
200万分の1地質図幅集(画像) ver. 2.0 ¥1,500	名寄地域 ¥1,800, 大分地域 ¥1,700
日本の新生代火山岩の分布と産状 CD-ROM版 ¥1,200	*福岡地域 ¥2,300,
東・東南アジア都市域の地球科学データ CD-ROM版 ¥1,100	空中磁気図
日本地質図索引図(第1集~第8集 CD-ROM版1963~1999) ¥900	尖閣諸島海域 ¥2,000
北海道地質ガイドマップ CD-ROM版 ¥900	伊豆大島地域(1:5万)伊東周辺地域(1:2.5万) ¥1,000
東・東南アジア都市域の地球科学データ(第2版)CD-ROM版 ¥1,100	雲仙地域(1:5万) ¥1,000
富士火山地質図CD-ROM版 ¥1,100	西表島周辺地域(1:10万) ¥1,000
日本重力図CD-ROM版(説付き) ¥900	*由利原地域高分解能空中磁気異常図(1:5万) ¥2,600
400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版(第2版) ¥900	火山地質図
400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 CD-ROM版(第2版) ¥1,000	桜島火山(1:2.5万) ¥1,200, 有珠火山(1:2.5万) ¥1,100
日本周辺海域音波探査データベース CD-ROM版 ¥900	草津白根火山(1:2.5万) ¥1,500, 阿蘇火山(1:5万) ¥1,100
東北・九州地熱資源図CD-ROM版 ¥900	北海道駒ヶ岳火山(1:5万) ¥1,700, 浅間火山(1:5万) ¥1,700
特殊地質図	青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山(1:1万, 1:65万) ¥2,500
東京湾とその周辺の地質 ¥5,900	雲仙火山(1:2.5万) ¥1,100, 那須火山(1:3万) ¥2,100
秋田地熱資源図 ¥4,800	伊豆大島火山(1:2.5万) ¥1,700, 霧島火山(1:5万) ¥1,500
諏訪湖湖底堆積状況図(1:1.35万) ¥1,500	日本炭田図
東海沖海底音響画像図(1:40万) ¥700	天草炭田地質図 ¥6,800
札幌-岩内地域火山・鉱化熱水系分布図 ¥3,600	日本油田・ガス田図
札幌地熱資源図 ¥4,400	新潟県中部地域 ¥3,700
青森地熱資源図 ¥4,900	20万分の1地質図幅
50万分の1鉱物資源図	相川及び長岡の一部 ¥1,700, 青森 ¥2,200, 奄美大島 ¥1,800,
北海道(東部, 西部) ¥6,800, 東北 ¥4,100,	飯田(第2版) ¥2,300, 飯原 ¥1,300, 岩内 ¥2,300, 宇都宮
関東甲信越 ¥4,300, 中部近畿 ¥4,300,	¥2,600, 浦河 ¥2,500, 宇和島 ¥2,000, *岡山及び丸亀
50万分の1地質図幅	¥2,500, 鹿児島 ¥2,400, 金沢 ¥2,600, 唐津(第2版) ¥2,100,
旭川(第2版) ¥2,000	岐阜 ¥2,600, 木本 ¥1,300, 久米島 ¥1,800, 高梁 ¥2,400,
50万分の1活構造図	徳島(第2版) ¥2,000, 日光 ¥2,800, 富山 ¥2,300,
東京(第2版) ¥3,100, *京都(第2版) ¥3,500	長野 ¥2,900, 名寄 ¥2,200, 八丈島 ¥1,300, 八戸 ¥2,200,
2.5万分の1地質構造図	福岡 ¥2,400, *水戸 ¥2,600, 宮崎 ¥2,500, 村上 ¥2,600,
阿寺断層系ストリップマップ(説付き) ¥2,800	夕張岳 ¥2,400, 和歌山 ¥2,500
中央構造線四国地域活断層ストリップマップ(説付き) ¥4,300	5万分の1地質図幅 地質図1:5万, 地域地質研究報告
中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ ¥2,300	明石 ¥2,400, 赤名 ¥2,700, 姉崎 ¥3,400, 飯豊山 ¥3,000,
柳ヶ瀬-養老断層系ストリップマップ(1:10万) ¥2,400	飯山 ¥5,500, 出雲崎 ¥3,200, 飯島 ¥2,400, 犬飼 ¥3,400,
糸魚川-静岡構造線活断層系ストリップマップ(1:10万) ¥2,400	伊平屋島及び伊是名島 ¥1,800, 今市 ¥2,900, 岩ヶ崎 ¥4,300,
兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ	石見大田及び大浦 ¥3,800, 上野 ¥4,000, 浦郷 ¥3,200,
野島・小倉及び瀬川地震断層(1:1万, 説付き) ¥3,400	恵比島 ¥2,800, 大分 ¥3,800, 大阪西南部 ¥2400, 大阪西北部
花折断層ストリップマップ ¥2,700	¥2,400, 大阪東南部 ¥3,400, 大阪東北部 ¥3,800, 大須
海洋地質図	¥2,400, 小値賀島及び肥前平島 ¥2,400, 大宮 ¥2,900, 尾鈴山
鳥取沖海底地質図(1:20万, 説付き) ¥3,800	¥3500, 折尾 ¥3,000, 海田市 ¥2,700, 柿崎 ¥3,300, 柏崎
鳥取沖表層堆積図(1:23万, 説付き) ¥3,100	¥4200, 金山 ¥3,100, *川前及び井出 ¥6,000, 上高地 ¥3,500,
室戸沖表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥2,700	刈和野 ¥2,400, 木曾福島 ¥4,000, 北小松 ¥3,900, 岐阜
経ヶ崎沖表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥2,900	¥3,700, 京都東北部 ¥3,700, 熊川 ¥3,600, 熊田 ¥3,300,
下北半島沖海底地質図(1:20万, 説付き) ¥3,200	倉橋島及び柱島 ¥2,900, 黒石 ¥3,400, 桑名 ¥3,200, 下呂
経ヶ崎沖海底地質図(1:20万, 説付き) ¥3,400	¥2,700, 神満 ¥2,800, 神戸 ¥3,100, 小倉 ¥3,700, 佐伯
粟島周辺海底地質図(1:20万, 説付き) ¥5,200	¥3,000, 佐賀関 ¥2,600, 桜井 ¥4,000, 篠山 ¥2,900, *三条
佐渡島北方表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,500	¥4,100, 椎葉村 ¥4,300, 志津川 ¥4,100, 清水 ¥2,700,
佐渡島北方海底地質図(1:20万, 説付き) ¥4,100	*白馬岳 ¥3,600, 末吉 ¥3,100, 須磨(2版) ¥2,400, 洲本
豊後水道南方海底地質図(1:20万, 説付き) ¥4,800	¥2,600, 相馬中村 ¥5100, 園部 ¥2,900, 高遠 ¥4,200,
豊後水道南方表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,700	田島 ¥3,500, 龍野 ¥3400, 立山 ¥4,700, 谷汲 ¥2,400,
駿河湾海底地質図(1:20万, 説付き) ¥5,400	玉庭 ¥4,300, 竹生島 ¥2800, 津西部 ¥4,100, 敦賀 ¥3,600,
ゲンタツ瀬海底地質図(1:20万, 説付き) ¥3,900	十勝池田 ¥3,400, 豊岡 ¥2,400, 苗場山 ¥2,700, 長岡
塩屋崎沖海底地質図(1:20万, 説付き) ¥5,000	¥4,000, 中野 ¥2,500, 那古 ¥1,800, 名張 ¥3,200, 奈良
響灘表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,700	¥3,700, 二本松 ¥2,900, *西津 ¥4,100, 二本松 ¥2,900,
ゲンタツ瀬表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,600	乗鞍岳 ¥3,200, 八海山 ¥2,700, 姫島 ¥2,600, 広島 ¥1,500,
日向瀬表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,400	広根 ¥3,500, 福江 ¥2,600, 福岡 ¥3,700, 福知山 ¥3,200,
塩屋崎沖海底地質図(1:20万, 説付き) ¥3,400	北条 ¥4,000, 真壁 ¥3,600, 松江 ¥3,300, 松之山温泉
響灘表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,400	¥3,700, 三重町 ¥3,200, 三津 ¥2,500, 美濃 ¥2,400, 宮原
*能登半島西方表層堆積図(1:20万, 説付き) ¥3,400	¥4,500, 檜ヶ岳 ¥2,900, 温泉津及び江津 ¥4,200, 湯湾
海外地球科学図(英文)	¥3,200, 横須賀 ¥2,700, 横山 ¥3,700, 四ツ谷 ¥2,500
東・東南アジア熱流量図(1:500万) ¥2,200	寄居 ¥3,000, 和歌山及び尾崎 ¥2,300
中国モウンス沙漠及び周辺地域の水文環境図(1:50万, 説付き) ¥6,700	

\*印のついたものは2002年新刊及び新刊扱いです。

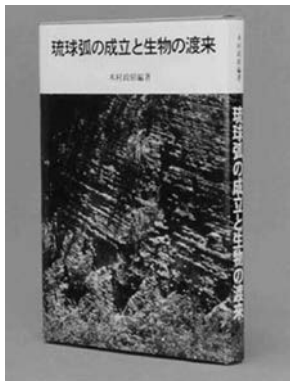
\*このほかの地質図, 産総研地質調査総合センター出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.aist.go.jp/GS/Map/でご覧になれます。



## 紹介

### 琉球弧の成立と生物の渡来

木村政昭 編著



沖縄タイムス社 2002年3月発行  
ISBN 4-87127-151-X 本体8,200円  
206頁 上製本・箱入

琉球弧は日本列島を構成する島弧の中で、伊豆・小笠原弧とともに最南端に位置している。また、200万年以前はアジア大陸との間は浅海が存在し、地政学的に大陸の影響が他の島弧に比較して色濃く反映していたと考えられている。このような特徴的な環境を持つ琉球弧のルーツはどこにあるのであろうか？また、日本列島を構成する他の島弧とどのように異なり、またどのように相互に影響しあっているのでしょうか？この命題にたいし、本書は過去200万年以降の琉球弧の地質・地理学的発達史と、生物学的起源とその進化の視点から包括的にまとめたものである。これまでは琉球弧の自然史を扱った一般教養書であり、しかも専門的内容をもつ書物は、「琉球弧の地質誌」(木崎甲子郎編 1985)をはじめとして数多く出版されている。しかし、上記のような琉球弧の特色に焦点を当て、その自然史を包括的に扱った書物は始めてといっておくべきでない。

本書は3部から構成されている。それぞれの部のタイトルは

- 部が「琉球弧の成立と古地理」、
- 部が「琉球弧への生物の渡来」、そして
- 部が「現世生物のルーツ」である。

第1部は、1) 琉球弧の形成史と古地理の復元、2) 琉球弧の南海域に琉球弧とほぼ平行に分布する沖縄トラフ南西部の詳細な海底地形と、そこに分布する火山および熱水活動、3) 現在の琉球弧のテクトニクス、4) 古

生物学的視点から解釈された琉球弧の古地理、から構成されている。第2部は、1) 沖縄から産出する古生物、2) 琉球列島の古脊椎動物相とその起源、3) 琉球列島の第四紀地史と動物の渡来、4) 琉球列島の古砂丘より産出する後期更新世陸産貝類化石群集、から構成されている。そして、第3部は、1) 琉球弧の多足類分布の特性、2) 琉球列島の陸産および淡水産甲殻類の成り立ちと起源論、3) 古地理の再構築への現世生物学にもとづくアプローチの強みと弱点、4) イリオモテヤマネコとツシヤマネコの琉球弧および対馬への渡来、から構成されている。各項目の執筆者はそれぞれの関係分野の第一人者であり、最新のデータを用いて従来の説にとらわれることなく自説を展開しており、極めて新鮮であり、かつ興味深い。しかし、後書きでも述べられているように、第一級の研究テーマを、各執筆者が独自の解釈を展開するため、統一的理解に達するにはいたっていない。それは琉球弧の古地理の復元が地質・地質学的アプローチと、生物学アプローチで異なる点である。その理由は、いろいろ考えられるが、2つの分野で古地理復元の解像度が年代・地形学的な意味合いで異なることに起因しているかもしれない。また大陸、島、海洋の境界が2つの分野で本質的に異なること、さらに、海水準変動および地殻変動の解釈に必要な十分なデータが不足しているためかもしれない。

今後はさらなるデータの取得と、関係分野での総合的な解釈により、新たな発展が期待される。その意味で本書は本質的な問題提起として位置付けられるものである。

最後に、充実した索引が巻末に、さらに「琉球弧及び周辺海域の表層地質図」が付図として用意されており、本書を理解する上で、また利用の面でおいに役立つものと考えられる。

(徳山英一)

### 岩手の温泉を探る

島津光夫 著



一関プリント社 2002年4月発行 A5  
版 171p 定価1000円(税込)

多年暮した新潟県の温泉について「新潟温泉風土記」(紹介 News誌2002年2月号掲載)を書いた島津さんが、つづいて故郷岩手県の温泉をまとめた。グリーンタフ地域の地質・岩石に関するすぐれた研究をふまえ、その余録として温泉の科学的著書を出されたことに敬意を表したい。

その構成はほぼ前著と同じく、まず古文書から説きおこし、主な岩手県の温泉の各論をのべ、一関付近を例にとり、グリーンタフ地域と非グリーンタフ地域の生成と、温泉との関係のべる。なお、宮沢賢治の温泉めぐりの秘話を愉しい。

新潟では油田・ガス田に関連する温泉が多いのに対し、岩手ではそれらは0で、代わって第四紀火山地域を主とした「十和田・八幡平国立公園」や「栗駒国立公園」内に温泉が集中することが、もっともいちじるしい特色である。アスピーテ状八幡平火山には藤七、草ノ湯、安比、八幡平などの温泉がある。その南の岩手山はもっとも活発な火山で、頂上にはカルデラがつくられ、その周辺には松川、赤川、網張などの温泉がある。松川には東日本でもっとも古い地熱発電所が設けられ、さらに葛根田・大沼・澄川にもつくられた。

秋田駒ヶ岳は秋田との県境にあり、周囲に国見、乳頭温泉がある。1970年に噴火したが、カルデラ壁から中央火口丘女岳のストロンボリ噴火がよく観察されるとあって、多くの研究者の外に大勢の一般人で賑わった。私は小火口からドロドロの溶岩塊が噴出する状況をスケッチしたが、週刊誌に「スケッチをするノンポリ組」と書かれ(無記名で)、苦笑したことを思い出す。閑話休題

「栗駒国立公園」は、岩手・宮城・山形・秋田の四県にまたがるが、一関に近い須川温泉が最大、最古(926年発見)で、毎分6トン以上の温泉を湧出している。なお宮城県側の荒雄岳には、鬼首温泉があり、間歇泉が吹き上げ、地熱発電所も運転されている。

終わりの「栗駒火山とその噴火史」では従来調査資料の乏しかった栗駒火山について、新しく調査をすすめて噴火史をまとめ、将来の活動に対処すべき道を述べている。

最後に「名勝・天然記念物『巖美溪』」について、その成因を考察しているのが興味深い。

「おわりに」に書かれた一節「郷里だからひいき目なのかもしれませんが、岩手にはまだ落ち着いた昔からの風情が残っている温泉が多いようです」がどうやら愛郷心に富んだ島津さんの結論のようだ。

「もっとも温泉好きな国民」と自認しながら「日本には温泉に関する科学的な本が欠けている」と嘆く人々に、新潟・岩手の両書の一読をすすめたい。

本書は以下の構成からなる。

- まえがき
- 岩手の温泉
- 一関から須川温泉にかけての地質
- 温泉の成因

温泉探しの方法  
栗駒国定公園の温泉  
栗駒火山とその噴火史  
名勝・天然記念物「厳美溪」  
おわりに

(八木健三)

## 地震予知研究の新展開

長尾年恭 著



〔近未来社 2001年2月発行 定価2381円〕  
〔ISBN : 4906431127 A5判 210頁〕

本書は電磁学的な地震予知研究を中心にし、現在研究が進められている地震予知手法

を幅広く紹介したものである。

従来地震予知といえば地殻変動や前震などの力学的な変動を観測する手法が主であり、本書で述べられているような研究はどちらかといえば傍流であった。しかし、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに徐々に見直されるようになった。これらの豊富な研究・観測事例を基に議論を展開している本書は注目に値するものである。

次に本書の内容を簡単に紹介する。

第1章 いつ・どこで・どのくらいという地震予知の範囲を明確にする必要性を述べ、長期・中期・短期予知には、それぞれに適した予知手法と対策があるとしている。

第2章 阪神・淡路大震災の発生前後に観測された異常現象について述べている。例えば、地下からの電磁気パルスの放出、電波の伝播異常、地下水の異常といったものである。

第3章 地震予知に関する基礎的な知識をまとめている。

第4章 本書の主題ともいえる地震の電磁気学的予知研究について述べられており、最も多くのページが割かれている。VAN法などの手法が詳細に述べられ、その現象のモデルにも触れている。VAN法は地震発生の数日から数週間前に地電流に起こる変化を捉える方法で、岩石破壊直前に一時的に起電力が生じるといふ固体物理学の理論を地震予知に応用したものである。この方法は80年代からギリシャにおいて行われ、実績をあげてい

るが、その有効性や応用性について未だ議論が多い。

第5章 ロシアと中国における地震予知の試みと、GPSによる地殻変動測定や地球化学的測定、サイレント・アースクェイク、マイクロプレートモデルなど地震予知に関連する新たな知見や手法を記述している。

第6章 地震予知と社会との関係、そして最近始まった2つの研究について述べられている。

おわりに 研究成果の利用、すなわち実際の地震予知にあたり注意すべきことを述べている。特に認知バイアスの問題は、地震予知研究にとどまらず、科学全般のデータ解析において考慮しなければならない問題である。

本書を通してみると、関連するトピックの配置などにやや分かりにくい部分もあるが、地震予知に関連するさまざまな研究に対し広い視野を持ち、それぞれを正しく評価しているという姿勢は高く評価できる。

これらの研究領域は、実際にはまだ始まりの段階にある。観測された現象が本当に地震の前兆であるのか検討すべき余地も多い。しかし、だからこそ非常に興味深い分野であり、本書は多くの人をひきつける魅力を持っている。さらに、電磁気学的な研究のみならず、最近の地震予知研究全般について一通り見渡せるため、地震予知に興味を持つ人たちにあって良い入門書である。

(庵尾浩司)



## 新版地質図・報告書類

### 50万分の1活構造図11「京都」(第2版)説明書

水野清秀ほか著

〔産業技術総合研究所地質調査総合センター、2002年3月18日発行、A4版、50p、4葉、定価3600円〕

本図は、昭和58年(1983年)に発行された第1版を19年ぶりに全面改訂して作成されている。第1版が刊行されて以来、1995年に発生した兵庫県南部地震以降、活断層や地下構造の調査が精力的に行われるようになり、大量の新しい情報が蓄積されてきた。特に、本図幅がカバーする範囲は、日本列島でも有数の活構造の集中地帯の一つである近畿トライアングルの主要部分にあたる。

本図幅は図幅内に分布する活構造の評価について、最新の資料をふまえて網羅的に集成されている。また、狭義の「活構造図」に加えて、地震と活構造との関係を示した「地震構造

図」、重力と活構造の関係を示した「重力構造図」、歴史地震や考古遺跡に見られる液状化跡や地すべり・地割れ跡の分布とともに最近1万年間に活動した活断層を示した「古地震データ図」が作成され、全部で4葉からなる総合的な活構造図となっている。

付随する説明書は上記の4葉の図面と対応して、以下の4章からなっている。

活構造図：1. 地質区分 2. 構造要素 3. 活断層の分布 4. 活断層データ一覧表

古地震データ図：1. 主な歴史地震による強震動域 2. 地震の痕跡 3. 最近の1万年間に活動した活断層 4. 古地震

地震構造図：1. 表示した地震 2. フィリピン海プレート上面の深さ 3. 微小地震の分布 4. 明治時代以降の内陸大地震 5. スラブ内地震 6. 明治時代以降のプレート境界の巨大地震

重力構造図：1. ブーゲー異常の等重力線 2. 重力基盤の等高度線 3. 重力異常と構造要素との対応 4. 断層構造と重力の急勾配構造 5. 浅部構造と残差重力図

活構造図については、明治以降に地震に伴って活動した地震断層と後期更新世以降に活動したものととの区別がなされているほか、平均変移速度の評価も加えて表示されている。説明書には、活断層のグルーピングが行われ

起震断層の設定と其中での活動セグメントの区分が行われている。古地震データ図には、現在までに知られている地震の中から、被害の大きな代表的なものについて気象庁震度階級6以上の範囲、さらに液状化などの痕跡の確認箇所、活動した断層が色分けされて示されている。説明書では近世以前の大地震の概要が考古遺跡の資料やトレンチ調査結果に基づいて説明されている。地震構造図では、活断層の分布に重ねて、マグニチュード・震源深さで区分された震央分布とフィリピン海プレート上面の等深度線が描かれている。説明書では、明治以降の大地震の概要がまとめられている。重力構造図には、活断層の分布とともにブーゲー異常、重力基盤高度が等高線と色分けされて示されている。説明書には、ブーゲー異常をもとに評価された水平一次微分図などが示され、基盤高度のギャップの大きな箇所が概念的に評価されている。

現在もなお、各自治体を中心として活断層評価、地下深部の構造探査が進められ、地震被害想定シミュレーションがなされようとしている。本図幅は、地形だけでなく表層地質、トレンチ調査結果、地下構造調査結果などをふまえた評価が集成されていることから、これらの作業を進める上での基礎資料として利用され得るとみられる。

(三田村宗樹)





第1図. パンゲオ・オーストリア のロゴ.

オーストリア地球科学会議  
「パンゲオ・オーストリア」参加報告

オーストリア地球科学会議が2002年に新しくパンゲオ・オーストリア (Pangeo Austria) として発足した。第1回目 (パンゲオ・オーストリア : 第1図) は2002年6月28日から30日にかけて、ザルツブルグ大学理学部にて行われた (第2図)。今回の会議はオーストリア地質学会およびザルツブルグ大学地質学古生物学教室が主催し、地球科学研究者協会ゲオ・オーストリアおよびオーストリア測地学委員会が協賛した。参加登録料は2002年4月10日までの登録者が70ユーロ、4月10日以降の登録者は90ユーロであった。学生はそれぞれ半額の登録料であった。日本の学術大会の参加費に比べて割高であるが、登録者には講演要旨集と簡便な学会鞆が与えられ、さらに初日の夜に行われた懇親会の料金も登録料に含まれている。ヨーロッパの学術大会にはスポンサーがつきもので、パンゲオ・オーストリアにも5つの会社および1大学のスポンサーがつき、期間中の会場には広告が貼られていた。

オーストリアの学会が主催しているのでオーストリア人が参加者の中で多数を占めるが、外国からの参加者もかなりの数に昇る。講演要旨の筆頭著者の所属国を調べてみると、オーストリアがのべ181人で7割を超え、そしてドイツがのべ44人で2割弱である。したがって9割以上の発表者がドイツ語圏に所属する。その他の国からの発表者としては、イタリア、チェコ、スイス、スロバキアからの参加者が比較的多い。使用言語はドイツ語もしくは英語であるが、ドイツ語圏以外の参加者が多いトランスアルプなどのテーマ会議では、英語の使用に限定する場合もあった。全体を見てみると、特にドイツ語での発表が多いとは限らず、英語の発表もかなり多い印象であった。ドイツ語圏の研究者にとってドイツ語と英語の切り替えはさほど苦ではないらしく、参加者の顔ぶれを見てから英語で発表するかドイツ語で発表するか決めるような場面もあった。

初日の6月28日の午前中は本会議場での開会式に引続き、今日のホットな話題に関する招待講演8件が行われた。代表的なものにアルプス山脈の地下構造断面に関する講演が3件と目立った。また日本の造山論の教科書執筆で知られる Sengör 氏の講演「大陸地殻の起源と構造」では、日本列島の付加体形成過程に関する話題提供も含まれ、筆者にとって特に印象深かった。28日午後の講演は3会場に分かれてテーマごとの口頭発表が行われ

モンタン大学レオーベン・鈴木寿志  
た。

二日目の6月29日も午前中は本会議場のみで招待講演10件が行われた。招待講演は、オルドビス紀末の大量絶滅、アルプス山脈の構造発達史、東ヨーロッパの火山活動、南米コロンビアでのトンネル掘削の話題など多岐にわたった。29日午後は3会場に分かれてテーマごとの口頭発表が行われた。

三日目の6月30日は午前・午後を通して4会場でテーマごとの口頭発表が行われた。昼休みにはサッカーの世界・カップ決勝戦 (ドイツ対ブラジル) のため、参加者の多くがテレビの前に釘付けになる一幕もあった。

ポスター発表は初日にほぼすべてのポスターが貼られた。ポスター会場にて議論ができるように、口頭発表の休憩時間は午前と午後それぞれ30分から1時間と長めに設定されていた。三日目の午後の休憩時間には、最もよいポスターを参加者の投票で決める「ベスト・ポスター賞」の発表があった。受賞者には記念品としてパンゲオ・オーストリアのTシャツが贈られた。

招待講演以外の口頭・ポスター発表はいずれもテーマごとの小会議形式をとっている。小会議は限定的な課題を扱うテーマ会議 (Thematische Sitzungen: TS と略される) とそれよりも広範囲な分野を扱うオープン会議 (Offene Sitzungen: OS と略される) に分かれている。いずれの発表もこれら2つの小会議のいずれかに属する形式を取っている。以下にパンゲオ・オーストリアで行われた小会議のテーマを示す。

1. テーマ会議

- TS 1 : 構造運動の測地学
- TS 2 : トランスアルプ: 東アルプスの構造発達史における意義
- TS 3 : アルプス型造山運動の形成機構: 天然の実験室の利用
- TS 4 : 構造運動の指標とテクトニクスへの応用
- TS 5 : 東アルプス, 西カルパート山脈, パノニア盆地の地球物理学と地質動力学: PANCARDI の成果
- TS 6 : ボヘミア地塊の地質
- TS 7 : 中央アジアの地殻構造
- TS 8 : 北部石灰アルプスのジュラ系
- TS 9 : オーストリアの新第三紀堆積盆地地質動力学, 地球熱学, 炭化水素胚胎量
- TS 10 : 山地地形の形成

- TS 11 : オーストリアの資源
- TS 12 : 変成岩岩石学: 室内実験と野外調査
- TS 13 : 地球科学と地学教育における広報活動
- TS 14 : 第四紀地質学
- TS 15 : 化石を用いた環境復元
- TS 16 : 欧州水文機構令による地下水保護と汚染評価
- TS 17: 科学史

2. オープン会議

- OS 1 : 鉱物物理学
- OS 2 : 土木地質学
- OS 3 : 水文および環境地質学
- OS 4 : 情報地質学
- OS 5 : 応用鉱物学
- OS 6 : 自由テーマ

上記の小会議の中でも特にアルプス山脈の層序や地殻構造を扱ったテーマが講演数も多く、盛況であった。TS 2のトランスアルプでは国際的な研究グループが組織され、アルプス山脈の地殻構造を系統的に把握しようという試みがなされていた。

会議の開催期間前後には、以下の7つの巡検が行われた。

- 巡検1 : ゴザウ層群 (上部白亜系 古第三系) の模式地における堆積盆地形成機構
- 巡検2 : モラッセ帯とその炭化水素探掘の可能性
- 巡検3 : 南ボヘミア底盤の花崗岩類 (オーパーエースタライヒ州)
- 巡検4 : パステルツェ氷河の構造地質学
- 巡検5 : 北部石灰アルプスの放散虫堆積盆地の発達過程
- 巡検6 : タオエルン地窓の高圧変成岩
- 巡検7 : 地下水 (その汚染の可能性) ツェベルボーデン苦灰岩カルストにおける評価 (ライヒラーミング, オーパーエースタライヒ州)

これらのうち筆者が参加した巡検5は、参加者数12名で、一泊二日の日程で行われた (第3図)。主にザルツブルグ周辺の北部石灰アルプスの珪質岩相を観察した。観察地点は車で簡単に近づけないため、林道入口まで車で行き、そこから徒歩でまわることとなった。巡検初日はランマー谷のシュトゥルペル層を、二日目はハライン周辺のジレンコプフ層とタオグルボーデン層を観察した。北部石灰アルプスは造山運動の古典的フィールドであるが、巡検では近年の新しい層序学的データを加味した解釈について、多くの議論が交

わされた。

近年のヨーロッパにおける地球科学を取り巻く環境は決して良い状況にない。ドイツの大学では、いくつかの地球科学教室が近い将来閉鎖されると聞く。このような中での新たな

なパンゲオ・オーストリアの発足である。ヨーロッパにおける地球科学の情報交換の場として今後の発展が望まれる。特にアルプス型造山運動と日本のような沈込み域での造山運動との比較の点からも、今後注目すべき会議

の一つに挙げられる。次回のパンゲオ・オーストリアは2004年にオーストリアのグラーツで開催される予定である。



第2図：会場となったザルツブルグ大学理学部。



第3図：北部石灰アルプス巡検参加者。タオグルボーデン層の模式地にて。

## IUGS-COGEO-International Geoenvironmental workshop 2002 in Japanのお知らせ

名称：IUGS-COGEO-International Geoenvironmental workshop 2002 in Japan

目的：COGEOENVIRONMENT (IUGS) (コジオエンバイロメント)の年会在日本で開催され、世界の環境地質研究者が来日する機会を捉え、日本の環境地質関係者との交流を行うとともに、コジオエンバイロメントで力を入れており、その取組みが日本においても今後重要になっていく医療地質についての認識を深める。同時に、この機会に地質環境の巡検を実施して、外国及び日本の参加者に現在の日本における環境地質問題の認識を広めていく。

日時・内容

- (1) 2002年11月16・17(土・日)地質環境  
野外巡検  
水循環、湧水、地盤沈下、地質汚染、廃棄物、その他。
- (2) 2002年11月20・21(水・木)医療地質  
ワークショップ  
医療地質ショートコース(18日 19日)  
ヨーロッパで提唱され、大きな反響を呼んでいる医療地質について、その提唱者の一人である、スウェーデン地質調査所のオレ博士や、その実践に力を入れているアメリカ地質調査所のボブ博士、アメリカ陸軍病理学研究所のホセ博士を講

コジオエンバイロメント・日本委員会・古野邦雄  
師に招いて医療地質とはなにか、その果たす役割はなどについて大いに話してもらおう。

場所：野外巡検(東京近郊)および医療地質ワークショップ(千葉県浦安市)

主催：

上記の(1),(2)については以下の団体の共催となります。

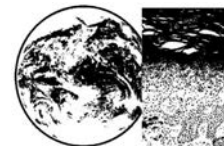
(NPO) 売買対象地質汚染調査浄化研究会  
コジオエンバイロメント・日本委員会  
茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター  
日本地質学会環境地質研究委員会  
COGEOENVIRONMENT (IUGS),  
IUGS

アメリカ地質調査所  
アメリカ陸軍病理学研究所  
医療地質国際ワーキンググループ  
ユネスコ

(3) 2002年11月18・19(月・火) COGEO-ENVIRONMENT (IUGS) 2002年・年会

上記の(1),(2)の行事の間にコジオエンバイロメントの2002年・年会を行う。この年会はCOGEOENVIRONMENT (IUGS) が主催する。

なお、(2)の医療地質ワークショップについてプログラムを含む案内(英文)が作成され



Environmental and health effects of toxic elements, metal ions, and minerals

### MEDICAL GEOLOGY 2002 & WORKSHOP METALS, HEALTH AND THE ENVIRONMENT

November 20-21, 2002  
Chiba, Japan  
Urayasu Brighton Hotel

ていますので、希望される方は下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ：これら一連の行事の実施に当たり、実行委員会が組織されています。問い合わせは下記実行委員会まで。

茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター 気付

IUGS-COGEO-International Geoenvironmental workshop 2002 in Japan 実行委員会

榎井久(実行委員長)

email: nirei@mito.ipc.ibaraki.ac.jp

古野邦雄(事務局長)

email: furunok@bekkoame.ne.jp

## 都城秋穂会員の学士院受賞について

2002年6月10日に都城秋穂会員が平成14年度学士院賞を授賞されました。

課題は「変成作用の理論的研究およびそのテクトニクス論への寄与」です。都城会員が高齢でかつ遠隔地におられるため授賞式に出席できないので、ご本人と会員の方のお勧めで坂野が代理で証書とメダルを受領しました。そこで私が都城会員の研究についての紹介記事を書くことにしました。



都城秋穂会員は1920年生まれ、東京大学、Lamont-Doherty地質観測所を経てニューヨーク州立大Albany分校を1990年に退職され現在同校の名誉教授です。

都城会員の研究は変成岩岩石学から始まっていますが、初期の功績には韓半島の辰山のペグマタイト（？ドルーズ）に藍晶石が産することから、当時変成岩研究の主流であったストレス鉱物の概念に反対し、造岩鉱物の多様性は変成作用の温度・圧力の多様性を表すとの考えに到達した。彼はこの考えに基づき阿武隈変成帯を研究し、また領家変成帯、三波川変成帯を研究する後輩の研究を指導した。その結果それ以前広域変成作用でスコットランド高地やアパラチア変成帯を典型とする正規変成作用と呼ばれたものは、実は多様な変成作用の型（温度・圧力）の一つである事、それらの型は造山運動自身の多様性を表していることを示しているという考えに到達した。さらに高圧変成帯は海溝から（現在の用語で）サブダクションした海溝堆積物が変成したことをみぬいた。そしてその大陸側にある領家帯で代表される低圧変成岩は海溝の大陸側に発達する火山弧に対応する“対の変成帯”の概念を提案した。そしてこれは日本列島でばかりでなく世界の弧状列島について成り立つことを示した。彼のこの考えはその後引用数が多くCitation Classicの一つとされた。この研究は当時発展中のプレート・テクトニクスで地球物理的な考えと地質学的な考えを融合する重要な接点となり、2つの分野の地球科学が継ぎ目なく協同する契機を作った重要な貢献であった。

1965年にアメリカに渡った都城会員は、当時遅れていた海洋底の火成岩の岩石学的研究に従事し、海嶺や深海底の玄武岩がソレライトであることを示し、また中央海嶺の断裂帯から採取された岩石の研究から、海洋底の岩石の多くが海嶺を循環する熱水と反応し様々な低圧変成岩に変化している事を認め、海嶺の岩石学的構造を提案した。またオフィオライトのなかには島弧起源のものがあるという考えを提唱して、世間の常識に挑戦し、さらに西太平洋地域の縁海の年代が南から北に若くなることはプレート・テクトニクスからは簡単に説明できない事を指摘し、プレート・テクトニクスをさらに超える発想の重要性を指摘した。

都城会員は日本地質が学会賞をはじめ、アメリカ地質学会のArthur L. Dayメダルなど数々の賞を国内外から受けておられる。

都城会員が授賞の際に自身の今までの研究の方針をのべた文章を預かっており、その配布について都城会員の了解を得ているので希望の方は右記までご連絡ください。Banno.shohei@schist02.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

なお地質学会員で学士院賞を受けられた方松本達郎（1969年）と久城育夫（1982）であり、両氏は学士院会員でもありません。

（坂野昇平）

平成14年度の学士院受賞については、日本学士院ホームページ<http://www.japan-acad.go.jp>をご参照下さい。都城会員の受賞理由等も掲載されています。

### おねがい

会員の受賞等の情報をニュース誌編集委員会までお知らせ下さい。多くの方に周知いただけるよう、おおいにニュース誌に掲載させていただきます。会員の皆様のご協力と情報提供をお願いいたします。

（ニュース誌編集委員会）



## 箱根町大涌谷自然科学館の役割の存続を！

### 「火山の国日本の箱根シンポジウム(仮題)」の開催とその意味

箱根火山シンポジウム企画実行委員会

箱根町議会では6月13日に町立大涌谷自然科学館を、今年度いっぱい閉館することを決定しました。この決定は、町公営事業計画審議会から昨年暮れ、費用対効果などを理由に「廃止はやむを得ない」との答申が出されたことをうけ、町議会で決定されたものです。

日本地質学会と日本火山学会、全国火山系博物館連絡協議会などでは、大涌谷自然科学館の閉館の可能性を知り、今年3月に存続要望書を町長あてに出しましたが、結果としてかなえられませんでした。

町長は質疑の中で「大涌谷に火山、地震、温泉などの調査研究や学習の場及び観光スポットとしての施設が必要」との答申の付帯意見を十分尊重するとの答弁を行い、レクチャールームやビジターセンター的役割を持つ「学習の場」の提供や大涌谷自然研究路の整備などを検討すると述べました。

箱根町立大涌谷自然科学館は、箱根火山の形成や箱根の自然について箱根を訪れる一般の人たちが実際の火山の中で学習できる施設であり、昭和47年に開設以来、国内外の700万人以上の来館者に対して、火山や自然についての自然体験教育の学習資料を提供してきました。そして、火山の現場の博物館として、火山の形成と火山災害についての普及・研究両面ではもちろん、神山火山の火山活動の観測地の一つとしても、日本を代表する「火山博物館」として国内的にも国際的にも大きな役割をはたしてきました。

同館の果たしている学術・普及両面での大きな役割を考えると、閉館ということは大変残念です。しかし閉館しても、新たな火山学習と研究機能をもった施設の必要性を理解していただき、その設置を町に対して強く要望していかなくてはならないと考えています。

そこで、箱根町立大涌谷自然科学館がこれまで果たしてきた役割とこれからはたさなくてはならない目的を箱根町の方々に理解していただき、箱根町の人たちとともに新たな箱根火山の火山博物館のあり方を考えるために、箱根町で今年の12月14日と15日に、「火山の国日本の箱根シンポジウム(仮題)」を開催したいと考えています。このシンポジウムは日本地質学会をはじめ日本火山学会、全国火山系博物館連絡協議会などのご協力でぜひ成功させたいと思います。

このシンポジウムの内容については、以下に示します。12月14日(土)はシンポジウムを行い、12月15日(日)に箱根火山の地質見学会を行います。

### 「火山の国日本の箱根シンポジウム(仮題)」

日時 12月14日(土) 13:00 ~ 16:30

会場 箱根町立仙石原公民館(仙石原文化センター) 講堂

#### 第一部 「箱根火山をもっと知ろう」

1. 箱根火山はどのようにしてできたか 最近の考え方
2. 箱根火山最新期の活動 神山・大涌谷・芦ノ湖の生い立ち
3. 2001年の火山性地震と地殻変動 生きている箱根火山

#### 第二部 「火山と人間の共存」

パネルディスカッション

箱根火山シンポジウム企画実行委員会

高橋正樹(委員長)・伊藤和明・三松三朗・柴 正博・阿部国広・会田信行・池田伸一郎・佐藤 公・小山真人・小林 淳・先山 徹・赤羽久忠・三田直樹

なお、このシンポジウムの詳細や箱根町立大涌谷自然科学館の役割の存続に関する情報は、以下Webページでご覧になれます。

<http://www.akina.ne.jp/bandaimu/ooowaku.htm>

また、シンポジウムを成功させるための募金活動(一口2000円)も行っておりますので、ぜひご協力ください。

郵便振替口座番号: 00870-2-106433

振込口座名: 箱根火山シンポジウム企画実行委員会

## 列島各地から

列島各地からの発信をめざし、各地の通信員の方からお寄せいただいた地球科学に関係したいろいろな記事を掲載したコーナーです。

### 愛媛の地学研究第6巻が刊行

鹿島愛彦(愛媛)

愛媛の地学研究 第6巻第1号が刊行されました。

本号は、昨(2001)年11月21日に逝去された元日本地質学会会員・愛媛大学名誉教授永井浩三先生の追悼記念号として刊行された

ものです。内容は、

弔辞

業績(退官記念号以降のもの)

愛媛の地学(第1号~第8号)目次

永井浩三先生の思い出(高橋 和・森貞

聡・繁永睦夫・芝 光恭・常磐井守興)

永井浩三先生と中央構造線(高橋治郎)

洞穴地質学の先駆者永井浩三先生(鹿島

愛彦)

河跡湖(千葉 昇)

芸予に起因した地すべり現象について

(篠原俊憲・武智賢樹・鹿島愛彦)

芸予地震(2001)による地下水位の変動の

記録(鹿島愛彦・林原俊憲)

本号についてのお問い合わせは下記まで。

〒790-8577 松山市文京町3

愛媛大学教育学部地学教室内

愛媛地学調査研究会 宛

電話 089-927-9438 Fax 089-927-9397

## 委員会だより

### 環境地質研究委員会

#### シンポジウム「地質汚染と土壌汚染対策法」 のお知らせ

新潟での地質学会総会・学術講演会が行われる前日の9月13日(金)に新潟市内にて以下のようなシンポジウムを行います。1日早く新潟にお集まりいただきご参加ください。

主催：日本地質学会環境地質研究委員会

共催：財団法人環境地質科学研究所

場所：(財)新潟自治労会館 会議室

日時：平成14年9月13日(金)10:30～17:00

参加費：3,000円(資料代を含む、予定)

#### 主旨：

現在地質圏(大地)の汚染に関する法律は、地下水については水質汚濁防止法、地層(土壌層を含む)については今国会を通過した土壌汚染対策法と別々にある。一般にTCEなどの有害な揮発性の比重の大きい液体が工場などで使われ地下に浸透していく場合、最初に土壌層をはじめとした地層の粒子に吸着される。次に、汚染物質が地下水面に到達すると地下水汚染を引き起こす。また、不飽和帯の地層中に留まった汚染物質は移流し地下空気汚染を引き起こす。一方、逆に地下水汚染が地層汚染を引き起こしたり地下空気汚染が地層汚染を引き起こしたりもする。このように地層汚染、地下水汚染、地下空気汚染の各現象は相互に関連しているため、個々ばらばらに扱うのではなく、地質汚染として総合的観点から全体の汚染現象を解明していかなければならない。法律で浄化・無害化を強制されていないからといって地層汚染や地下空気汚染を放置しては地質圏の汚染問題、特に地下水資源の保全上問題である地下水汚染はいつまでたっても解決しない。また、このような全体像を明らかにしない調査のため、十年近く汚染地下水を汲みつけているにもかかわらず地下水汚染濃度がいつまでたっても下がらないとい

った現象が日本各地で報じられている。今回のシンポジウムでは、これらの問題に焦点を当て完全浄化にいたる道筋について議論していく。

#### プログラム

- 10:30 開会
- 10:30 地質汚染学の基本と完全浄化の例  
楡井 久(茨城大学広域水圏環境教育研究センター地質環境部門)
- 11:30 さまざまな浄化手段の実例  
上砂正一(明治コンサルタント)
- 12:00 <昼食>
- 13:00 地質汚染現場における機構解明調査法  
岩本広志(関東天然瓦斯開発(株))
- 13:30 千葉県内の地質汚染機構解明とこれに基づく浄化対策の例  
楠田 隆・風岡 修(千葉県環境研究センター地質環境研究室)
- 14:00 市町村での地質汚染対策事例 野田市の例  
高嶋恒太(野田市環境保全課)
- 14:30 民間での地質汚染対策例  
間中理哉(地質汚染診断士,(株)ミヤマ)
- 15:00 <休憩>
- 15:40 新潟県内での地質汚染の状況と対策  
鈴木 典子(新潟県長岡健康福祉環境事務所環境センター環境課)
- 16:10 土壌汚染対策法の問題点  
鈴木喜計(君津市)
- 15:10 地質汚染浄化とバクテリア  
難波謙二(東京大学)
- 16:40 総合討論
- 17:00 閉会

詳しくは環境地質研究委員会HP：<http://www.bekkoame.ne.jp/jcenvgeo>をご参照下さい。



環境と地質環境」が発売になりました。

A2版裏表カラー印刷、ハンディータイプでさらにポスターにもなります。

### リーフレットシリーズ・3 好評発売中!! 『大地をめぐる水 水環境と地質環境』

第1作「大地の動きを知ろう  
地盤・活断層・地震災害」、  
第2作「大地のいたみを感じよう  
地質汚染Geo-Pollutions」  
に引き続きリーフレットシリーズ  
第3作「大地をめぐる水 水

ご希望の方は以下の要領でお申込下さい。

会員価格300円 非会員価格400円

申込方法：学会事務局宛に、希望部数を記入し、返信封筒(切手貼付のこと)を入れてお申し込み下さい。

少部数の場合は、代金は切手で同封可。

なお、サイズが横15cm・縦21cm、重さ25g/部ですので、郵送につきましては、以下のようにお願いします。

定型封筒の場合：90円切手貼付。ただし、二つ折りにしての郵送となります。

定型外(15cm×21cm以上)封筒の場合：130円切手を貼付。

東北大学 大学院理学研究科  
地学専攻地圏進化学講座  
井龍・山田研究グループ

浅海竜司 (D2)

< 研究室の概要・特色 >

東北大学大学院理学研究科地学専攻は5つの講座からなり、その1つに地圏進化学講座があります。私達の研究グループはその講座に属しており、井龍康文助教授(専門:古環境学・古生物学・炭酸塩堆積学)および山田努助手(専門:古環境学・同位体地質学・炭酸塩地球化学)の二教官と、博士課程後期4名、博士課程前期5名、学部学生4名の計13名の学生で構成されています。私達のグループは、さまざまな時間スケールの地球環境変動の解明を目指しており、その内容は大きく以下の8つに分けられます。

(1)サンゴ礁の研究:「琉球列島のサンゴ礁における造礁生物の分布状態や、サンゴ礁生態系における炭素循環の解明」。琉球列島の礁から陸棚にかけて分布するサンゴや無節サンゴモの分布状態および現存量・生産量について調査を行い、各生物群集の有機炭素・無機炭素生産量をpH-アルカリ度法などを用いて決定し、サンゴ礁生態系全体の炭素循環像を明らかにしています。

(2)堆積学的・層位的的研究:「琉球列島とその周辺海域における第四紀気候変動とサンゴ礁複合体堆積物の形成過程の解明」。現在、熊本大学の松田研究室とともに、鹿児島県喜界島から沖縄県と那国島に分布する琉球層群の地質に関する網羅的研究計画を遂行しています。本年4月には、将来、統合国際深海掘削計画(IODP)の中で、琉球列島周辺海域における海洋掘削が行われるよう、iSASにプロポーザルを提出しました。これらの陸上~海域の地質データを総合することによって、琉球列島における、第四紀の海洋環境変動に対応したサンゴ礁の時間的・空間的発達過程が明確になると期待されます。

(3)同位体地質学的・堆積学的研究:「環礁性炭酸塩岩の堆積過程(礁の誕生・発達・崩壊のプロセス)およびドロマイト化を含めた続成過程の高分解能復元」。北大東島試錐試料および同島の表層試料を用いて、過去4,800万年間の礁性堆積物の堆積過程・続成過程を100万年~10万年スケールで復元しています。また、ODP Leg194で得られたコア試料を用いた炭酸塩プラットフォームの堆積史・続成史を解明する研究にも取り組んでいます。

(4)古気候学的・物質循環学的研究:「炭酸塩プラットフォーム堆積物から読み取られる過去1億年の地球表層の生物地球化学循環の復元」。白亜紀炭酸塩プラットフォーム堆積物(ODP Leg143)や新生代礁性堆積物(北大東島試錐)をはじめとする様々な地質時代の堆積物中の化学組成、生物群集やその石灰化の様式を比較検討することにより、地質時代の地球表層における生物地球化学循環を解明することを目指しています。

(5)古生物学的・古環境学的研究:「完新世隆起石灰岩に記録された古水深変動の解析による南海地震履歴の復元」。高知県室戸岬付近に分布する完新世石灰岩の中に含まれる多様な生物化石に着目し、その生物種や組成、続成鉱物を詳細に検討することによって、温帯岩礁性石灰岩の形成過程を明らかにするとともに、過去5000年前以降の室戸近海の南海トラフ沿いで発生した地震の履歴を切れ目なく解明することを目的としています。

(6)地球化学的研究:「サンゴ・シャコガイ骨格の同位体組成と、それに影響を与える骨格形成メカニズムの定量的モデルの構築」。サンゴ・シャコガイ骨格を用いた高分解能海洋環境復元法の確立と高精度化を目指して、骨格の同位体組成と骨格形成メカニズムとの関係をより定量化するとともに、モデル計算によるシミュレーションを行うことで、その信頼性を検証しています。



(7)地球化学的・古環境学的研究:「現世・化石サンゴ骨格を用いた熱帯・亜熱帯浅海域の海洋環境変化を復元する研究」。現在、太平洋域(喜界島・石垣島・グアム島・ニューエ島など)で採取された現世・化石サンゴ骨格中の同位体比および金属元素の時系列変化から、過去の表層海水温や塩分変化、日射量といった環境因子を高分解能で復元する研究に取り組んでいます。

(8)同位体化学・古海洋学的研究:「海底堆積物に含まれる有孔虫・コケムシ骨格の炭素・酸素同位体組成に基づいた古海洋環境復元」。沖縄周辺海域のコア試料中の有孔虫化石、ODP Leg182(グレート・オーストラリア湾)で得られたコア試料中のコケムシ化石、スペインSorbas地域のメシナ系に含まれる有孔虫化石の同位体組成などから、新生代の海洋環境を復元する研究を行っています。

以上の研究は、野外調査を主体とするもの(1・2・5)と、室内実験を主体とするもの(3・4・6・7・8)とに分けられます。我々の研究対象は主に炭酸塩岩や炭酸塩骨格をもつ生物であるため、調査はそれらが多くみられる沖縄本島を含む琉球列島が主なフィールドとなりますが、北は青森県の新第三系に含まれる炭酸塩岩まで多岐にわたっています。また、テーマによっては日本に限らず海外へも足を運びます。サンゴ礁の生態系や海洋環境の調査、さらに、サンゴやシャコガイの採取にあたっては、スキューバダイビング・スキューバダイビングで海中調査を行います。これらのフィールド調査は、短い場合だと一週間程度で行うことができますが、必要とすれば一年以上現地へ赴く(移住?)こともあります。採取した岩石試料・コア試料などに関しては、当教室において様々な地球科学的アプローチを行います。それらは、薄片観察や電子顕微鏡観察、XRD, XRF, EPMAを用いた鉱物組成や元素組成の分析、炭酸塩岩類や水試料の炭素・酸素同位体比分析、誘導プラズマ蛍光分光装置による金属元素組成分析などです。化学分析を中心とした研究に取り組む学生は、常に高精度の分析を行うために分析機器を熟知し、メンテナンスはもちろん修理作業も入るよう指導されます(悲しいかな技官はいません...)。このように、野外調査と室内実験から得られた古生物学的・堆積学的・層位的・地球化学的データをフルに用いて、炭酸塩岩の堆積史・続成史や古海洋環境・古気候を多角的視点から復元するという目的を、我々のグループは愚直に追い求めています。

< 研究テーマ >

2002年4月現在、当研究グループに所属する学生の研究テーマを紹介します。

小田原 啓 (D3) 沖縄本島南部地域を主たる調査フィールドとし、層位的・堆積学的調査を行うとともに、造礁生物の種類や組成を検討し、第四紀気候変動に呼応したサンゴ礁の形成発達史を明らか

にする研究を行っています。現在、沖縄本島で半永住の生活を送っており、日々野外調査に励んでいます。

浅海 竜司 (D2) 私は現在、現生造礁サンゴ骨格から炭素・酸素同位体組成や金属元素濃度といった地球化学的情報を抽出し、それらと海洋環境因子との定量的関係を解明する研究を行っています。また同時に、グアム島で採取した長尺サンゴコアを用いて、過去200年以上にわたる ENSO イベントの記録を復元する研究も行っていきます。

大賀 博道 (D1) 私は修士論文として、高知県佐川町の一ツ淵鉱山および同県香北町西の川に分布する石灰岩体について生物相・堆積相を詳細に解析し、その堆積過程を明らかにする研究に取り組みました。現在は博士論文として、堆積学的・地球化学的手法を用いて、礁/炭酸塩プラットフォームがなぜ溺死したのかを解明する研究に挑戦しようと思っています。

藤田 慶太 (D1) 卒業論文では、鹿児島県徳之島北部において第四系サンゴ礁堆積物(琉球層群)の地表踏査を行い、サンゴ礁の形成発達史を明らかにしました。修士論文では、熱帯~温帯域で普遍的にみられる沿岸生態系「海草藻場」の堆積学的研究を、沖縄県石垣島において行ないました。表層堆積物の粒度・組成、海草被覆度の季節変化、年間の塩分・水温といった基礎的データを収集するとともに、自作したセジメントトラップを設置して堆積物流入量の季節変化を明らかにし、簡易ボーリングにより得られたコア試料に基づき堆積構造を把握しました。

五月女 亮 (M2) 東北地方の海岸沿いを歩いていると、よく海面や崖にライン状の突起物を見かけます。その産状や岩石学的特徴、化学組成、炭素・酸素同位体比組成を明らかにし、この炭酸塩/ジュール(特にドロマイトを中心とする)が、いつ、どこで、どのくらいの速度で、どのようにして形成されたのかを、硫酸還元バクテリアの働きに注目して解明する研究に取り組んでいます。

小林 久子 (M1) 造礁サンゴは、その骨格中に生息時の海洋環境を様々な形で保存しています。よってサンゴ骨格を分析・解析することは、環境を復元するために、とても有用な手段であると考えられます。私は鹿児島県喜界島の隆起サンゴ礁から採取した完新世の化石造礁サンゴ骨格を用いて、過去1万年までの表層海水温を復元し、その信頼性を検証する研究を行っています。

鈴木 由香 (M1) 私は沖縄県北大東島のドロマイトの晶出履歴について調べています。卒業論文では、北大東島の地表試料について鉱物組成や炭素・酸素同位体組成の検討を行いました。修士課程では微量元素分析、X線回折分析などを通して、地表試料と試錐試料の関係や、より詳しい北大東島ドロマイトの成因・性質と晶出環境を検討していく予定です。

邊見 紗知 (M1) 日本海大和堆から採取されたコア試料(KT99-14 P.9)に含まれる有孔虫殻の炭素・酸素同位体比分析を分析することによって、過去9万年間の日本海の海洋環境変動を明らかにするというテーマで卒業論文を書き上げました。今後は、修士論文のテーマである「シャコガイの骨格に記録された環境変動解析」に取り組むべく、シャコガイと奮闘中!...になっていく予定です。

山本 和幸 (M1) 卒業論文では、沖縄本島北部地域に位置する本部半島およびその周辺の島々で、広域的な野外精査を一年以上にわたって行ない、琉球層群の層序を明らかにしました。修士論文では、さまざまな地質時代の炭酸塩堆積物に含まれる腕足類化石を用いて、続成作用による炭素同位体組成の改変の解明に挑みます。

杉浦 史門 (B4) ODP Leg194(オーストラリア大陸の北東沖に位置するマリオン海台)で採取されたコアサンプルを用いて、大陸縁辺に発達する中新世炭酸塩プラットフォームの堆積史と続成史を復

元する研究を行っています。ODP Leg133において、クイーンズランド海台とマリオン海台の堆積史が考察されていますが、新たに得られた試料を詳細に検討し、より詳しい地史を編むことができるよう努力しています。

前田 安信 (B4) 高知県室戸岬沿岸一帯に分布するヤッコカンザシを主体とする完新世石灰岩を用いて、温帯岩礁性炭酸塩岩の形成過程について研究しています。

三輪 貴志 (B4) 私は卒業論文で、ニウエ島産造礁サンゴ化石の同位体比記録から古環境を復元する研究に取り組んでいます。現在はまだ同位体比測定の前段階で、サンゴ化石をいかに均一な厚さの板にするか、いかに美しいX線写真を撮るか、といった職人街道を歩んでいます。正確さを求められる細かい作業が多く、集中力をフルに使うので短時間でも結構疲れます。早くデータを出して、古代の海に想いを馳せたいなあ...と思う今日この頃ですが、それはもう少し先の話になりそうです。

村岡 暖子 (B4) 私は卒論で、沖縄本島真栄田岬(沖縄県屈指の観光地です)一帯の地質調査を行い、その一帯に分布する琉球層群を層位学的・堆積学的な角度から検討し、当時の堆積環境の変遷を明らかにする研究を行っています。夏は日差しが非常に厳しいため、なりふり構わぬ日焼け対策+調査道具を身につけて海岸沿いを調査していたら、ダイバーの人に「某国の工作人員ですか?」と尋ねられてしまいました。今夏は、その点に対策を講じつつ、引き続き地質調査に励もうと思います。

「社」の都・仙台。夏は涼しく、冬もそれほど寒くなく、車で30分も行けばゲレンデが広がります。空気も美味しいし、勉学にはモッテコイ!の環境に恵まれ、私たちは日々研究に没頭しております。当研究グループに興味・質問をもたれた方は、浅海(e-mail: ryuji@dges.tohoku.ac.jp)まで、お気軽にメールをください。お待ちしております。

## “ Impressed Paper ” 企画のお知らせ

次号より、“ Impressed Paper ” という企画を始めたいと思います。この企画は、自分が深い感銘を受け、自分の研究方針・研究哲学に大きな影響を与えた論文を、院生コーナー読者に紹介することが目的です。他の研究者がどのようにしてすばらしい論文に出会い、その論文のどのような点に影響を受けているのかわかることは、研究生活を続けていく上で大いに参考になるのではないのでしょうか。投稿する対象者は院生・学生だけでなく、教官にも広げ、若い頃に感銘をうけた論文を紹介してもらいたいと思います。この企画に投稿される方は、自分が感銘を受けた論文のタイトル、掲載誌および年・号・ページ・内容の要約および自分がその論文のどのような点に感銘を受けたのかを1000字以内にまとめて、院生コーナー編集委員へ送ってください。皆さん投稿よろしくお願ひいたします。

常時投稿をお待ちしています。院生コーナーの編集は現在以下の2人でおこなっています。e-mailでいただければ幸いです。  
naruse@bs.kueps.kyoto-u.ac.jp 成瀬 元(京大)  
tomaru@gbs.eps.s.u-tokyo.ac.jp 戸丸 仁(東大)

北海道支部

観察会のご案内

ともに学ぶ自然教室  
十勝清水で地質野外観察 !!

日高山脈と十勝の雄大な平野との間に広がる山麓緩斜面を対象とした野外観察会を開催します。今回は、山麓緩斜面についての講演会（講師；石丸 聡さん）の後、十勝清水地域の山麓緩斜面の調査を進めている十勝の自然史研究会のメンバーの案内で山麓緩斜面の地形や堆積物の特徴を観察し、緩斜面の形成過程についての理解を深めます。

下記の要領で行いますので、多数の方々の参加を期待します。

主催；十勝の自然史研究会 北海道地学教育ネットワーク\*  
後援；清水町教育委員会  
\*構成；日本地質学会北海道支部，地学団体研究会北海道支部，北海道地学教育連絡会

日時；平成14年10月5日（土）10：15～16：00  
日程；10：15に、清水町文化センター2階会議室に集合

10：30～2：00 講演会（同会議室にて）  
「山麓緩斜面の堆積物とその発達史」  
（講師）石丸 聡さん（道立地質研究所）  
12：00～12：50 昼食  
12：50～16：00 野外観察会  
清水地域の山麓緩斜面の地形と堆積物  
（案内）十勝の自然史研究会  
16：00 JR十勝清水駅解散

参加費；無料

必要な物；地層観察を行うための用具の他に、昼食、および雨具  
申込〆切；平成14年9月25日（水）

なお、当日は自家用車で移動しますので、交通（参加）手段が自家用車または、列車かを明記の上、お申し込み下さい。札幌方面からは、札幌発8：02 スーパーとかち1号（十勝清水着10：03）が便利です。

申し込み先；八ガキ，Fax，又はe-mailで、下記までお願いいたします。

〒060-0819 札幌市北区北19条西12丁目 北海道立地質研究所  
八幡正弘 宛

Fax 011-737-9071 e-mail yahata@gsh.pref.hokkaido.jp

（文責；八幡正弘）

東北支部

総会開催のお知らせ

下記の要領で日本地質学会東北支部総会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。議事といたしまして、事務局体制を含め今後の活動方針について主に検討していただく予定であります。ご参集

よろしくお願い申し上げます。

日時 平成14年9月16日（月）12：00～13：00

場所 B4（新潟大会会場内 2F）  
場所の案内は大会会場にも掲示します

（文責；越谷 信）

地学教育のページ

作文コンクール「21世紀を幸せにする科学」(毎日新聞社主催)のお知らせ



すでに情報をキャッチしておられる方や、ポスターなどが送付されていてご存じの方もあろうかと思いますが、つい最近、表記のようなコンクールの情報を入手しましたので、中・高校の先生方にお知らせいたします。

応募に関する詳細は、右記のHPをご覧くださいと思います。となく理系の子どもたちをターゲットにしたものが多い中で、このコンクールでは、文系人間の感性を重視し、評論家ではない「自分で考え」、「自分で何ができるか」

という主体性を持った視点から書かれた「未来を生きる人間が考える作文」が求められているとのことです。部門別には中学生、高校生、の2部門（いずれも個人の執筆のみ）があります。

締切；平成14年9月30日（月）（消印有効），

提出先；毎日企画サービス「21世紀を幸せにする科学」  
事務局 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

夏休み中で難しい面があるかもしれませんが、これはと思う生徒さんたちに呼びかけて応募させてみてはいかがでしょうか。このコンクールについて記されているホームページは次の通りです。<http://www.mainichi.co.jp/info/21sakubun/01.html>



## 執行委員会だより

### 2002年 第13回執行委員会

期 日：2002年6月22日(土) 10:00 ~ 12:00

場 所：北とびあ802号室

出席者：平・徳岡副会長，周籛評議員会議長，  
立石執行委員長，公文・天野・伊藤・渡部・久保・高橋・  
会田執行委員，  
水野(事務局)  
在田評議員会副議長，永広副執行委員長は支部長連絡会議  
に出席。

主な報告・審議事項は以下の通り。

- 1) 第17回国際堆積学会議(2006年)日本招致に際して，同会議の共催を承認。
- 2) 本年末の会員名簿発行に当たり，形式は従来通りとすることとした。
- 3) 高知大学学内共同利用施設「海洋コア研究センター」を全国共同利用施設  
「海洋コア総合研究センター」へ改組する要望書提出を了承した。
- 4) 法人化など，第4回定例評議員会での議事進行，およびその内容について検討した。

### 2002年 第14回執行委員会

期 日：2002年7月22日(月) 13:00 ~ 19:00

場 所：地質学会事務局

出席者：立石執行委員長 公文・天野・伊藤・渡部・久保・高橋・  
会田各執行委員  
徳岡副会長 水野(事務局)

主な報告・審議事項は以下の通り。

- 1) 第109年新潟総会・年会について：7月13日に行事委員会を開催，講演申し込みを整理し，プログラムを作成した。News誌8月号に掲載。講演申し込みは約680件で，昨年より増えた。
- 2) 地球惑星合同大会について：地質学会選出のプログラム委員は七山，久田両氏にお願いすることとした。運営機構のプログラム委員は伊藤から安藤氏に交代していただくこととした。
- 3) 「地質学用語集」について，坂 幸恭会員を委員長とする出版委員会を立ち上げる報告があった。
- 4) 箱根町大涌谷自然科学館に関わって，12月14日(土)箱根町立仙石原公民館でシンポジウム開催予定。
- 5) JABEE委員会について，今年は資源・地質分野で北大工学部

資源，都立大地理，大阪市大地球で試行審査に向け準備中。

- 6) 法人化について：総会に提案する議案はNews7月号に掲載し，若干の経過説明を記述したが，その補足説明について，また，仮に総会で準備委員会設置が認められた場合，どのような手順で早期に立ち上げるのか，など，午前中の委員会の報告を受けて検討した。
- 7) 日本学術会議第19期会員選出の日程について，推薦立候補(締切：11月11日)の会告をおこなうこととした。
- 8) 2003年-2004年の地質学雑誌・ニュース誌の印刷社決定の手続きについて検討し，入札参加希望者に説明会を開き，見積書を取り寄せた上で，次回執行委員会で決定することとした。
- 9) 学会会計処理について，今後継続的に(来年度から)指導を委嘱することに関し，以前に指導をお願いした公認会計士に打診を行った結果，内諾を得られたことが報告され，これを了承した。なお，次回の執行委員会において詳細を検討することとした。
- 10) 2002年度第5回定例評議員会(9月13日)，2003年度第1回定例評議員会(9月14日)の開催通知について検討し，決定した。
- 11) 2003年度以降の実務運営体制等について，資料に基づき，橋辺事務主任，細川・斉藤両事務局員を交えて，これまでの事務局長の仕事を整理し，新しい体制での仕事の内容を確認した。

## 表紙紹介

### 新潟県新津丘陵にみられる火災構造

写真・文

豊島剛志(新潟大学大学院自然科学研究科)

新潟県北部の新津丘陵には多種多様な堆積構造・変形構造が認められる。表紙写真は，それらの中で，五泉市丸田東方に見られる火災構造である。中新統上部 更新統の金津層にあたる，砂優勢タービダイト層中に発達する。極細粒砂~シルトからなる地層が上位の中粒砂層へと移動・貫入している。スケールのレンズキャップは径約5cm。

(写真は色の濃い方(砂，薄茶色)が上で，ラミナの発達した淡い方が下)

新津丘陵は，新潟大会見学旅行「9斑 石油コース」の一部に含まれています。